

山梨県山梨市

中沢遺跡・武家遺跡

—新環状・西関東道路建設工事に伴う発掘調査報告書—

2004年3月

山梨県教育委員会
山梨県土木部

山梨県山梨市

中沢遺跡・武家遺跡

—新環状・西関東道路建設工事に伴う発掘調査報告書—

2004年3月

山梨県教育委員会
山梨県土木部

序

本書は、新環状・西関東道路建設に伴い、平成14年度に発掘調査された山梨市落合に所在する中沢遺跡と同市上岩下に所在する武家遺跡の発掘調査報告書であります。中沢遺跡は本線部分、武家遺跡は本線と交差する市道の切りまわし部分を対象とし、両遺跡合計で約1200m²を調査いたしました。

この2遺跡は、ともに周知の遺跡ではあったものの、これまでいざれも発掘調査されていなかったため詳しい内容が不明なまま散布地と認識されておりました。しかし、事前の試掘調査により、前者は弥生時代～古墳時代の集落、後者は奈良時代～平安時代の集落であることが予想され、いざれも当該地域でこれまで空白であった時代を埋める貴重な遺跡であることが判明いたしました。

調査の結果、中沢遺跡では7軒の住居跡が確認され、集落の存在が裏付けられました。7軒のうち2軒が古墳時代で、他はすべて奈良時代であることがわかりました。奈良時代の集落は山梨市内ではもちろん初めての確認ですが、山梨県全域を見渡してもごく僅かな例しか確認されておらず、きわめて貴重な資料となりました。

武家遺跡では、弥生時代の集落は確認されませんでしたが、古墳時代前期の住居跡と方形周溝墓が確認されました。これまで山梨市内ではこの時期の住居跡や方形周溝墓は確認されていなかったため、甲府盆地北東縁地域の様相を知る大きな手がかりを得たと言えます。

本報告書が地域の方々を始め、多くの方々の学習・研究資料としてご利用いただければ幸甚です。

末筆ながら、種々ご協力を賜った関係機関各位、ならびに直接調査に従事いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

2004年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 渡辺 誠

例　　言

1. 本書は、平成14年度に新環状・西関東道路建設に伴い発掘調査された山梨市中沢遺跡・武家遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は県土木部の委託を受けて県教育委員会が実施した。
3. 発掘調査及び出土品の整理は山梨県埋蔵文化財センターで行い、長沢宏昌・浅川一郎・小林（石神）孝子が担当した。
4. 本報告書の編集は長沢・小林が行った。第1章と第3章・第4章の遺構および第7章を長沢が、第2章を浅川が、第3章・第4章の遺物および第6章を小林（石神）が執筆した。なお、自然化學分析は（株）パリノサーヴェイに委託し、その成果は第5章に示した。
5. 本報告書にかかる出土品及び記録図面、写真等は一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
6. 発掘調査及び本報告書の作成にあたり、山梨市教育委員会三澤達也氏にお世話になった。記して謝意を表する次第である。

凡　　例

1. 遺構・遺物の縮尺は原則として次のとおりである。
〔遺構〕全體図…1：400　　住居跡…1：60　　カマド…1：30　　土坑…1：40
　　遺物出土状況…1：30
〔遺物〕古墳・平安時代土器・拓本…1：3　　石器…1：3
2. 遺物図版中の土器・陶器のうち、断面黒塗りは須恵器を表す。また土器平面図の網掛けは赤色塗彩を表す。
3. 土器観察表中の色調名は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』1999年度版による。
4. 遺構断面中のレベルポイント部分にある数字は標高を表す。

目 次

序

例 言

第 1 章 調査概要

第 1 節 調査に至る経緯	1
第 2 節 調査組織	1

第 2 章 造跡周辺の環境	2
---------------	---

第 3 章 中沢遺跡

第 1 節 遺構・遺物の概要	3
第 2 節 古墳時代の遺構と遺物	
第 1 項 住居跡	3
第 2 項 溝跡	3
第 3 節 奈良時代の遺構と遺物	4
第 4 節 その他の遺構	7
第 5 節 遺構外遺物	8

第 4 章 武家遺跡

第 1 節 遺構・遺物の概要	9
第 2 節 弥生時代の遺構	9
第 3 節 古墳時代の遺構と遺物	
第 1 項 住居跡	10
第 2 項 方形周溝墓	10
第 3 項 竪穴状遺構	12
第 4 項 土坑	12
第 5 項 溝跡	13
第 4 節 その他の遺構	13
第 5 節 遺構外遺物	13

第 5 章 自然化学分析	16
--------------	----

第 6 章 考察	23
----------	----

第 7 章 まとめ	26
-----------	----

挿図目次

図版目次

第1図	遺跡位置図	34	図版1	中沢遺跡作業風景・1号住居跡・ 2号住居跡
第2図	中沢遺跡位置図・全体図	35	図版2	2号住居跡・4号住居跡出土状況
第3図	1号住居跡・2号住居跡	36	図版3	6号住居跡・1号溝跡遺物出土状況
第4図	3号住居跡・4号住居跡	37	図版4	武家遺跡作業風景・住居跡・竪穴状遺構
第5図	5号住居跡～7号住居跡	38	図版5	1号方形周溝墓・同遺物出土状況・ 2号方形周溝墓
第6図	1号土坑～7号土坑	39	図版6	中沢遺跡1号住居跡・2号住居跡遺物
第7図	1号溝跡・2号溝跡	40	図版7	中沢遺跡4号住居跡遺物
第8図	1号溝跡出土土器平面図・ 3号溝跡・4号溝跡	41	図版8	中沢遺跡6号住居跡・1号溝跡遺物
第9図	5号溝跡・6号溝跡	42	図版9	武家遺跡住居跡・1号方形周溝墓・ 2号方形周溝墓遺物
第10図	5号住居跡・7号住居跡・ 1号溝跡出土遺物（1）	43	図版10	中沢遺跡炭化材
第11図	1号溝跡出土遺物（2）	44	図版11	武家遺跡木材（1）
第12図	1号溝跡出土遺物（3）	45	図版12	武家遺跡木材（2）
第13図	1号住居跡・2号住居跡出土遺物	46	図版13	武家遺跡炭化材
第14図	3号住居跡・4号住居跡出土遺物（1）	47	図版14	種実遺体
第15図	4号住居跡出土遺物（2）	48		
第16図	6号住居跡出土遺物（1）	49		
第17図	6号住居跡出土遺物（2）	50		
第18図	遺構外出土遺物	51		
第19図	武家遺跡位置図・全体図	52		
第20図	住居跡・竪穴状遺構	53		
第21図	1号方形周溝墓・1号溝跡	54		
第22図	2号方形周溝墓・1号土坑・2号土坑	55		
第23図	2号溝跡～6号溝跡	56		
第24図	住居跡・1号方形周溝墓出土遺物（1）	57		
第25図	1号方形周溝墓（2）・ 2号方形周溝墓出土遺物（1）	58		
第26図	2号方形周溝墓出土遺物（2）	59		
第27図	竪穴状遺構・2号土坑・ 1号溝跡・2号溝跡出土遺物（2）	60		
第28図	3号溝跡・4号溝跡・ 遺構外出土遺物（1）	61		
第29図	遺構外出土遺物（2）	62		
第30図	遺構外出土遺物（3）	63		
第31図	遺構外出土遺物（4）	64		

第1章 調査概要

第1節 調査に至る経緯

中沢遺跡及び武家遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地として認識されていた散布地であるが、これまで本調査が行われたことがないため、その内容や規模は不明なままであった。これらの遺跡を含む地域に西関東道路が建設されることとなり、平成13年度中には、建設予定地内遺跡の試掘調査を行い、その内容・規模を確認して本調査すべき地域を限定した。その結果、中沢遺跡では古墳時代～平安時代の遺物と住居跡が確認され、武家遺跡ではほぼ完形の古墳時代前期の土器が出土し住居跡が存在する可能性が強まったため、工事にかかる部分が本調査の対象となった。なお、文化財保護法に基づく手続き及び本調査・整理作業等の状況は以下の通りである。

平成13年10月11日～11月2日	試掘調査
平成14年9月2日	調査開始
平成14年9月30日	教育長あて発掘通知提出
同 12月2日	調査終了
同 12月5日	遺物発見通知提出
同 12月～平成15年8月	整理作業
平成16年3月30日	報告書刊行

第2節 調査組織

調査主体	山梨県教育委員会
調査機関	山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者	平成14年度 長沢宏昌・浅川一郎（県文化財主事）
整理担当者	平成15年度 長沢宏昌・小林孝子（県文化財主事）
作業員	相澤 淑美・飯島 澄子・嶋津小百合・鈴木 幸子・須田 良子・田辺秋太郎・千野 富子 宮久保あさの・武藤 恵・渡辺 初江
整理作業員	相澤 淑美・飯島 澄子・野沢まゆみ

第2章 遺跡周辺の環境

中沢遺跡・武家遺跡は甲府盆地北東部の笛吹川扇状地北西縁に立地する。中沢遺跡の標高は約305m、武家遺跡の標高は約300mであり、周囲の地表面は緩やかに南西に傾斜している。

笛吹川は山梨県北部の花崗閃緑岩からなる2500m級の秩父山系（国師ヶ岳、甲武信ヶ岳）を源流とし、甲府盆地の北東部に流入している。谷口から南西方向に向かって狭長な扇状地を形成している。遺跡周辺の試掘や工事現場の掘削坑などから、扇状地は亜角礫～亜円礫層や砂層などで構成されており、水平方向への層相の変化が激しい。礫層の礫種は数cm～数10cmの花崗閃緑岩が多く、数cmの堆積岩も含まれる。笛吹川は谷口から標高340m付近（万力公園付近）までは扇状地の西縁を流れているが、それ以南では、河道をやや南に変え、扇状地の中央付近を流れようになる。地形図で万力公園以南の標高330～300m間における笛吹川両岸の等高線を連続してみると、なめらかな弧を描かず、若干であるが右岸の方が高位になっているよう見える。ただし、扇状地の北西縁に沿っては浅い谷地形が見られ、現在は夕川、平等川などの河道となっている。とくに平等川河道の305m～300m周辺は周囲より2～3mほど低くなっている。また、1:25,000の地形図の等高線を見ると笛吹川と夕川～平等川間の330m～285m付近は紡錘形状に高くなっているのが認められる。

中沢遺跡・武家遺跡の北西には夕川、平等川が南西に流れ、その右岸には新第三紀の火山岩類を主体とした1000m前後の山地が迫っている。遺跡の北には平等川、西平等川によって形成された幅700mほどの広く浅い平坦な谷が形成されている。この谷は南東方向に傾斜しており、平等川、西平等川によって運搬された砂礫によって埋積されていると考えられる。しかし、谷底は平坦で、明瞭な扇状地を形成していないことから、両河川によって運ばれてくる岩屑の量はそれほど多くはないと思われる。

中沢遺跡・武家遺跡の遺構はいずれも表土下にある砂層を掘り込んで作られている。武家遺跡における砂層の層厚は、試掘坑や調査結果から1m以上はあるものと考えられる。中沢遺跡・武家遺跡は扇状地の網状流中に形成された砂を主体とした中州に立地したものと考えられる。調査地域の土層から、遺跡が立地した後は、大規模な流水に見舞われることはなかったと思われる。

中沢遺跡・武家遺跡の周辺にはこれまでに縄文時代から中世までの遺跡が確認されており、分布密度の濃い地域である（第1図）。縄文時代の遺跡としては久保田遺跡（15）があり、標高290m付近に位置している。弥生時代～古墳時代の遺跡としては延命寺遺跡（6）があり、前田遺跡（12）は弥生時代・奈良時代の遺跡である。奈良時代の遺跡には原前遺跡（5）、松畠遺跡（14）がある。平安時代の遺跡数は多く、金桜遺跡（3）、池保遺跡（4）、岩間遺跡（7）、宮田遺跡（9）、天神前遺跡（10）、屋敷遺跡（11）、半座遺跡（13）などがある。中世の遺跡としては武田氏落合館（8）があげられる。

武家遺跡（2）は弥生時代～古墳時代前期の遺跡であり、山梨市内では初めて方形周溝墓が検出された。この時期の遺跡は山梨市内ではほとんど調査例がない。中沢遺跡（1）は古墳時代前期と奈良時代の遺跡である。奈良時代の遺構として5軒の住居跡を確認したが、平安時代集落の重ならない奈良時代だけの集落としてはおそらく県内初の事例であろう。

上記の遺跡は金桜遺跡・池保遺跡をのぞいて、中沢遺跡・武家遺跡と同じ笛吹川右岸の扇状地面に立地している。現状では遺跡の分布に時代的な特徴は見られないが、今後の調査研究により、当地域の開発の過程が解明されていくものと思われる。

第3章 中沢遺跡

第1節 遺構・遺物の概要

今回の調査は、西関東道路の本線部分が対象となったが、遺跡のすぐ北側を西流する夕川（平等川支流）によって北側が制限されており、試掘によって遺構・遺物が確認された三角形状の700m²を対象とし（第2図）、全面調査を行った。

グリッドは対象区域内に任意に基準点を設置し、4mグリッドとした。なお、調査区域に最も近い工事用基準点J15-8（旧国土座標：以下同じ X=-35218.952 Y=14909.451）とJ15-9（X=-35237.666 Y=14835.862）の2点と、調査グリッドの位置関係は第2図に示したとおりである。

調査の結果、住居跡7軒、溝跡6条、土坑7基が確認された。以下に、それぞれの遺構・遺物の概要を時期ごとに記す。

第2節 古墳時代の遺構と遺物

第1項 住居跡

5号住居跡（第5図） E-5・6グリッド。隅円長方形を呈し、長径3.0m・短径2.7m、確認面からの深さ0.1mを計る。炉や柱穴は確認されず、床も軟弱である。覆土には僅かに焼土・カーボンが確認された。

遺物（第10図）は3点を図示した。1・2は壺である。1は胴部で外面にミガキが施される。2は壺の頭部で、ミガキが施される。3は高杯の杯部である。口縁部は若干つまみ上げられ、内湾している。内外面摩耗が著しいが、内面はヨコ方向に磨かれたような痕跡が見受けられる。遺物から古墳時代前期の住居跡と推測される。

7号住居跡（第5図） D-6グリッド。南西コーナー付近だけの調査であり、住居跡ではない可能性もあるが、他の土坑との形状比較から住居跡として報告する。確認部分の南辺は2m、深さ0.1mを計る。覆土に僅かながら焼土・カーボンが確認された。床は軟弱である。

出土遺物（第10図）は1点を図示した。1は壺の口縁部である。口縁部は外側に折り返すタイプのものであるが、折り返しは一定でなく、場所によって細い箇所と厚い箇所がある。古墳時代前期に帰属するものである。

第2項 溝跡

1号溝跡（第7図・第8図） E-H-3~10グリッド。調査区中央をほぼ東西に走る真っ直ぐな小溝である。西側は収束が確認されるが、東は調査区域外に続いており、全体の規模・形状は窓うことができない。今回の調査で確認された部分は長さ27mで、最小幅0.6m、最大幅1.5m、深さ0.3~0.6mを計る。確認面での平均値は幅1m、深さ0.5mとしておく。溝の覆土には砂が見られ、水が流れた形跡がある。傾斜に沿えば東から西へ水が流れていると考えたいが、前述したように西端は収束しており、また特に水溜め等の施設があるわけではないため、常時水路として利用されていたわけではないと考えられる。

さて、本溝廃絶後に1号住居跡や4号住居跡が構築されていることや溝内の出土遺物から、本溝は古墳時代前期～中期にかけて使用されたと限定される。小溝でしかも浅い割には多くの遺物が出土している。第7図と第8図に遺物出土状況と接合状況を示した。なお、第8図は第7図中の微細図面である。これらの中でも最も接合点数の多いのが第11図42で10点以上の破片が接合している。また、その距離も14m以上離れての接

合である。他の資料でも5～8m程度の距離の接合例が認められており、水流等により廃棄時とは別の位置に移動した可能性が強い。実際、土器自体が摩滅しているものが多く、なかには摩滅状態が著しく断面が丸くなっているものも含まれる。

出土遺物（第10～12図）は壺・台付壺・高杯が出土した。1～41は壺である。このうち1～10は口縁部である。口縁部は上部に向かってハの字状に開くものがほとんどである。調整は基本的にハケを施した後にミガキもしくはナデを施すが、1のようにハケ調整のみのものも見受けられる。2は内外面に赤色塗彩が施される。8は北陸系の壺を模倣したものであろうか、口縁部が短く直立するものである。口縁部はヨコナデを施し、上部から指頭痕で調整している。10はヒサゴ壺の口縁部である。口縁部をつまみ上げ、上部に向かって大きく開く。11～27は壺の胴部である。11・12は同一個体で、パレススタイル壺を意識したと思われる加飾壺である。壺肩部には構造工具で施された条線とくの字・ハの字状の施文が交互に施される。胴部は基本的にハケ調整ののち、ナデもしくはミガキにより仕上げられている。16は外面に赤色塗彩が施される。また23～27は同一個体である。胴中間部から下部までの破片が見られ、いずれもミガキにより調整される。胴部破片からいざれも球胴を呈するものと推測される。28～41は壺の底部である。小型のものと大型のものが見られる。

42～72は台付壺である。このうち42と53～62は全体の様相が理解できるものである。42は口縁部をヨコナデで調整し、胴部は内外面を細かいハケ調整を施すものである。やや球胴を呈する。53～62は同一個体で、内外面を粗いハケで調整し、球胴を呈する。43～52は台付壺の口縁部である。小片が多いが、いずれもハケ調整後、ヨコナデもしくはハケで調整されている。63・64は台付壺の胴部である。63は最大径がやや胴部の下半部にある。65～69は台付壺脚部である。小型で華奢なものが多い印象を受ける。70～72はS字状口縁台付壺（S字壺）である。S字壺は本溝の中では非常に数少ない。70は口縁部外面に刺突が巡り、内面頸部には横方向にハケが巡る。胴部は胴部をナナメ方向のハケで調整したのち、肩部に横方向のハケを巡らす。いずれも粗いハケである。内面はユビナデで調整している。71の内面頸部も70のものと同様である。いずれも口縁端部はつまみ上げられており、稜線は鋭い。これらの特徴から本溝のS字壺はS字壺の中でも古相に位置づけられるものである。

73は北陸系の系譜を引く壺である。口縁部は5の字を呈し、ヘラ状工具によるヨコナデが施される。

74～82は高杯である。74～76は杯部でこのうち74・75は内外面とも細かなミガキが施される。75は内外面赤色塗彩が施される。76は脚部を杯部にはめ込む構造になっている。77～82は高杯脚部である。77～80は傾斜変換点に位置する部分に円孔が認められる。80は縦方向のミガキにより調整される。82は脚部が大きく開くタイプのもので、杯部内面は赤色塗彩が施される。

83は身の浅い杯である。奈良時代のものであると思われる。

これらの遺物から1号溝は古墳時代前期に位置づけられるものと思われる。

第3節 奈良時代の遺構と遺物

1号住居跡（第3図） F・G-7・8グリッド。長方形を呈する住居跡で、西側は搅乱を受けているため西壁は確認できない。長径約3.2m、短径約2.9m、確認面からの深さ0.3mを計る。柱穴その他のピットは確認できなかった。床はカマド付近だけが固く踏みしめられており、その部分では焼土やカーボンの集中が見られた。遺物は少ないが、カマド内部とその前面に多い。

カマドは東壁のほぼ中央に位置し、石と粘土を用いた作りである。ただ、カマドの残存状況はよいとは言えず袖石は残っていない。カマド前面に30cm大の石が確認されるが、袖石と考えられる。カマド内部からは壺の大破片が出土した。

遺物（第13図）は杯・壺が出土した。1・2は杯である。いずれも器壁はヨコナデで、胴下半部に手持ち

ヘラケズリを施している。2は内面に暗文状のヘラミガキが観察できる。底部はヘラケズリにより調整されている。

3~10は甕である。いずれも外面はハケ調整、内面はハケもしくはナデにより調整されている。このうち7は全体像のわかるもので、球胴を呈してはいるものの、長胴化の傾向が見られる。8~10は底部である。底部は木葉痕が認められる。これらの遺物から8世紀前半に帰属年代を求められる。

2号住居跡（第3図）G・H-7・8グリッド。南側は調査区域外に延びており未調査である。1号住居跡と並んで確認された住居跡でカマド位置や主軸も1号住居跡と同じである。ただ、1号住居跡がカマドに直行する軸が長軸になる長方形を呈するのに対し、本住居跡はほぼ正方形と推定される。

住居跡の規模は一辺約2.8m、確認面からの深さ0.3mと小型である。本住居跡でも柱穴その他の施設は確認されていない。床は平坦で難く踏みしめられていた。

カマド前面に、床面に接するものも含め20~50cm大の礫が集中して確認された。これらの礫間からは遺物は出土していないが、その周辺の覆土からは遺物が出土しており、そのレベルはこれらの集中礫と変わらない。この状況から、これらの集中礫は住居廃絶直後に形成されたものと考えられる。

カマドは、東壁中央に構築されているが、今回調査されたカマドのうちでは最も残りがよかった。40cm大の石を2枚ずつ両脇に立て袖石とした石組みカマドである。燃焼部本体は幅50cm奥行き90cmを計る。約5cmの焼土層が形成されていた。

遺物（第13図）は杯・甕が出土した。1は杯である。ロクロ成形であると思われ、底部は丁寧にヘラケズリが施されている。内面は見込み部に放射状の暗文が施されている。器壁底部付近はヘラケズリが施されている箇所もある。

2~7は甕の破片である。全体像を窺うことができるものはない。外面はヘラケズリもしくはハケ、内面はハケ調整されているものが主流である。7は底部で、木葉痕が見られる。

3号住居跡（第4図）E-6・7グリッド。一辺2.7mを計る正方形の小型住居跡で、確認面からの深さ0.1mと浅い。擾乱を受けており、遺構の残存状況は悪く、床面も軟弱である。柱穴その他の施設は確認されなかった。

カマドはおそらく東壁の南コーナーちかくに構築されていたものと思われるが、僅かに焼土が飛散している程度で、袖石なども確認されなかった。なお、少ないながらもこの部分に遺物が集中し、これもカマドの存在を窺わせる。

遺物（第14図）は杯・甕・鉢・須恵器甕破片等が出土した。ほとんどは破片資料であるため、全体の様相を把握できるものは数少ない。1・2は杯の破片である。1は口縁部内外面をヨコナデで調整している。2は口縁部が若干内湾するもので、外面はヘラにより丹念にケズリが施される。口縁部付近は横方向に、下部は縦方向の細かな単位のケズリで調整される。内面はナデが施される。指頭痕が見られる。

3~14は甕である。3の口縁部は内外面ともヨコナデが施され、胴部もナデにより調整されている。胎土に金色雲母を多く含む。4は口縁下部の破片である。内外面ともヨコナデが施される。5~11は胴部の破片である。このうち6と7は同一個体である。内外面ハケ調整が施されるもの（5・6・7・11）、外面はハケ、内面は外面はヘラケズリ、内面はナデが施されるもの（9・10）、外面はハケのものちヘラナデ、内面はナデで調整されるもの（8）等が見られる。12の底部は胴部外面・底部ともヘラケズリにより調整する。

15は鉢である。内外面ヨコナデで、内面には輪積が観察できる。

16は須恵器甕の小片である。

4号住居跡（第4図）F・G-5・6グリッド。1号溝跡上に構築された住居跡である。一辺3.2mの正方形を呈し、確認面からの深さ0.3mを計る。本住居跡でも柱穴その他の施設は確認されなかった。覆土はよく締まっており、焼土粒子、カーボンが多くみられた。床はしっかりしており、床面上にも焼土・カーボンが散っているが、とくに南西コーナー近くには焼土ブロックが確認され、焼土内からは砥石が出土して

いる。

遺物はカマドを正面にした左側に集中する。また、その部分には20cm大の礫数点も確認されている。なお、遺物の集中する部分からは紡錘車も出土している。

カマドは東壁中央に構築されていたが、残存状況は極めて悪い。中央部に後世のピット一基が掘りこまれ、袖石は完全に抜き取られていた。カマド前面に50cm大の礫が横たわっていたが、袖石の可能性が大きい。なお、カマドは60×70cm、深さ約10cmの掘りこみである。

遺物（第14・15図）は杯・甕・鉢・須恵器・紡錘車・砥石等が出土した。1～8は杯である。他の住居跡と比較して本住居跡では杯が多く出土しているが、それら杯の調整方法にはバリエーションが見られる。1は内外面に暗文が、見込み部には放射状暗文が施され、外面底部はヘラケズリにより調整される。2は内面に暗文が見られ、内外面底部はヘラケズリが施される。外面はロクロナデで、下部にはヘラケズリが施される。3は内面ヨコナデ、外面は摩耗しているがケズリにより調整される。器壁は内湾しており、胎土には金色雲母を含む。4は内面に暗文が、外面はヨコナデが施される。5・6は内面に暗文、見込み部には放射状暗文、外面下部にヘラケズリ、底部はヘラケズリにより調整される。7は内面に暗文、外面はヨコナデ、見込み部及び外面底部はヘラケズリにより調整される。8は内面に暗文、見込み部には放射状暗文、外面はヨコナデ、底部はヘラケズリにより調整される。内面の暗文及び底部の放射状暗文は非常に密である。

9～20は甕である。このうち11～15は同一個体である。9は小型の甕で、外面口縁部はヨコナデ、胴部は縱方向のハケにより調整される。内面白縁部はヨコハケで調整され、胴部はナデによる。底部には木葉痕が見られる。10はやはり口縁部で外面タテハケ、内面ナデが施される。口縁部は外面ヨコナデ、内面はヨコハケで調整される。11～15は外面をタテハケ、内面をヨコハケで調整し、内面は所々に指頭痕が見られる。16及び17は頸部から胴部であるが、内外面ヘラケズリが施される。いずれも砂礫を多く含む。20は底部である。内面はハケにより調整される。

21は小型の鉢である。器壁は厚く粗雑な印象を受ける。外面は主にユビナデで調整しており、指頭痕が多く見られる。内面はナデの後細いハケが施されるが、ハケが施されない箇所も見られる。底部は薄く、内面は指頭痕で調整され、外面は木葉痕が見られる。22は鉢である。23は須恵器長頸瓶の口縁部であると思われる。外面には釉が見られる。

24は紡錘車である。大きく、非常に丁寧に造られている。表裏面、側面とも丁寧にナデが施される。25は砥石である。約2分の1を欠損するが、中央部が摩耗によりすり減っている。石材は砂岩である。両面を使用していた痕跡が見受けられる。これらの遺物から本住居跡は8世紀後半代に位置づけられるものと推測される。

6号住居跡（第5図） H-3・4グリッド。おおむね半分を調査した。正方形を呈すると思われ、確認部分の一辺4.2mと、本遺跡では大型の住居跡である。調査区域の境界に位置するため区域断面が住居跡中央の軸断面にあたり、そこでの観察で確認面からの深さ30cmを計る。本住居跡は遺構確認段階から、住居内覆土にとくにカーボンが集中しており、一目で住居跡と認識できる状況であった。柱穴その他の施設はここでも確認されていない。床は非常にしっかりとしている。

調査部分ではカマドは確認されなかった。しかし、東壁ちかくの中央部分に焼土の集中が見られることや、他の住居跡の状況からカマドは東壁やや南よりに構築されているものと推定される。

遺物（第16・17図）は杯・甕が出土した。1～7は杯である。1は身が浅く、内外面ヨコナデにより調整している。外面底部はヘラケズリである。2はロクロによるヨコナデが施される。3は大型の杯である。内外面ロクロ成形のヨコナデが施される。4・5・6は底部でいずれも内面はナデ、外面はヘラケズリにより調整される。7は底部をヘラケズリにより調整する。内面見込み部にはロクロ成形によるナデが施される。

8～44は甕である。いずれも破片資料であるため、全体の様相を把握するのは難しい。このうち8～22は口縁部である。いずれも内外面ヨコナデが施され、内面頸部に稜線を持つものも見られる。8・9は口縁部

内面に所々ハケ調整が施されている。胴部は内外面ともナデもしくはハケにより調整される。8は外面の摩耗が著しいがナデにより調整され、ユビナデの痕跡が見受けられる。内面は一部工具痕も見られる。24・25・29～32は外面はタテハケ、内面はヨコハケが施されるもの、26・28・33～36は内外面はナデもしくはヘラナデが施されるもの、また27・37のように外面はナデ、内面はヨコハケが施されるもの、34・37・38のように外面はハケ、内面はナデが施されるものなどがある。39～44は底部である。39～41は底部に木葉痕が見られる。

45は鉢の胴下半部から底部である。内外面横方向のミガキで調整される。底部は厚い造りである。

46・47はミニチュア土器であると思われる。46は器種不明である。内外面ともユビで調整しており、内面中央部のみ棒状の工具で調整した痕跡が見られる。47は鉢であろうか。内外面ともユビナデにより調整される。

48は須恵器長頸瓶の破片である。

これらの遺物から本住居跡は8世紀後半に位置づけられるものと推測される。

第4節 その他の遺構

今回の調査では、前述の遺構以外に、土坑7基、溝跡5条が確認された。これらの遺構に伴う遺物は出土していないため、帰属時期の判断は難しい。以下に概要を示しておく。

1号土坑（第6図） F-9グリッド。楕円形を呈し、長軸0.8m、短軸0.6m、深さ0.3mを計る。坑底は丸い。

2号土坑（第6図） F-3グリッド。楕円形を呈し、長軸1.0m、短軸0.7m、深さ0.3mを計る。壁は比較的強く立ちあがり、坑底は平坦である。覆土中から土師器小破片数点が出土した。

3号土坑（第6図） F-4グリッド。ほぼ円形を呈し、長軸0.8m、深さ0.4mを計る。坑底端にさらに30cm、深さ10cm程度の小さな掘りこみが確認されている。覆土はよく締まっており、奈良～古墳時代にまで遡る可能性もある。

4号土坑（第6図） F-3グリッド。隅円方形を呈し、一辺0.6m、深さ0.4mを計る。これも壁の立ちあがりはきつい。やはり坑底の一部に小さな掘りこみが確認される。また、覆土に10cm大の礫一点が確認されている。

5号土坑（第6図） E-7グリッド。楕円形を呈し、長軸0.9m、短軸0.7m、深さ0.4mを計る。坑底は丸い。

6号土坑（第6図） F-9グリッド。楕円形を呈し、長軸0.6m、短軸0.5m、深さ0.3mを計る。坑底は丸い。

7号土坑（第6図） G-H-5グリッド。不整円形を呈し、長径0.8m、短径0.6m、深さ0.3mを計る。テラス状の断面であり、2基の土坑の可能性もある。

2号溝跡（第7図） B-H-4・5グリッド。調査区域を北西から南東に継続する細い溝で、確認長さ23m、幅0.2m、深さ0.1mを計る。1号溝跡・4号溝跡を切っており、覆土も他の遺構とは全く別の白色粘質土を主体としており、時期的にも新しいものであろう。

3号溝跡（第8図） D-E-3グリッド。北北西から南南東に延びる細い溝で、確認長3.7m、幅0.5m、深さ0.1～0.2mを計る。すぐ北側に同一方向に延び、しかも同規模の4号溝跡が確認されており、これらは一体のものと考えられる。

4号溝跡（第8図） C-D-4グリッド。北北西から南南東に延びる細い溝で、確認長4.1m、幅0.5m、深さ0.1～0.2mを計る。

5号・6号溝跡（第9図） D-H-1～3グリッド。確認状況から明らかに2条で一对を成す溝である

ため、まとめて報告する。調査区域南西端に確認された。詳しく図示していないが、5号溝跡は6号住居跡を切っている。6号溝跡は確認長16m、幅0.2m、深さ0.1mを計る。5号溝跡は約10mを確認した。この2条は併行しており確認部分では溝間約1mである。この形状からは道を想定するのが妥当であろうが、溝に挟まれた部分には特に踏み固められた様子もないため、積極的に道であるとも言いきれない。

第5節 遺構外遺物

主な遺物を第18図に示した。1・2は5号住居跡覆土から出土した縄文土器である。胎土には石英・長石が目立つ。矢羽状沈線が施されている。後期の加曾利B式併行と考えられる。

3～11は古墳時代前期に位置づけられるものである。3は壺口縁部の破片で、外面に赤色塗彩が施される。4は壺の胴部で内外面ナデにより調整される。5はS字状口縁台付壺の口縁部である。口縁部外面に刺突が施され、稜線は鋭い。6はやはりS字壺の胴部である。粗いハケで調整されており、この時期の特徴をよく捉えている。7～9は台付壺の脚台部である。いずれもナデもしくはヘラナデにより調整しており、古墳時代前期でも新相に位置づけられるものと思われる。10は高杯の脚部である。内外面摩耗が著しいが、円孔が等間隔に3箇所確認できた。11は器台である。ミガキにより調整される。

第4章 武家遺跡

第1節 遺構・遺物の概要

今回の調査は、西関東道路に交差する市道のための隅切りによる拡張と切りまわし部分が対象となった。本遺跡は調査区のすぐ西側を南流する平等川によって西側が制限されており、試掘によって遺構・遺物が確認された長さ約50m、幅10m、面積約500m²を対象とし（第19図）、全面調査を行った。現在市道である部分を含めてその近接地を拡張する計画であったため、調査段階では市道部分の切りまわしを行う必要が生じ、大きく2区に分けて調査を実施した。本遺跡周辺は地下水位が高く、現地表下1m程度ですぐに漏水し、しかも砂地であることから、試掘段階でも壁面が崩れ落ちる状況であったため、調査区域全面をシートパイルで囲って調査することとした。そのため道路の切りまわしと同時に、シートパイルの引き抜き・打ち直しを行わざるを得ず、調査途中で中断を余儀なくされた。

グリッドは対象区域内に任意に基軸線を設置し、4mグリッドとした。二つに分けた調査区のうち片側は生活道路であったため、切りまわしの関係から前述したような途中の中斷があったと同時に、最初の調査区の基軸線が埋め戻しにより消滅したため、最初の調査区と2回目の調査区とはそれぞれ任意に基準ラインを設定した。その上で、それらを共通する2点の工事用基準点との位置関係で整合させることとした。

調査区域に最も近い工事用基準点F11（X=-35486.397 Y=14487.057）とF11-A（X=-35510.597 Y=14551.452）の2点と、調査グリッドの位置関係は第19図に示したとおりである。なお、遺物が混乱するのを防ぐため、2回目の調査区のグリッドは小文字とし、遺物は1001からと千番台を使用することとした。

調査の結果、弥生時代と考えられる溝跡1条、古墳時代前期の住居跡1軒、竪穴状遺構1基、方形周溝墓2基、土坑2基、時期不明の溝跡5条等が確認された。以下に、それぞれの遺構・遺物の概要を時期ごとに記す。

第2節 弥生時代の遺構

6号溝跡（第23図） h～j-2・3グリッド。ごく一部だけの調査であり、1号方形周溝墓に切られている。本溝は調査区東端部分で外側が屈曲している様子が窺える。単なる曲がりの可能性もあるが、規模・形状から、おそらく方形周溝墓の一部と思われる。確認部分での最大幅1.9m、深さ0.6mを計る。

溝底ちかくから古墳時代前期の台付壺脚台部（第28図-1）が出土している。しかし、明確な弥生土器は確認されないものの、後述（第5章参照）するように、溝内の炭化物による年代測定結果からは弥生時代への位置付けが妥当である。

溝内には何らの施設も見られないが、壁面に焼砂や炭化物が散っている。炭化物は調査部分のほぼ全面に確認され、しかも壁面自体が焼けている状況から廃棄とは考えられず、溝構築時ないし使用時にこの場所で火を焚いたことは明らかである。とくに、第23図中エレベーションB-B'ライン付近が強く焼けており、炭化材の集中度も濃い。

なお、年代測定に用いた試料は、溝底にちかい溝壁に見られた焼砂及び炭化・半炭化物が集中する部分から取り上げたブロックの一部であり、これに関しては前述したように溝構築もしくは使用段階で作られた炭化材の可能性が極めて強いと考え試料としたものである。

第3節 古墳時代の遺構・遺物

第1項 住居跡（第20図）

H・I・J-1～3グリッド。今回の調査で唯一確認された住居跡である。調査区域上の制約や後世の搅乱等により一部不明な部分もあるが、ほぼ規模は確認できた。隅円方形を呈する住居跡で、一辺5.2m、確認面からの深さ0.3mを計る。炭化材が僅かに散っているが、火災住居ではない。柱穴や梯子受け、貯蔵穴等の掘り込みは確認できなかった。床も軟弱である。

炉は、80cm×70cmの楕円形地床炉で、掘り込みはみられなかった。本炉を特徴付けるのは、粘土を貼った地床炉であることで、本来、掘り込まれる燃焼部には全面に粘土が張られていた。また、燃焼部の住居入り口側には、主軸に直交するように、粘土をカマボコ状に約5cm盛り上げ、枕石の代わりとしている。第20図に示した炉微細図中の斜線部分が、被熱により粘土の硬化が著しい部分である。炭化物等は確認されなかつたが、日常の使用を物語っている。また、主軸の入り口部分には、梯子受のピットがある場合があるが、本住居跡ではピットがあるべき部分に、炉に貼られたのと同じ粘土が30cm×20cmの大きさの塊二個となって確認されている。とくにこの部分に掘り込みはない。

遺物（第24図）は壺・甕・高杯が出土した。1～5は壺である。1は胴部破片であるが、外面はハケ調整の後にミガキで仕上げられている。内面はナデである。2～4は胴部から底部である。底部はいずれもケズリにより調整される。5は北陸系の壺である。形態はだいぶ退化が進んでいるが、口縁部をヨコナデで調整する技法や口縁部の形態等にその痕跡をとどめている。砂礫を多く含む。

6～11は台付甕で、このうち8と9は同一個体である。いずれも内外面ハケ調整、もしくは内面にナデを施している。

12は高杯の杯部である。薄手で外面はヘラケズリののち口縁部にヨコナデを施し、内面はヨコナデである。金色雲母を多く含んでいる。これらの遺物から本住居跡は古墳時代前期に位置づけることができる。

第2項 方形周溝墓

1号方形周溝墓（第21図） J・K・g～i-1～3グリッド。調査区域状の制約からほぼ3/4の調査となった。南辺だけが未調査であるため、ブリッジの有無は不明である。主体部は確認されず、中央部には1号溝が掘りこまれている。また、東辺は6号溝を切って構築される。

確認部分での規模は、周溝内周での幅7.5m、周溝幅1.5～2.5m、周溝深さ0.2～0.5m、周溝外周の幅10.5mを計る。東辺と西辺に遺物の集中が見られる。第24図1は西辺からほぼ完形で出土し、2は東辺から約1mの範囲内に分かれて出土した。

遺物（第24・25図）は壺・甕が出土した。1～9は壺である。1は大郭式の壺である。外面はハケの後ミガキが施されている。口縁部の稜線は曖昧である。内面口縁部から頸部にかけてはヨコミガキ、内面はナデ調整である。2は球洞を呈する壺で、外面はハケが施された後、所々ミガキで調整される。口縁部はナデで、外面に折り返しが認められる。3は口縁部で、内面端部には繩文が施される。補修孔であろうか、2箇所の孔が認められる。外面はミガキの後赤色塗彩が施された痕跡が見受けられる。4は二重口縁壺の口縁部である。摩耗が著しく、内外面の調整が不明瞭である。口縁端部につながる稜線は明確ではなく、退化が進んでいることを知ることができる。5はヒサゴ壺の口縁下部から頸部にかけての破片である。外面は粗いハケ調整の後縦方向のミガキで、内面は縦方向のミガキで調整されている。薄く丁寧に仕上げられている。6～9は底部である。6の外面はヘラとユビナデにより調整している。内面はナデの後一部工具を用いて余分な粘土を掻き取ったような痕跡が見受けられる。底部はヘラナデである。7は内外面ミガキが施される。薄く丁寧な作りである。8は小片である。内外面ともにヘラケズリにより調整される。9は球洞を呈する壺の底部であると思われるが、内外面摩耗が著しく調整は不明瞭である。5ミリ程度の白色礫を多く含み器壁は薄く、

丁寧な作りである。

10~19は台付壺である。このうち10から14は口縁部である。10は外面口縁部及び頸部をヨコナデ、肩部から胴部にかけてハケ調整するものである。内面は口縁部をヨコナデ、胴部を横方向のハケで調整している。11は内外面をハケ調整するものである。12~14は外面タテハケ、内面ヨコハケが施される。13は内外面ナデ調整である。13・14はいずれも小片である。15は頸部で外面はタテハケ、内面はヨコハケが施される。16から19は胴部でいずれもハケ調整である。20は脚台部で外面胴部はハケ調整、脚台部はナデ調整が施される。内面は胴部・脚台部ともナデ調整である。胎土に5ミリ程度の赤色粒子を多く含む。本周溝墓では台付壺脚台部の出土がほとんどなく、様子を知る唯一の遺物である。21~24はS字状口縁台付壺である。薄く内外面ハケ調整のものと、内面はナデのものが見られる。

これらの遺物から本方形周溝墓は古墳時代前期に位置づけることができる。

2号方形周溝墓（第22図） E~H・d・e-1~3グリッド。調査区域の制約から、4辺のうち3辺を調査した。一部掘り込みが浅いため、はっきりしない部分があるが、北西コーナー部分にはブリッジが存在する。主体部は確認されなかった。

確認部分での規模は、周溝内周での幅6.5m、周溝幅1.0~1.5m、周溝深さ0.1~0.2m、周溝外周の幅8.8mを計る。遺物は周溝全面に散布するが、とくにブリッジ近くから第25図1と第26図9がバラバラな状態で出土した。なお、第25図1は後述する竪穴状遺構内からも破片となって出土しており、明らかに同一個体であることから本遺構遺物としてまとめて報告する。

遺物（第25・26図）は壺・台付壺・鉢が出土した。1~14は壺である。1は加飾壺の上半部である。口縁部は外側に折り返すタイプで、頸が長く球胴を呈する。外面頸部はハケ調整の後縦方向の細かなミガキを施し、肩部には結節繩文を2段にわたって巡らす。結節繩文の上部から2単位で3点の円形付文を貼付する。胴上半部には斜め方向のミガキを施すが、下部はナデで仕上げている。肩部の結節繩文帯を除いて全面赤色塗彩を施す。内面は口縁端部にやはり2段の結節繩文を施す。外面肩部の円形付文と交互になるように口縁端部にも2単位で小型の円形付文を配する。結節繩文帯より下部から頸部にかけては横方向のミガキを施し、その上部に赤色塗彩を施す。胴部はハケ調整である。本方形周溝墓のものと第1号竪穴遺構から遺物が出土しており、接合関係にある。2は口縁部を折り返す壺である。内外面をナデで調整する。3は口縁部が逆ハの字状に上部に開く壺である。赤色塗彩を施す。4は壺の頸部である。5~8・11はナデを施された胴部である。9はパレススタイル壺である。破片資料であるが、ブリッジ脇の溝部よりまとまって出土した。口縁部は欠損している。形状は下膨れを呈する。底部は欠損する。外面頸部は有段で、その下部から胴上部にかけて文様帯が施される。文様帯は5条から8条で1単位の条線と櫛状工具による鋸歯文が交互に3段配される。鋸歯文の地文に繩文が施されている箇所が見受けられるが、これがどのような範囲で施されるかは摩耗のため不明である。胴部は細かなミガキが施される。胴部は斜め方向に、下部は底部に向かってさらに密に施される。赤色塗彩は頸部及び文様帯の条線部を除いて、ほぼ前面に施されている。内面はヘラ調整が施される。頸部のみに赤色塗彩が施される。パレススタイル壺は供献土器の一つとして、伊勢湾地域から伝わったものであるが、東山梨地域では初めての出土例である。12は外面にミガキを施し、その上部に赤色塗彩を施した壺の底部付近の破片である。内面はナデ調整である。13~14は壺の底部である。13は木葉痕がみられる。14は内面にミガキが施される。

15~25は台付壺である。15~20は口縁部である。15・18は内外面ハケ調整、16は内外面ハケ調整の後にナデを施す。17・20は口縁部に刻みが施されるタイプのものである。19は赤色塗彩が見られる。21・22は頸部で、ヨコナデにより調整されるものである。23~25は胴部である。外面はハケ調整が施されるが、内面はナデとハケのそれぞれの調整が見られる。

26は鉢である。外面は粗いハケ調整の後、粗いナデ調整である。内面口縁部はやや外反し、その部分はハケ調整が施される。胴部はナデが施されるが、輪積痕が見られる箇所もある。

これらの遺物から本方形周溝墓は古墳時代前期に位置づけられる。

第3項 穫穴状造構（第20図）

b～d－2グリッド。調査区域の制約からごく一部を調査したに過ぎない。コーナー部分を確認したが、長辺約5mである。壁は緩やかに立ちあがり、掘り込み底部も住居跡のように平坦ではないが、大きさからは住居跡である可能性も否定できない。軸は南北と想定され、確認部分は南西コーナーであろう。

本遺構は砂層中に掘り込まれており、調査部分には貼り床は認められない。覆土も砂が主体でわずかにカーボンを含んでいる。遺物は覆土である砂層中から出土したが、弥生土器と土師器が混在し、炭化・未炭化材も残っていた。床と認識できる面がはっきりしないうえ、時期の違う土器が混在しているため、遺構時期の特定が困難な状況である。ただ、主体を成す土器が土師器であることから、ここでの遺構の時期は一応古墳時代前期としておく。

遺物（第27図）は壺・甕・高杯・石包丁が出土した。1～9は壺である。このうち1・2・9は壺の口縁部である。1は小片であるため全体の様相は不明であるが外面はナデ、内面はヨコハケで調整する。2は外面ハケ調整、内面ナデ調整後ユビで調整する。頸部にかけて内湾する。9は直口壺の口縁部で、口縁部がやや肥厚する。内面のみ赤色塗彩がみられる。3は肩部である。内外面ハケ調整が施される。4～8は胴部である。4は胴部の最大径にさしかかる部分で、外面はハケの後所々ミガキが施される。内面はナデで指頭痕が見られる。5の外面には細かなミガキが密に施される。内外面赤色塗彩が施される。6・7・8は外面ハケ調整、内面ナデ調整である。

10～13は台付甕口縁部である。いずれも外面はハケ、内面はナデで調整される。

14は高杯脚部である。外面は縱方向のミガキ、内面はナデの後ユビで調整している。円孔を4箇所確認した。

15は石包丁である。約2分の1が欠損していると思われる。石材は粘板岩で、大まかな打ち欠き後に研磨して磨製石包丁を作成しようとしたものであろうが、磨きは中途である。作成途中で欠損したものであるかもしれない。

いずれも小片であるが、ここに示した遺物の帰属年代が一貫しており、この年代を本遺構の年代と考えて差し支えないと思われる。従って本遺構の年代は古墳時代前期としておく。

第4項 土坑

1号土坑（第22図） f・g－2グリッド。椭円形を呈し、長径1.3m、短径0.8m、深さ0.1mを計る。掘り込みの浅い土坑である。遺物も出土しておらず、時期の特定や性格は不明であるが、他の遺構の状況から、古墳時代と考えておきたい。

2号土坑（第22図） e－2グリッド。不整円形を呈する大型の土坑で、長径2.1m、短径1.8m、深さ0.4mを計る。覆土には焼土やカーボンはみられないが非常によく締まっている。内部からは比較的多くの土器片とともに、20～30cm大の礫2点が出土している。

遺物（第27図）は壺・台付甕が出土した。このうち1～11及び17は壺である。1～11は胴部である。1は頸部から胴部にかけての部位である。外面はハケ調整の後ナデ、内面はヨコ方向のハケが施される。2は加飾壺の肩部である。小片なので全体の様相はわからないが、外面は横方向の条線が施され、上部は赤色塗彩される。パレススタイル壺の可能性もある。3～11は胴部である。3・8・9は内外面ミガキを施すもの、4・7・11は内外面ナデもしくはヘラナデを施すもの、5は外面ナデ、内面ハケを施すもの、6・10は外面ハケ、内面はヘラナデで調整するものである。11は胴部最大径の部分である。17が底部で摩耗が著しいが外面はナデ、内面は細かなハケにより調整される。底部には木葉痕が見られる。胴部の器壁は非常に薄い。

12～16は台付甕である。12・13は口縁部で外面はナデ、内面はハケ調整である。14は頸部だが、摩耗が著

しく調整は不明である。15・16は胴部で外面はハケ、内面はナデ調整である。

これらの遺物はいずれも小片であるが、古墳時代前期に位置づけられることから、本土坑は古墳時代前期のものと推測される。

第5項 溝跡

1号溝跡（第21図） J・K・h-1～3グリッド。1号方形周溝墓内に掘りこまれた溝である。方形周溝墓構築後の溝と考えられる。長さ7.9m、幅0.8m、深さ0.4mを計る。

遺物（第27図）は壺胴部破片が出土した。内外面ナデを施すものである。古墳時代前期に位置づけることができる。

2号溝跡（第23図） g-2グリッド。長さ3.3m、幅0.7m、深さ0.1mを計る。

遺物（第27図）は深鉢もしくは壺の口縁部破片が出土した。口縁端部には沈線が巡り、その上部には刺突が施される。沈線下部にはいわゆる中部高地型条痕文が施されるが摩耗が著しい。

小片であるため詳細については不明であるが、弥生時代前期初頭に位置づけられる可能性が高い。

3号溝跡（第23図） e・f-2・3グリッド。先端が直角に曲がった溝で、確認部分はL字形を呈する。全長6.0m、幅0.8m、深さ0.4mを計る。内部から縁にかけて20～60cm大の礫が確認されている。また、溝底からは未炭化の木質が数点出土している。

遺物（第28図）は壺及び台付甕が出土した。1～3は壺である。1は直口壺口縁部である。外面は粗いミガキが、内面はナデが施される。2は壺の胴部で外面はハケの後ミガキが施され、その上部に赤色塗彩が施される。内面はハケで調整される。金色雲母・砂砾を多く含む。3は底部であるが、摩耗が著しい。

4～8は台付甕である。4は頸部で丁寧にナデが施される。5～8はいずれも胴部で外面はハケ調整、内面はナデ調整が施される。

いずれも古墳時代前期のものである。

4号溝跡（第23図） f-1・2グリッド。3号溝に切られているが、そこで収束していたものと思われる。長さ3.7m、幅0.8m、深さ0.1mを計る。

遺物（第28図）は壺が出土した。1は壺胴部である。外面はミガキ、内面はナデを施す。

古墳時代前期に位置づけられるものである。

第4節 その他の遺構

5号溝跡（第23図） a-2グリッド。調査区北端に確認された浅い溝である。ごく一部を調査したに過ぎないが、弧状を呈する。確認長2.5m、幅0.8m、深さ0.2mを計る。覆土が他の遺構と違って綿まりがなく、黒色粘質土であった。実測図は示していないが、溝内から漆器破片が出土している。覆土の状況や漆器の存在から中世以降の溝である可能性が高い。

第5節 遺構外遺物

グリッド内からまとまって出土した遺物（第28図）を先に記す。第28図1～14はE-2グリッドから出土したものである。E-2グリッドでは壺・台付甕が出土した。1・2は壺の口縁部である。1は口縁部が上部に向かって逆八の字状に開く壺で、外面にミガキが施され上部に赤色塗彩が施される。内面はヨコナデで調整される。2は口縁端部が内湾するもので外面はハケ調整、内面はヨコナデにより仕上げられる。3～10は壺の胴部である。いずれも小片で、内外面はハケもしくはナデにより調整される。

13・14は台付甕である。13は口縁部で口縁端部には櫛状の工具による刻みが施される。内外面ハケ調整で

ある。小型の台付壺である。14は胴部である。外面はハケ調整、内面はナデ調整で輪積度が見られる。

第28図1～9はH-2グリッドから出土したものである。壺とS字状口縁台付壺が見られる。1～6は壺である。1・2は口縁部である。このうち1は内外面ハケ調整で、胎土に赤色砂礫を含む。2は口縁部が上部に向かって逆ハの字状に開く壺で、内外面ハケ調整が施される。白色砂礫を含む。3～6は胴部である。外面はハケ・ミガキ・ナデ等により、内面はハケもしくはナデにより仕上げられる。

7～9は同一個体のS字状口縁台付壺である。いずれも小片であるため、全体の様相は不明である。器壁は非常に薄く、外面は縦方向のハケが施されるが非常に形骸化したものであり、本来の余分な粘土を掻き取るといった用途によるものではない。内面はナデにより調整される。

E-2グリッド及びH-2グリッドから出土した遺物はいずれもその特徴から、古墳時代前期の後葉に位置づけられるものであると思われる。

その他の遺構外遺物を第28～31図に示す。1～77は古墳時代前期の遺物である。遺物は壺・壺・高杯・鉢が見られた。このうち1～47は壺である。1～6は口縁部である。1は内外面ナデである。2は口縁端部を外面に折り返すもので、外面はハケ調整、内面はナデで所々ミガキが施される。3は内外面ハケのちナデを施すもので、端部に向かって内湾する。4は口縁部がやや長く、内湾しながら立ち上がるものである。5は外面をハケのちナデ、内面をヘラナデにより調整するものである。6は二重口縁壺の頸部である。二重口縁部分は剥離している。内外面ナデ調整である。器壁は厚く、比較的大型のものであると推測される。7～12は肩部である。8は加飾壺の頸部から肩部で、肩部には突帶部が巡る。上部は白色の礫を多く含み、摩耗が著しいが線刻が巡るようである。内面は頸部ヨコナデ、胴部はユビで調整しており、指頭痕が見られる。9・10は内外面ナデ調整である。11は外面ハケ調整で上部には横位に沈線が巡る。12は摩耗が著しいが外面はナデ、内面はヨコハケで調整する。13～38は胴部でも比較的下部に位置するものである。いずれも外面はハケもしくはミガキ・ナデ、内面はハケ・ナデで調整される。このうち18・28・29は同一個体である。大型の壺であると推測される。39～47は底部である。底部はいずれもナデ調整で、木葉痕等は見られない。内面はハケもしくはナデ調整が施される。47のように底部が小さく、若干丸みをおびているものもある。

48は有孔鉢の底部である。外面はタテハケ、内面はナデにより調整される。底部の穿孔は焼成前に内側と外側からそれぞれあけたようである。

49～73は台付壺である。このうち49～60は口縁部である。49～54は口縁端部に櫛状工具による刻みが施されるものである。いずれも外面は縦方向のハケ、内面は横方向のハケが施されるが、50・54のように内外面ナデが施されるものも見られる。55～57は内外面ハケ調整である。58は内外面ナデ、59は外面ナデ、内面はヘラナデが施される。60はS字状口縁台付壺の口縁部である。極めて小片であるため、詳細は不明である。稜線はややシャープである。61～68は胴部である。いずれもハケ調整である。69～73は脚台部である。69は比較的大きな台付壺の脚台部であると思われるが、1cm程度の礫を多く含む。70は内外面ナデにより調整される。器壁は薄い。調整にハケが見られないことから、退化した様相であることがわかる。71・72は外面ハケ、内面はナデもしくはハケで調整するものである。指頭痕が見られる。73は外面ヘラナデで、内面はハケのちナデで調整するが、薄く輪積も残っているなど調整の粗雑さが窺われる。退化した様相を呈する。

74～76は高杯である。74は杯部であるが、小片である。内外面ナデ調整を施す。75は杯部及び脚部である。外面はミガキが密であり、赤色塗彩が施される。内面はナデの後、所々ミガキを施す。器壁は厚い。やや古相を呈する。76は脚部である。大きくハの字状に開く。外面は摩耗しているが、ミガキが施されたような痕跡が見受けられ、赤色塗彩が施される。内面は細かなヨコハケが施される。77は鉢である。口唇部が外反する。ハケ調整の後、指頭痕で調整する。内面は輪積みが多く見られる。器壁は薄いが粗雑な作りである。

以上古墳時代前期に位置づけられる遺物を示したが、古い様相を呈するものと新しい様相を呈するものが混在する。その様相は遺構の時代的な分布と合致する。

78～106は弥生時代後期前葉に位置づけることができる遺物群である。これらの遺物と同時期の遺構は本

遺跡では確認されておらず、遺物も少數である。しかし遺物が存在することから、遺跡の近くに当該時期の遺跡が存在すると考えられる。

78~91・93~105は深鉢である。78~83は口縁部で、78~80・82のように口縁部は無文でその下部より櫛描波状文が描かれるもの、81・83のように口縁部直上から櫛描波状文が描かれるものなどが見られる。また80は口唇部に棒状工具による刻みが施されるものもある。84~91・93~105は口縁部から頸部、もしくは頸部から胸部にかけての部位である。84~91・93~103は櫛描波状文、もしくは棒状工具による条線が施文される。内面はヘラ状の工具により横方向に調整されたものも見受けられる。104・105は頸部に廉状文が認められる。時期的には若干新相を呈するものと思われる。106は頸部に羽状の櫛描文が施される。

92・107は壺であると思われる。92は壺の頸部であると思われ、外面に櫛描波状文が描かれる。107は壺の肩部である。棒状工具により横方向の条線をT字型に切っている。下部は赤色塗彩が施される。

108~110は弥生時代前期から中期に位置づけられる壺の破片である。小片なので詳細は不明であるが、いずれも外面に条痕文が施される。2号溝跡の遺物とほぼ同時期に位置づけられる。

第5章 中沢遺跡・武家遺跡の自然科学分析

はじめに

中沢遺跡、武家遺跡は、ともに山梨県山梨市内に所在し、いずれも笛吹川扇状地北西縁に位置している。両遺跡は、後背山地の谷から流れ出る小河川によって形成された小規模扇状地と、笛吹川が作る氾濫原との境界付近に立地する。発掘調査の結果、中沢遺跡からは古墳—奈良時代の遺構が検出され、武家遺跡からは弥生時代・古墳時代の遺構などが検出されている。

本報告では、中沢遺跡や武家遺跡から採取された植物遺体や遺構覆土、遺物等を対象に、樹種同定や微細遺物分析を実施し、当時の植物利用に関する資料を作成する。また、武家遺跡からは出土遺物の少ない溝状遺構が検出されており、当遺構の年代観を検討するために放射性炭素年代測定を実施する。

1. 試料

・中沢遺跡

試料は、奈良時代の1号住居跡のカマドから出土した木材1点、さらに、奈良時代と考えられる2号住居跡のカマドから採取された土壤試料2点（各1000cc）である。これら試料について、木材については樹種同定を、土壤試料については微細遺物分析を実施する。

・武家遺跡

試料は、5号溝跡から出土した漆器片（木胎部）1点、3号溝跡や6号溝跡、竪穴状遺構から出土した木材3点、および、竪穴状遺構覆土から採取された土壤試料2点（各1000cc）である。これら試料について、6号溝跡から出土した木材については樹種同定および放射性炭素年代測定を実施する。この他の木材については樹種同定を、土壤試料については微細遺物分析を実施する。

なお、中沢遺跡1号住居跡カマド（試料名：C-1）、武家遺跡竪穴状遺構（炭1）から採取された木片は、1試料中に複数点認められることから、無作為にそれぞれ20点ずつ抽出し分析を実施する。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器研究所の協力を得ている。方法は、試料の量が十分にあったことから、 β 線測定気体計数法を用いる。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,570年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。

(2) 樹種同定

試料の観察の結果、木材は未炭化のものと炭化した試料が認められた。以下に、それぞれの状態に応じた分析手法を示す。

・木材（未炭化）

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柵目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

・炭化材

炭化材は、3断面の剖断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

(3) 微細遺物分析

土壤試料各2000ccを水に一晩液浸し、試料の泥化を促す。0.5mmの篩を通して水洗し残渣を集め、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な微細遺物や植物遺体等を抽出する。抽出された微細遺物および植物遺体の形態的特徴を、双眼実体顕微鏡下で観察し、現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川、1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか、2000)と比較し、種類の同定・計数を行う。細片を含むため個体数推定が困難である種類は、表中に「十」と、数字以上の個数が推定される種類は、「数字十」と表示する。また、100個以上が検出される種類は、「多」と表示する。分析後の微細遺物および植物遺体等は、種類毎にピンに詰め、50%程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施す。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表1に示す。得られた年代値(補正年代)は、 2110 ± 90 BPを示す。また、試料とした木片は、カエデ属に同定された。

表1 放射性炭素年代測定結果

遺跡名	試料名	試料の質	種類	補正年代(BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代(BP)	Code No.
武家遺跡	6号溝跡 C-1	木片	カエデ属	2110 ± 90 BP	-28.4		I A A -302

1) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示した値。

2) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ の原子比を質量分析器で測定し、標準にPDBを用いて同様に測出した値である。

(2) 樹種同定

結果を表2に示す。中沢遺跡・武家遺跡から出土した木材・炭化材は、針葉樹1種類(モミ属)と広葉樹

表2 樹種同定結果

遺跡	遺構	試料名	時期	質	点数	樹種(点数)
中沢遺跡	1号住居跡カマド	C-1	奈良時代	炭化材	5	コナラ属コナラ亜属コナラ節(5)
	2号住居跡カマド	(微細遺物分析試料)	奈良時代	炭化材	20	ブナ属(3)、コナラ属コナラ亜属クヌギ節(7)、コナラ属コナラ亜属コナラ節(4)、環孔材(1)、散孔材(1)、樹皮(3)、不明(1)
武家遺跡	竪穴状遺構	炭1	古墳時代	炭化材	5	モモ(5)
		木片C-2		生木	1	モクレン属(1)
		(微細遺物分析試料)		炭化材	20	コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4)、コナラ属コナラ亜属コナラ節(2)、クリ(2)、モモ(11)、環孔材(1)
	3号溝跡	木片	—	生木	1	モミ属(1)
	5号溝跡	木片(漆器片)	—	生木	1	ブナ属(1)
	6号溝跡	木片C-1(炭・焼砂)	—	生木	1	カエデ属(1)

7種類（ブナ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・モクレン属・モモ・カエデ属）に同定された。この他に、広葉樹（環孔材・散孔材）や樹皮、木材組織が認めらない試料なども認められているが、これらは種類の同定に至らなかった。以下に、各種類の主な解剖学的特徴を記す。

・モミ属 (*Abies*) マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成され、早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1~4個。放射組織は単列、1~20細胞高。

・ブナ属 (*Fagus*) ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2~3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は單穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状~階段状に配列する。放射組織は同性~異性Ⅲ型、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1~2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織がある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圈部は1~2列、孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高のものと複合放射組織がある。

表3 微細植物片分析結果

種類名	部位	状態	中沢遺跡	武家遺跡
			試料名	2号住居跡カマド
			分析量	竪穴状遺構
木本			2000cc	2000cc
キイチゴ属	核	炭化	—	1
ブドウ属	種子	炭化	—	1
草本			3820.1g	3974.8g
イネ	胚乳	炭化	—	3+
アワーヒエ	胚乳	炭化	—	5
コムギ	胚乳	炭化	—	1
カヤツリグサ科	果実	炭化	—	4
アサ	種子	炭化	—	7
タデ属	果実	炭化	—	54
アカザ科	種子	炭化	—	多
キジムシロ属一ヘビイチゴ属一オランダイチゴ属	核	炭化	—	4
マメ類	種子	炭化	—	3
シソ類	果実	炭化	—	3
炭化材			多	多
不明炭化物			+	+
菌核			—	多
昆虫遺骸			—	+

1) 十は、細片を含むため個数推定が困難である。

2) 数字十は、細片を含むため数字の個数以上が推定される。

3) 多は、100個以上が検出される。

・クリ (*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は1～4列、孔圈外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、單列、1～15細胞高。

・モクレン属 (*Magnolia*) モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2～4個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、1～2細胞幅、1～40細胞高。

・モモ (*Prunus salicina Lindley*) バラ科サクラ属

環孔性散孔材で、年輪のはじめに大型の道管が1～4列配列し、急激に管径を減じた後、晚材部へ向かって管径を漸減させながら単独または2～4個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、1～6細胞幅、1～60細胞高。

・カエデ属 (*Acer*) カエデ科

散孔材で管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2～3個が複合して散在し、晚材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～5細胞幅、1～40細胞高。細胞壁の厚さが異なる2種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

(3) 微細植物片分析

結果を表2に示す。中沢遺跡2号住居跡のカマドから採取した土壤試料からは、同定可能な種実遺体や動物遺存体は検出されず、炭化材や不明炭化物が検出される。多量に認められた炭化材のうち、無作為に試料20点を抽出し炭化材同定を行ったところ、コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節の2種類が認められる。なお、表中の不明炭化物は、木材組織が認められない、部位・種類不明の炭化物を示す。

一方、武家遺跡竪穴状遺構覆土から採取した土壤試料からは、木本2種類、草本10種類の種実遺体が検出される。種実遺体の遺存状態は比較的良好で、完全に炭化した栽培植物のイネ、アワヒエ、コムギ、マメ類が認められる。炭化材は10mm以下の細片を中心に多量に検出される。これら炭化材のうち、無作為に試料20点を抽出し炭化材同定を行ったところ、コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・モモの4種類が認められる。この他に、菌類の菌核（おそらく樹皮の表面に付着していた肉座菌などが考えられる）や昆虫遺骸の破片が確認されたが、動物遺存体は検出されない。以下に、同定された種実遺体の形態的特徴を、木本、草本の順に記す。

<木本>

・キイチゴ属 (*Rubus*) バラ科

核（内果皮）が検出された。灰褐色、半円形～三日月形。長さ2mm、幅1mm程度。腹面方向にやや湾曲する。表面には大きな凹みが分布し網目模様をなす。

・ブドウ属 (*Vitis*) ブドウ科

種子が同定された。黒褐色、広倒卵形、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。長さ2.8mm、幅2mm程度。背面にさじ状の凹みがある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窟んだ孔が存在する。種皮は柵状で薄く硬い。

<草本>

・イネ (*Oryza sativa L.*) イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。黒色、胚乳は長楕円形でやや偏平。長さ4～6mm、幅2.5mm、厚さ1.5mm程度。焼き膨れや発泡している状態で、遺存は悪いが、一端に胚が脱落した凹部や、画面に2～3本の縦溝が認められる個体もみられる。

・アワーヒエ (*Setaria itarica* Beauv.-*Echinochloa crus-galli* Beauv.) イネ科

炭化した胚乳が検出された。黒色、広楕円体でやや偏平。長さ1.5mm、幅1mm程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部に胚の凹みがある。表面は平滑で、同定根拠となる表面の内外縁を欠損する状態であった。

・コムギ (*Triticum aestivum* L) イネ科コムギ属

炭化した胚乳が検出された。黒色、楕円形で全体的に丸みを帯びている。長さ4mm、径3mm程度。腹面には1本のやや太く深い縦溝がある。背面基部には胚の痕跡があり、丸く窪む。表面はやや平滑。

・カヤツリグサ科 (*Cyperaceae*)

果実が検出された。形態状差異のある複数の種を含んでいるものを一括した。スゲ属と思われる個体などを含む。

・スゲ属 (*Carex*) カヤツリグサ科

果実は淡褐色ないし茶褐色。三稜状倒卵形。長さ2mm、幅1mm程度。頂部の柱頭部分がわずかに伸びる。表面には微細な網目模様がありざらつく。形態上差異のある複数の種を含む。

・アサ (*Cannabis sativa* L) クワ科アサ属

種子が検出された。灰褐色、広倒卵状楕円形。長さ3.5mm、幅3mm、厚さ2.5mm程度。基部には大きな楕円形の臍点がある。縱方向に一周する稜に沿って2つに割れている個体もみられる。種皮表面には葉脈状網目模様がある。

・タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実が検出された。黒色、広卵形でやや偏平。径1.5mm程度。頂部には花柱が残存するものもみられる。果皮表面は光沢が強く、微細な網目模様がある。

・アザ科 (*Chenopodiaceae*)

種子が検出された。黒色、円盤状でやや偏平。径1mm程度。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が同心円状に配列し、光沢が強い。

・キジムシロ属—ヘビイチゴ属—オランダイチゴ属 (*Potentilla*—*Duchesnea*—*Fragaria*) バラ科

核(内果皮)が検出された。灰褐色、腎形でやや偏平。長さ0.9mm、幅0.5mm程度。内果皮は厚く硬く、表面は微細な網目模様がありざらつく。

・マメ類 (*Leguminosae*) マメ科

炭化した種子が検出された。黒色、長楕円体。長さ3.5~5.5mm、径3.5mm程度。焼け膨れしており、種皮が裂けている等遺存状態は悪い。腹面中央の子葉の合わせ目上有る長楕円形状の臍を欠損する。子葉の合わせ目に沿って半分に割れた個体がみられる。子葉の合わせ目は平滑で、中心部がやや凹む。種皮表面は平滑で光沢がある。

・シソ属 (*Perilla*) シソ科

果実が検出された。茶褐色、卵形。径1.8mm程度。下端は舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面には浅く大きく不規則な網目模様がある。

4. 考察

(1) 中沢遺跡における植物利用

1号住居跡のカマドから出土した炭化材の樹種は、いずれもコナラ節であった。これらの試料は、一箇所から採取された試料であり、いずれも小片であることから、同一個体に由来する可能性がある。また、2号住居跡カマド覆土の微細遺物分析の結果、炭化材が多数検出されており、クヌギ節・コナラ節に同定されている。いずれも、カマド内の試料であることを考慮すると燃料材の可能性がある。検出されたクヌギ節やコナラ節は、重硬で強度が高く、薪炭材として国産材の中でも特に優良な種類の一つである。本地域では、二

次林等の構成種として一般的な種類であることから、遺跡周辺で容易に入手可能な木材を使用したことが推定される。

なお、微細遺物分析では同定可能な種実遺体や動物遺存体は検出されなかったため、植物利用についての資料は得られなかった。

(2) 武家遺跡

5号溝跡から出土した漆器片は、落葉広葉樹のブナ属であった。ブナ属は、現在でも挽物等の木地として利用される種類であり、乾燥は難しいが加工は容易で入手量も多いことから利用例が多い（橋本、1979）。特に、中世～近世の遺跡からの出土例も多いが、古い時期の資料としては大阪府利倉遺跡の古墳時代とされる資料や宮城県山王遺跡の9世紀末期～10世紀初頭とされる資料もある（島地・伊東、1988；伊東、1990；伊東・久保、2002）。今回の分析を行った漆器片は時代時期が不明であることから、今後は年代についての情報を得た上で、あらためて検討する必要がある。

竪穴状遺構や6号溝跡から出土した木片は、得られた年代観や出土遺物から弥生時代頃のものと考えられる。竪穴状遺構から出土した炭化材（炭1）は全点がモモ、炭化材（C-2）はモクレン属であった。また、同遺構覆土下部から採取された土壤試料中から検出された炭化材はクヌギ節・コナラ節・クリ・モモであった。竪穴状遺構は遺構全体が検出されておらず、その様相および用途は現段階では不明である。ただし、炭化材の出土状況や土壤試料の採取位置を考慮すると、これらは燃料材や住居構築材に由来する可能性もある。検出された炭化材の中で、クヌギ節やコナラ節などの落葉広葉樹は前述のように遺跡周辺部に生育してものを採取、利用したことが考えられる。クリは、縄文時代以降、遺跡から多数の検出例があり、縄文時代のクリの利用・管理等が指摘されている（千野、1983・1991）。関東地方における縄文時代～古代における住居構築材の検証によれば、縄文時代中期以降にクリ材の利用が増加する傾向が指摘されている（高橋・植木、1994）。したがって、本遺跡においてもクリ材を住居構築材等に利用した可能性がある。モモは、中国から渡來した栽培植物であり、果実を食用としたり核の中の子葉（仁）を薬用に用いたりする。一方、木材に特定の用途は無く木材のみを搬入したとは考え難いことから、剪定された枝、収量が落ちた老木、枯れた樹木等の不要となった木材を利用した可能性がある。ただし、山梨県内での当該期におけるモモの検出例は、種実遺体および木材について類例がない（櫛原、1999）ことから栽培の可能性を含め、今後の資料の蓄積によって評価する必要がある。なお、モモの木材は、古代～中世に比定される百々遺跡（未公表資料）や社口遺跡（植田、1997）で確認例がある。モクレン属は、周辺山地や扇状地上等に生育する種類である。したがって、遺跡の立地を考慮すると、周辺に生育していたものを採取、利用した可能性がある。

6号溝跡は、1号方形周溝墓が重複し、溝上部はこの方形周溝墓に削平されている状況が認められている。したがって、6号溝跡の構築時期は方形周溝墓構築以前と考えられる。6号溝跡から出土した木片は、溝底付近に認められた焼土・炭化物集中から出土しており、燃料材として利用されたもの一部と推測される。この木片は、カエデ属であった。カエデ属は、様々な木製品に確認される有用材であり、モクレン属（竪穴状遺構：C-1）や3号溝跡で認められたモミ属と同様に周辺山地や扇状地上等に生育する種類であることから、遺跡周辺で採取し、利用したと考えられる。

一方、竪穴状遺構覆土下部から採取した土壤試料の微細遺物分析で検出された種実遺体では、イネ、アワヒエ、コムギ、マメ類、アサなどの栽培種が認められている。いずれも炭化していることから、何らかの要因で被熱し、残存したと考えられる。山梨県内の遺跡から出土した炭化種実の状況をまとめた成果（櫛原、1999）によれば、弥生時代の遺跡からは、イネやアワヒエ、マメ類の出土が確認されている。コムギの出土例は見あたらないが、山梨県外では同時期の遺跡からコムギの出土例があり（笠原、1988；吉崎、1992；松谷、2001など）、県内でも利用されていた可能性がある。アサは栽培のために渡來した種類であり、弥生時代以降各地の遺跡で出土例が認められており（粉川、1988）、実は食用や薬用に、茎は繊維として利

用されていた可能性がある。この他に、食用可能なキイチゴ属、ブドウ属、クサイチゴ類の種実が検出されている。これらは周辺の山野に生育しており、入手も容易であったと考えられることから、食用として利用されていた可能性がある。

(3) 6号溝跡の年代観

6号溝跡底部の焼土・炭化物集中から採取された炭化材は、約2100年前の年代を示した。ここで、放射性炭素年代は、測定法自体が持つ誤差、測定の前提条件である大気中の C^{14} の濃度が過去において一定でないため、いわゆる曆年代とは一致しない。そのため、年輪年代による曆年代既知の年輪の材について放射性炭素年代測定を実施することにより、曆年代と放射性炭素年代を両軸とする補正曲線が作られている (Stuiver et al., 1993など)。そこで、INTCAL98 (Stuiver et al., 1998) に報告されている C^{14} 年代-曆年代較正データを用いて今回得られた年代の較正曆年代値を求めるとき、中央値で見た場合は、160~120B.C.、測定誤差を考慮すると350~60B.C.となり、ばらつきが大きくなるが、ほぼ弥生時代の年代を示す。前述したように6号溝跡は1号方形周溝墓と重複していることを考慮すると、今回得られた年代値は概ね調和する結果と言える。今後は、分析例を蓄積し年代値の傾向を見ることや、この結果と本遺跡における考古学的成果と合わせて評価する必要がある。

引用文献

- 橋本鉄男 (1979) ろくろ (ものと人間の文化史31), 444p., 法政大学出版局.
- 伊東隆夫 (1990) 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ. 木材研究・資料, 26, p.91-189, 京都大学木材研究所.
- 伊東隆夫・久保るり子 (2002) 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅲ. 木材研究・資料, 38, p.39-217, 京都大学木質科学研究所.
- 笠原安夫 (1988) 作物および田畠雜草種類、「弥生文化の研究 2 生業」, 金闇 恵・佐原 真編, p.131-139, 雄山閣.
- 粉川昭平 (1988) 穀物以外の植物食、「弥生文化の研究 2 生業」, 金闇 恵・佐原 真編, p.112-115, 雄山閣.
- 櫛原功一 (1999) 炭化種実から探る食生活—古代から中世を中心に—、「帝京大学山梨文化財研究所研究集会報告集2 食の復元 遺跡・遺物からなにを読みとるか」, 櫛原功一編, p.81-98, 岩田書院.
- 松谷曉子 (2001) 灰像と炭化像による先史時代の利用植物の探求. 植生史研究, 10, p.47-66.
- 中村俊夫 (2000) 14C年代から曆年代への較正. 「日本先史時代の14C年代」, p.21-40. 日本第四紀学会.
- 島地 謙・伊東隆夫編 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧, 296p., 雄山閣.
- 千野裕道 (1983) 繩文時代のクリと集落周辺植生 一南関東地方を中心にー. 東京都埋蔵文化財センター研究論集, II, p.25-42.
- 千野裕道 (1991) 繩文時代に二次林はあったか 一遺跡出土の植物性遺物からの検討ー. 東京都埋蔵文化財センター研究論集, X, p.215-249.
- 高橋 敦・植木真吾 (1994) 樹種同定からみた住居構築材の用材選択. PALYNO, 2, p.5-18.
- 植田弥生 (1997) 社口遺跡から出土した炭化材の樹種. 「社口遺跡第3次調査報告書」, p.194-198, 山梨県北巨摩郡高根町教育委員会・社口遺跡発掘調査団.
- 吉崎昌一 (1992) 古代雜穀の検出. 考古学ジャーナル, 355, p.2-14.

第6章 考察

第1節 中沢遺跡・武家遺跡の古墳時代前期の土器様相について

はじめに

古墳時代前期の土器編年研究は近年全国的に進展し、大きな成果を出してきた。このような傾向は甲府盆地においても例外ではなく、この時期の土器様相はかなり明らかになってきたといえる。しかしその様相には地域差があり、場所によっては当該時期の遺跡すらほとんど確認されておらず、空白地帯に近い地域もある。中沢遺跡・武家遺跡が所在する東山梨地域も、近年までそうした地域の一つであった。ここでは中沢遺跡・武家遺跡の発掘調査によって得られた資料を中心に、周辺遺跡の古墳時代前期の資料を見ながら、当地域の土器様相について概観してみたい。

中沢遺跡の古墳時代前期の土器

中沢遺跡の古墳時代前期の遺構は5号住居跡・7号住居跡・1号溝跡が挙げられる。このうち5号住居跡及び7号住居跡は遺物が少なく、その様相を明らかにすることは困難である。そのためここでは1号溝跡から出土した土器群を中心に見てみたい。1号溝跡は遺跡を東西に横切る遺構で、途中で途切れるものである。非常に浅く、遺物が溝内に点在していた。

遺物は壺・甕・台付甕・高杯が見られた。壺は全体の様相を知ることのできるものがほとんどないのだが、破片資料で見る限り、外面をナデで仕上げるもののが大半を占める。小片であるがヒサゴ壺（第10図-10）やパレススタイル壺（第10図-11・12）を含み、伊勢湾系の影響を垣間見ることができる。また北陸系壺の退化した形とされるものもある。甕は第11図-42が良好な資料である。球胴で器壁はヘラ状工具でケズリを施しており、古墳時代中期への過渡的な技法を看取できる。第11図-53～第12図-62は台付甕である。くの字状の口縁部を呈するもので、粗いハケで調整する。ハケが希薄な部分も見受けられ、調整が形骸化している。高杯は数が少ない。第12図-74・75は杯部破片であるが、ミガキは密ではない。76は製作時に脚部を杯部にめ込むタイプのものである。

一方で第12図-70・71のS字状口縁台付甕のように、口縁部に刺突が施された古相を呈するものも散見されるが、遺構に伴うものとは考えにくい。

これらの土器群は古墳時代前期後半の様相が色濃いものである。

武家遺跡の古墳時代前期の土器

武家遺跡の古墳時代前期の遺構は1号住居跡・1号方形周溝墓・2号方形周溝墓・2号土坑・3号溝跡・4号溝跡が挙げられる。このうち1号住居跡・2号土坑・3号溝跡・4号溝跡は遺物が少なく、その様相を把握しづらいため、1号方形周溝墓・2号方形周溝墓を中心に観察を行っていきたい。

1号方形周溝墓は調査区の東限に位置する。ブリッジ部分は調査区外にのびているものと思われ、そのためか出土遺物は比較的少ない。遺構の北東溝で遺物がまとまって見られた。

遺物は壺・台付甕が出土した。第24図-1・2は壺である。1は体部をハケ調整ののち、粗いミガキを施すものである。本来大廓式の壺の口縁部に見られた粘土紐による棒状浮文は省略され、口縁部の稜も明瞭ではない。塙山市の下西畠遺跡（註1）の1号及び3号方形周溝墓等でも類似する壺が見られる。2は球胴を呈する壺である。内外面ハケ調整ののち、外面は所々横方向のミガキが施される。3は小片であるが、壺の口縁部である。補修孔が見られる。外面は赤色塗彩が、内面は口縁端部に繩文が施される。後述する2号方

形周溝墓出土の壺（第25図-1）と同様の東駿河系の壺であると思われる。台付壺はいずれも破片資料であり、くの字口縁を呈するものが数点見られる。

2号方形周溝墓は調査区のほぼ中央に位置する。本周溝墓より西側には遺構は確認されておらず、もしかしたら周溝墓群の西限である可能性もある。南側の周溝部は調査区外にびている。遺物は西側ブリッジ付近及び東側コーナー周辺に集中しており、一括遺物が出土した。

遺物は1号方形周溝墓と同様に壺を中心として台付壺・鉢が出土した。第25図-1の壺は本周溝墓のほか、豎穴状遺構からも出土し、接合関係にある。外面肩部及び内面の口縁端部に結節繩文を施し、それぞれ2単位で円形浮文を持つ。円形浮文は肩部と口縁部では互い違いに配される。外面はミガキが施されるが、胴下半部はナデによる。内面は口縁部は横方向のミガキが施されるが、胴部は密にハケで調整される。外面は肩部の結節繩文帯を除いた部分が、内面は頸部に赤色塗彩が施される。

第26図-9はパレススタイル壺である。ブリッジ付近から出土した。胎土は他の土器より精製されており、下膨れの器形を呈する。全体的に丁寧な作りである印象を受ける。口縁部の様相は不明であるが、肩部には櫛状工具による条線と鋸歯文が交互に3段施され、胴下半部は密なミガキで調整される。外面は鋸歯文の部分と胴下半部の無文部分に、内面は頸部に赤色塗彩を施す。パレススタイル壺は濃尾平野に起源を持つもので、甲府盆地の方形周溝墓でも數例が確認されている。最も古い事例は古墳時代前期前半に位置づけられる董崎市坂井南遺跡のものである（註2）。本方形周溝墓のものは時期的には新相を呈するものであり、この段階以降ほとんど見られなくなる。

また第26図-12のように赤色塗彩される壺もあり、遺構の性格上祭司性の強い遺物が数多く見受けられる。

第26図-26は鉢である。調整は粗い。この時期には比較的多く見られる遺物で、前述の下西畠遺跡4号方形周溝墓などにも出土例がある。

以上1号及び2号方形周溝墓から出土した壺群は、いずれも大席式の最終段階の範疇として捉えることができるものである。大席式は甲斐編年ではⅣ期（註3）に併行し、およそ古墳時代前期後半に位置づけることができる。このことから本遺跡の方形周溝墓群が古墳時代前期後半に築造されたものであることを理解することができるるのである。

古墳時代前期の東山梨地域の様相

上述したように、中沢遺跡1号溝跡も、武家遺跡の方形周溝墓群もほぼ同時期の古墳時代前期後半に位置づけられることを確認した。また中沢遺跡のケズリを施した壺の存在など、一部中期への過渡的段階にあることも理解できる。

さて、古墳時代前期の東山梨地域の様相は長い間不明瞭で甲府盆地の中では空白地帯であったが、近年の発掘調査により遺跡数が少しずつ増加し、当該時期の様相が明らかになりつつある。まず武家遺跡は山梨市では初めての方形周溝墓群の発見例になるほか、本遺跡に近接し、03年に発掘調査の行われた足原田遺跡では、谷状地形を呈する部分に多数の台付壺を中心とする土器が発見されていた。またさらに東部に位置する塙山市では3次にわたって発掘調査が行われた西田遺跡が所在する（註4）。西田遺跡は古墳時代前期中頃～後半にかけての方形周溝墓群で、長くこの地域の古墳時代前期の土器様相の代表遺跡となってきた。さらに97年に調査の行われた下西畠遺跡でも新たに4基の方形周溝墓群が確認され資料を補強した。また下西畠遺跡の南に位置する大木戸遺跡（註5）では同時期の住居跡1軒と溝跡が、五反田遺跡（註6）では6軒の住居跡がそれぞれ確認されるなど、墓域と集落跡のセット関係が明らかになりつつある。一方92年に牧丘町曲田遺跡調査会によって調査の行われた牧丘町窟平に所在する曲田遺跡（註7）では、古墳時代前期の住居跡13軒を確認している。報告書が未刊行であるため詳細については不明であるが、発表されている資料などから古墳時代前期後半に位置づけられるS字状口縁台付壺等が確認できるため、ほぼ同時期の集落跡であると推測できる。

このように東山梨地域では古墳時代前期でもとくに後半の遺跡が数多く所在することは、当地域の一つの特徴であるといえる。

下西畠遺跡の報告で駿東地域の方形周溝墓の動向とそこから出土した土器様相について触れている（註1）が、そこで駿東地域の造墓活動は、おおむね遅くとも4世紀第3四半期には開始され、第4四半期に定着したことを推測している。そしてその背景には甲斐銚子塚古墳の出現が画期となり甲府盆地が安定した結果であり、やがて方形周溝墓が社会の枠組みの中に組み込まれていくものと位置づけている。今回の発掘調査で確認された武家遺跡の方形周溝墓はわずか2基であるため、周溝墓群がいつ頃から造られ始め、いつ頃終焉を迎えるのかは定かではない。しかし確認された2基がいずれも当該時期に造墓されることから、このような推測とほとんど矛盾しないのではないかと考える。

さらに周溝部からは、いくつかの東駿河系の土器が出土した。このような東駿河系の土器群の出土は、東八代郡境川村の諫訪尻遺跡第2号墳（註8）で見られるなど、盆地内で広く確認できる。また甲斐銚子塚古墳と駿河の松林山古墳と副葬品の組み合わせが類似することはすでに指摘されているところであり、このようなことと併せてこの時期駿河との交流が持たれていたことを示唆する資料の一つになり得るものと思われる。

おわりに

以上東山梨地域の古墳時代前期後半の様相について概観した。まだまだ資料は少ないのだが、徐々に資料が増加し、その様相が明らかになりつつあることを確認した。山梨市・春日居町周辺には数多くの後期古墳があること、またそれらの中には銅鏡や馬具など、盆地のなかでも優れた副葬品が葬られている古墳も存在することなどから、これらの基盤になった集団がすでに古墳時代前期後半には所在している可能性が高い。今後の発掘調査等からさらに綿密な集落・墓域の分布が明らかになることは間違いないと思われる。それに伴う資料の増加を期待したい。

引用・参考文献

- 註1 石神孝子ほか 2002 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第196集『下西畠遺跡・西畠遺跡・影井遺跡・保坂家屋敷墓』 山梨県教育委員会・山梨県土木部
- 註2 山下孝司ほか 1995 『坂井南（大原）遺跡』 茷崎市教育委員会
- 註3 小林健二 1998 「甲斐における古式土師器の成立—3・4世紀の土器編年と墳墓—」『専修考古学』第7号 専修大学考古学会
- 註4 山崎金夫ほか 1978 『西田遺跡第1次発掘調査報告書』 山梨県遺跡調査団
- 註5 石神孝子ほか 2003 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第205集『大木戸遺跡』 山梨県教育委員会・山梨県土木部
- 註6 吉岡弘樹ほか 2002 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第194集『五反田遺跡』 山梨県教育委員会・山梨県土木部
- 註7 大崎文裕 1998 「曲田遺跡」「山梨県史」資料編1 原始・古代1 山梨県
高野玄明 1995 「県道塩平～塙平線拡幅工事に先立つ牧丘町曲田遺跡調査報告」「研究紀要」11 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 註8 野代恵子ほか 2000 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第180集 「諫訪尻遺跡」 山梨県教育委員会・山梨県土地開発公社

第7章 まとめ

今回の調査は遺跡の一部を調査したに過ぎないが、確認された遺構やその出土遺物は、甲府盆地北東縁部という地理的状況下で、これまで全く未確認であった時期的空白を埋めたことやこの地域の地域的空白を埋めたことにおいて大きな成果があった。

中沢遺跡では、古墳時代前期の住居跡と奈良時代の集落跡が確認されたわけであるが、この両者、山梨市内ではともに初めての確認である。古墳時代前期と判断した住居跡は炉が確認されなかったこともあって遺構としての状態は決してよくはないものの、その存在が確認されたことだけでも充分意義がある。一方、奈良時代の集落は県内でも調査例が非常に少なく、今回のように奈良時代だけの集落跡はほとんど例を見ない。これまで県内で確認されている奈良時代集落のほとんどは、さらに平安時代まで引き継がれ、むしろ平安時代集落が主体となって、そのなかに奈良時代の住居が点在する様相が一般的である。確認事例は決して多いとは言えないものの、そのなかでも奈良時代集落は東八代郡下や春日居町内などで県内では最も濃い分布を示し、まさにこのエリアがこの時代の甲斐国を中心地であることを示している。しかし、この地域での確認状況は上記の通りである。今回の調査では面積が小さいことも考慮しなければならないのかもしれないが、時代がかけ離れた古墳時代前期の2軒を除けば、通常見られる平安時代の住居跡が全く確認されず、奈良時代だけの集落となる点が大きな特徴といえる。本遺跡での今回の奈良時代集落の確認は、当時の中心地域という地域性を裏付ける資料となるとともに、これまで県内では未確認であった平安時代集落と重ならない奈良時代集落について、立地を含む周辺環境を探る手がかりになるとと考えられる。また、今回の調査で得られた8世紀代の土器類は量的にはそれほど多いとは言えないものの、甲斐型土器の発生前後に位置付けられ、その成立を考える上できわめて重要な資料である。

武家遺跡では弥生時代の溝と古墳時代前期の住居跡・方形周溝墓が確認された。山梨市内では、弥生時代の遺構確認は初めてである。これまで僅かな遺物が散見されるだけであったが、今回の確認により全くの空白域であったこの時期の研究によくやく足掛かりを得たといえよう。また、今回確認された溝は、形状から方形周溝墓であることも考えられ、甲府盆地北東縁で初めての確認となる可能性がある。古墳時代前期の住居跡や方形周溝墓も、やはり山梨市内では初めての確認であり、隣接の塩山市内で確認された同時期の遺跡との比較、あるいは盆地一円との比較などにおいて大きな意義がある。また、この住居跡で確認された炉の形態は、本文中に示したように、炉床に粘土を貼りつけ、かつ入り口部側に粘土による土手状盛り上がりを有するタイプである。保坂康夫氏はこれを土手付き炉と称しているが、このタイプは、弥生時代後期から古墳時代前期にかけてみられ、とくに古墳時代前期には曾根丘陵を中心に盆地西縁や東縁などに多いとされていた。住まいや生活様式、あるいは個々の要素が同じ形態であることは、その居住者が同じ出自を示す可能性が考えられ、甲府盆地というきわめて狭いエリア内での土器による区分（細かなグルーピング）はとても不可能な状況であっても、このような別の要素によるグルーピングが可能となるかもしれない。その意味で、個々の要素の差異には今後さらに注目していく必要があろう。保坂氏の挙げた数値によれば、盆地西部の村前東遺跡では140軒の内の31軒（22%）、盆地東部の西田遺跡2次では54軒の内7軒（13%）が土手付き炉である。今回西田遺跡と同じ地域で確認された唯一の住居跡の炉にこの形態が用いられていたことからすれば、この形態の普及力はかなり強いものであったと考えられ、その背景が興味深い。

このように、二つの遺跡で合計1200m²程度の調査ではあったが、様々な角度で他地域との対比が可能となったという成果が得られた。今回調査した地点の近隣には、確実に同時期の遺構・遺物が存在する。それらの確認や保護とともに、これからこの地域においては、今回確認された時期の遺構の存在を予測しながら調査実施する必要ができたことなど、今後に与える影響も大きいものといえる。

中沢遺跡出土土器観察表

測量番号	番	通稱	種別	器名	法面		調査	色	形	胎土	保存状	登記號	その他
					口	底							
10 1	15	土師器	直	-	-	-	外面部ガラ内面ナダ	白	白色露均・石英・砂粒子	破片	中沢5住4		
10 2	15	土師器	直	-	-	-	外面部凹内面凸	赤	白色露均・砂粒	破片	中沢5住3		
10 3	3	土師器	杯	-	-	-	外面部ナダ(残片?)	緑	白色露均・白色・白色粒子	破片	中沢5住1		
10 4	76	土師器	直	16	2	-	外面部ナダ(残片?)口縁部折り返し	黄緑	白色粒子	破片	中沢5住1		
10 1	1	土師器	直	16.5	8.3	-	外面部方向ハケ 口縁部折コナダ 内面横方向	白	白色露均・石英	破片	中沢1C/26-204		
10 2	1	土師器	直	12	5	-	外面部凹内向ハケ 内面横凹	黄	白色粒子	破片	中沢1C/234		
10 3	1	土師器	直	16	3.5	-	外面部ナダ 内面ハカのちナダ 口縁部コナダ 端	白	白色露均・砂粒子	破片	中沢1C/234		
10 4	1	土師器	直	14	3.6	-	外面部凹内向ハケ 口縁部コナダ 内面ナダ	黄	白色露均・白色・砂粒子	破片	中沢1C/168		
10 5	1	土師器	直	12	2.5	-	外面部ナダ 内面ハカ	白	白色露均・砂	破片	中沢1C/165		
10 6	1	土師器	直	9	2.7	-	外面部凹内向ハケ 内面ナダ ベタつみ上げ	白	白色粒子	破片	中沢1C/225		
10 7	1	土師器	直	16	4.4	-	外面部ナダ	白	石英・砂	破片	中沢1C/267		
10 8	1	土師器	直	13	4.3	-	外面部コナダ 口縁部あり	白	白色露均・砂	破片	中沢1C/141-142-178		
10 9	1	土師器	直	-	-	-	外面部のちナダ 内面横方向	白	白色・砂	破片	中沢1C/95		
10 10	1	土師器	直	8	2.8	-	外面部ナダ	白	白色粒子	破片	中沢1C/132	ヒサゴ追	
10 11	1	土師器	直	-	-	-	外面部ナダ J.其による鉛文と朱絵線 内面	白	砂粒子	破片	中沢1C/	12と同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
10 12	1	土師器	直	-	-	-	外面部工具による多くの穴の内側・矢跡文・鉛文	白	白色露均・石英・砂粒子	破片	中沢1C/197	11と同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
10 13	1	土師器	直	-	6	-	外面部のちナダ 内面横ナレテ 口縁部あり	白	石英・砂	破片	中沢1C/56-56		
10 14	1	土師器	直	-	7.7	-	外面部横開 口縁部ハケズ	白	白色・多色砂多量	破片	中沢1C/205		
10 15	1	土師器	直	-	3.6	-	外面部のちナダ 内面ナダ 口縁部あり	白	白色・白色・砂粒子	破片	中沢1C/167		
10 16	1	土師器	直	-	-	-	外面部ナダ 外面部横開 影影横痕あり	白	白色露均・石英・砂粒子	破片	中沢1C/71		
10 17	1	土師器	直	-	-	-	外面部ナダ 残片なし 内面ナダ	白	白色露均・白色粒子	破片	中沢1C/243		
10 18	1	土師器	直	-	-	-	外面部ナダ 残片なし 内面工具添	白	砂糖多量	破片	中沢1C/19		
10 19	1	土師器	直	-	-	-	外面部工具添 内面工具添	白	石英・砂粒子	破片	中沢1C/138		
10 20	1	土師器	直	-	-	-	外面部のちナダ 内面横ナダ	白	白色露均・砂	破片	中沢1C/226		
10 21	1	土師器	直	-	-	-	外面部のちナダ 内面ナダ	白	砂粒子	破片	中沢1C/167		
10 22	1	土師器	直	-	-	-	外面部のちナダ 内面ナダ	灰	白色	破片	中沢1C/16		
10 23	1	土師器	直	-	-	-	外面部ナダ	白	白色露均・砂粒子	破片	中沢1C/11	23と同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
10 24	1	土師器	直	-	-	-	外面部ナダ	白	白色粒子・砂	破片	中沢1C/121	23と同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
10 25	1	土師器	直	-	-	-	外面部のちナダ 内面ナダ	白	白色粒子・砂	破片	中沢1C/213	23と同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
10 26	1	土師器	直	-	-	-	外面部ナダ 残片 内面ナダ	白	白色粒子・砂	破片	中沢1C/39	23と同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
10 27	1	土師器	直	-	-	-	外面部のちナダ 内面ナダ 指痕跡あり	白	白色粒子・砂	破片	中沢1C/143	23と同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
10 28	1	土師器	直	-	5	9.6	外面部ナダ 残片 脊部若い外山部付近ハケ	白	砂糖	破片	中沢1C/39-47		
10 29	1	土師器	直	-	2.3	9	外面部ナダ 逆山形横痕	白	白色露均・石英・砂	破片	中沢1C/244		
10 30	1	土師器	直	-	2.8	11.6	外面部ナダ	白	白色露均・石英・砂	破片	中沢1C/245		
10 31	1	土師器	直	-	1.7	9.2	外面部ナダ	白	白色露均・白色粒子	破片	中沢1C/236		
10 32	1	土師器	直	-	2.5	5	外面部横開	白	白色露均・白色粒子	破片	中沢1C/148		
11 33	1	土師器	直	-	2.9	4	外面部ガラ 内面横かみハケ	白	砂	破片	中沢1C/65-140		
11 34	1	土師器	直	-	2	2.4	外面部ナダ 内面ハカ	白	砂	破片	中沢1C/13-133		
11 35	1	土師器	直	-	1.5	4.8	外面部横開	白	砂	破片	中沢1C/		
11 36	1	土師器	直	-	2	4	外面部横開	白	砂	破片	中沢1C/183		
11 37	1	土師器	直	-	2	2.5	外面部横開	白	砂	破片	中沢1C/68		
11 38	1	土師器	直	-	2.5	3.5	外面部ヘラナダ 底辺附近若干ヘア剥離 内面ナダ	白	白色粒子・砂	破片	中沢1C/78		
11 39	1	土師器	直	-	2.5	2.5	外面部ナダ 内面ハカ	白	白色粒子・砂	破片	中沢1C/237		
11 40	1	土師器	直	-	1.8	2.6	外面部ナダ	白	砂	破片	中沢1C/186		
11 41	1	土師器	直	-	1.3	3	外面部ナダ	白	砂	破片	中沢1C/		
11 42	1	土師器	台付壺	16	20	-	外面部凹内向ハケ 内面横方向ハケ 口縁部コナダ	白	白色露均・砂	破片	中沢1C/1-20-38-60-91-94-96-101-102-215-217		
11 43	1	土師器	台付壺	14	8.5	-	外面部モチナダ 小範囲あり	白	砂	破片	中沢1C/牛沢1C/		
11 44	1	土師器	台付壺	18	2.5	-	外面部のちナダ 内面横方向ナダ	白	白色露均・白色粒子	破片	中沢1C/195		
11 45	1	土師器	台付壺	20	2.6	-	外面部横方向ナダ	白	砂	破片	中沢1C/中沢1C/		
11 46	1	土師器	台付壺	20	2.1	-	外面部純ナダ ナダか?	白	石英・砂	破片	中沢1C/		
11 47	1	土師器	台付壺	16	2.4	-	外面部横方向ナダ	白	砂	破片	中沢1C/160		
11 48	1	土師器	台付壺	14	1.6	-	外面部横方向ナダ	白	砂	破片	中沢1C/163		
11 49	1	土師器	台付壺	14	2.2	-	外面部横方向ナダ	白	砂	破片	中沢1C/230		
11 50	1	土師器	台付壺	16	3.7	-	外面部純 内面横方向ハケ	白	砂	破片	中沢1C/147		
11 51	1	土師器	台付壺	11	4.1	-	外面部ナダ	白	白色粒子・砂	破片	中沢1C/241		
11 52	1	土師器	台付壺	16	4.5	-	外面部純	白	石英・砂粒子	破片	中沢1C/3		
11 53	1	土師器	台付壺	18.8	9.2	-	外面部ハケ 内面横縁コハケ 脊部ヘラナダ 割れ縁跡あり 内面横凹	白	白色砂糖	50	中沢1C/牛沢1C/173-174-182-201-210	53-62同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
11 54	1	土師器	台付壺	-	-	-	外面部ハケ 内面ナダ 一部ヘラナダ	白	白色砂糖	50	中沢1C/22-29-197	53-62同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
11 55	1	土師器	台付壺	-	-	-	外面部ハケ 内面ナダ 一部ヘラナダ	白	白色砂糖	50	中沢1C/194	53-62同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
11 56	1	土師器	台付壺	-	-	-	外面部ハケ 内面ナダ 一部ヘラナダ	白	白色砂糖	50	中沢1C/11-18-128	53-62同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
11 57	1	土師器	台付壺	-	-	-	外面部ハケ 内面下部ナダ一部ヘラナダ 下部	白	白色砂糖	50	中沢1C/9-32-165	53-62同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
11 58	1	土師器	台付壺	-	-	-	外面部ハケ 内面ナダ一部ヘラナダ	白	白色砂糖	50	中沢1C/		
11 59	1	土師器	台付壺	-	-	-	外面部ハケ 内面ナダ一部ヘラナダ	白	白色砂糖	50	中沢1C/27-158	53-62同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
11 60	1	土師器	台付壺	-	-	-	外面部ハケ 内面ナダ一部ヘラナダ	白	白色砂糖	50	中沢1C/179	53-62同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
12 61	1	土師器	台付壺	-	-	-	外面部ハケ 内面上部ナダ一部ヘラナダ 下部	白	白色砂糖	50	中沢1C/牛沢1C/171	53-62同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
12 62	1	土師器	台付壺	-	4.2	5	外面部ハケ 内面ナダ一部ヘラナダ	白	白色砂糖	50	中沢1C/8-28-110-162-164-176	53-62同一脚 帕ルスルスノイルズなど	
12 63	1	土師器	台付壺	-	9.7	-	外面部ハケ 内面ナダ一部ヘラナダ	白	白色砂糖	50	中沢1C/62-65-80-82	53-62同一脚 帕ルスルスノイルズなど	

番号	造	造	種別	番号	底面		側面		色調	土	既存物	注記	その他	
					口徑	底径	底径	底径						
12	04	1度	土器部	台付窓	-	10.5	-	-	内面凹ハケ調直	赤褐	金色雲母	破片		
12	05	1度	土器部	台付窓	-	3	-	-	外面ハケ・内面ナデ	明黄褐	砂糖	破片	中灰10±128	
12	06	1度	土器部	台付窓	-	3.2	-	-	内面周縁部	浅黄褐	砂糖	破片	中灰10±1203	
12	07	1度	土器部	台付窓	-	3.2	-	-	内面周縁部	浅黄褐	砂糖	破片	中灰10±1233	
12	08	1度	土器部	台付窓	-	1.5	-	-	内面周縁部	褐	砂糖	破片	中灰10±127	
12	09	1度	土器部	台付窓	-	4	-	-	内面周縁部	褐	砂糖	破片	中灰10±1227	
12	70	1度	土器部	S字窓	14	7.5	-	-	外側口縁部コロコロ 制作初め 斜面ヨコハケ脚部 側面ナシナメル 内面口縁部コロコロ 脊部横方向 ハケ 制作ナシナメル	明褐	石英-白色粒子多量-砂糖	破片	中灰10±14-中灰10±14 13-14-20	
12	71	1度	土器部	S字窓	11	2.5	-	-	内面周縁方向ナメル 内面周縁横方向ハケ	褐	石英-白色粒子多量-砂糖	破片	中灰10±1226	
12	72	1度	土器部	S字窓	10	-	-	-	外側口縁部コロコロ 制作ナシナメル 内面ニビテナ にナシナメル	白	白色粒子多量	破片	中灰10±141	
12	73	1度	土器部	窓	16	5.5	-	-	内面口縁部ヨコナメル 内面周縁斜ナメルのち一筋 ガタ内面ナデ	褐	白色雲母-白色粒子	破片	中灰10±14-中灰10±15 226-229	北陸系
12	74	1度	土器部	高杯	-	-	-	-	内面周縁方向ガタ 制作初め	金	金黄色-白色-砂粒	破片	中灰10±170	
12	75	1度	土器部	高杯	-	-	-	-	内面周縁方向ガタ 色調	白	白色斑点-砂粒	破片	中灰10±112	
12	76	1度	土器部	高杯	-	2.5	-	-	内面周縁方向ガタ 摩耗	褐	白色斑点-砂粒	破片	中灰10±17	
12	77	1度	土器部	高杯	-	3.2	-	-	外側口縁部ガタ 内面ナデ 内面ニビテナ	褐	白色斑点-白色砂糖	破片	中灰10±49	
12	78	1度	土器部	高杯	-	3.9	-	-	内面周縁部 内面ナメル	白	白色斑点	明赤崩	中灰10±76	
12	79	1度	土器部	高杯	-	4.2	-	-	外側口縁方向ニギナ 内面粗いナメル 内孔3.5cm	褐	白色斑点-白色砂糖多量	破片	中灰10±125	
12	80	1度	土器部	高杯	-	1.5	-	-	外側口縁ナメル 内面ナデ	明赤崩	白色斑点	破片	中灰10±144	
12	81	1度	土器部	高杯	-	2.2	-	-	外側口縁ガタ 内面ヘタナデ	浅黄褐	白色斑点-砂粒	15	中灰10±127	
12	82	1度	土器部	高杯	-	2.9	-	-	外側口縁ガタのちナメル 内面ヨコハケ 斜面内面赤色 部	浅黄褐	白色斑点-砂粒	15	中灰10±123	
12	83	1度	土器部	杯	16	2.4	-	-	内面口縁部成形	明赤崩	砂粒	15	中灰10±70-80	
13	1	1住	土器部	杯	14	3	8.5	内面ヨコナメル 頂下端ヘタケツ	褐	砂粒子	25	中灰10±15-中灰10±12		
13	2	1住	土器部	杯	14.2	3.4	9	外側ヨコナメルのちヘタナデ 内面ヘタナデ	黄褐	砂粒子	20	中灰10±15-中灰10±11 11-10±12		
13	3	1住	土器部	窓	-	-	-	内面ヨコナメル	明赤崩	白色斑点-白色砂粒	破片	中灰10±147		
13	4	1住	土器部	窓	-	-	-	外側ヨコナメル・ハケ 内面ヨコナメル	褐	白色斑点-石英-砂糖	破片	中灰10±16		
13	5	1住	土器部	窓	-	-	-	外側ヨコナメルハケ 内面ヨコナメル	褐	砂糖	破片	中灰10±カド		
13	6	1住	土器部	窓	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコハケ	にナシ-砂粒	白色斑点-石英-砂糖	破片	中灰10±中灰10		
13	7	1住	土器部	窓	25.3	33	10	内面ヨコナメルヨコナメル 斜面底-外側ヨコナメル 内面ヨコハケ 斜面底 内面ヨコナメル 植物底	暗赤	白色斑点-石英-白色砂糖多量	30	中灰10±15-中灰10±11 11-10±12		
13	8	1住	土器部	窓	-	8	10.1	外側ハケ 壁純 内面ヨコナメル 植物底 斜面底	褐	砂粒子	10	中灰10±カド-中灰10±カド 10±カド-14±		
13	9	1住	土器部	窓	-	5.3	9.4	内面ヨコナメル 斜面底	にナシ-砂粒	白色斑点-石英-砂糖	破片	中灰10±カド		
13	10	1住	土器部	窓	-	-	外側ヨコナメルのちヨコハケ ハラナデ 内面ヨコハケ 底斜面	にナシ-砂粒	砂粒子	破片	中灰10±12-29			
13	11	2住	土器部	杯	16.8	5	11	外側ヨコナメル 内面ヨコナメル 下端ヘタマキ 先足 外側ヨコナメル 細縫合 縫合ヘタケツ	褐	砂粒子	20	中灰10± 中灰10±2- 9-10		
13	12	2住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコハケ	明赤崩	白色斑点-砂粒	破片	中灰10±カド-1-中 灰10±1-3-4-5-6-7-8-9-10		
13	13	2住	土器部	杯	-	-	-	内面ヨコナメルハケ 制作薄い	赤	白色斑点-砂粒	破片	中灰10±カド		
13	14	2住	土器部	杯	-	-	-	内面ヨコナメルハケ 制作薄い	赤	白色斑点-砂粒	破片	中灰10±12		
13	15	2住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコナメル	褐	砂粒子	破片	中灰10±4		
13	16	2住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコハケ	褐	砂粒子	破片	中灰10±3		
13	17	2住	土器部	杯	-	-	9.8	外側ヨコナメル 内面ヨコナメル 歪底本底直角	褐	砂粒子若干	破片	中灰10±10		
14	1	3住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメル 内面ヨコナメル 突起ヘタケツ	褐	砂粒子若干	破片	中灰10±10		
14	2	3住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコハケ	褐	白色斑点-砂粒子	破片	中灰10±32		
14	3	3住	土器部	杯	17.6	5.5	-	内面ヨコナメル 内面ヨコナメル	にナシ-砂粒	白色斑点-砂粒子	破片	中灰10±40		
14	4	2住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコナメル	にナシ-砂粒	白色斑点-砂糖	破片	中灰10±37		
14	5	3住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 突起ヘタケツ 内面ヨコハケ	にナシ-砂粒	白色斑点-砂糖	破片	中灰10±18		
14	6	3住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコハケ 斜面底	にナシ-砂粒	白色斑点-石英-砂糖	破片	中灰10±37-26- 27同上		
14	7	2住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメル 内面ヨコハケ 制作薄	にナシ-砂粒	白色斑点-石英-砂糖	破片	中灰10±39- 40同上		
14	8	3住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコハケ	褐	砂粒子若干	破片	中灰10±21		
14	9	3住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコハケ	にナシ-砂粒	白色斑点-石英-砂粒子	破片	中灰10±41		
14	10	3住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコナメル	褐	砂粒子	破片	中灰10±5		
14	11	3住	土器部	杯	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 制作薄	にナシ-砂粒	砂粒子	破片	中灰10±3		
14	12	3住	土器部	杯	-	-	-	内面ヨコナメル 脱脂底	明黄褐	砂粒子	破片	中灰10±34		
14	13	3住	土器部	杯	-	-	1.8	6	内面ヨコナメル	明褐	砂粒子	破片	中灰10±28	
14	14	3住	土器部	杯	-	2	6	内面ヨコナメル	にナシ-砂粒	砂粒子	破片	中灰10±34		
14	15	3住	土器部	杯	-	-	-	内面ヨコナメル 内面ヨコナメル	灰	砂粒子	破片	中灰10±33		
14	16	3住	底盤部	窓	-	-	-	外側ヨコナメル 内面ヘタケツ	灰白	砂糖	破片	中灰10±30		
14	1	4住	土器部	杯	14.5	6	8.4	内面ヨコナメルヨコハケ 突起底つまみ上3.0 底部ヘタケツ り 突起底斜射状構造	褐	白色斑点-砂糖	30	中灰10± 中灰10±6 13		
14	2	4住	土器部	杯	12.8	6	8	内面ヨコナメル 内面ヨコナメル 有り 有り ヘタケツ	白	白色斑点-砂糖	10	中灰10±5-19		
14	3	4住	土器部	杯	12	3.7	-	外側ヨコナメル 内面ヨコナメル	褐	白色斑点-砂糖	10	中灰10±24		
14	4	4住	土器部	杯	-	-	-	内面ヨコナメル	明黄褐	砂粒子	破片	中灰10±63		
14	5	4住	土器部	杯	-	3.3	7	ワコロナメル 外側ヨコナメル-底部-底端-ヘタケツ 内面ヨコ ナメル 斜射状構造	褐	砂糖	20	中灰10±カド-5		
14	6	4住	土器部	杯	-	2.7	7	ワコロナメル 外側ヨコナメル-底端-ヘタケツ 内面ヨコ ナメル 斜射状構造	白	白色斑点-砂糖	20	中灰10±カド-2		
14	7	4住	土器部	杯	13.2	4.5	8.2	ワコロナメル 内面ヨコナメル	褐	砂糖	60	中灰10±53-56		
14	8	4住	土器部	杯	12.6	4.5	7.8	ワコロナメル 内面ヨコナメル 斜射状構造	白	白色斑点-砂糖	90	中灰10±40		
14	9	4住	土器部	杯	14.8	13.3	9.4	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ナメル ヨコハケ 突起底内面ヨコナ メル 底部-底端	白	白色斑点-砂糖	90	中灰10±28-31-35- 36-46		
14	10	4住	土器部	窓	12	-	-	外側ヨコナメル 内面ナメル	褐	白色斑点	破片	中灰10±33		
14	11	4住	土器部	窓	21.8	9.7	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコナメル	白	白色斑点-石英-砂糖	25	中灰10±4 中灰10±4 14-15	12-16同上-個體	
15	12	4住	土器部	窓	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコナメル	白	白色斑点-石英-砂糖	10	中灰10±V-V		
15	13	4住	土器部	窓	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコナメル	白	白色斑点-石英-砂糖	10	中灰10± 中灰10±住 V-V		
15	14	4住	土器部	窓	-	-	-	外側ヨコナメルヨコハケ 内面ヨコナメル	白	白色斑点-石英-砂糖	12	12-16同上-個體		

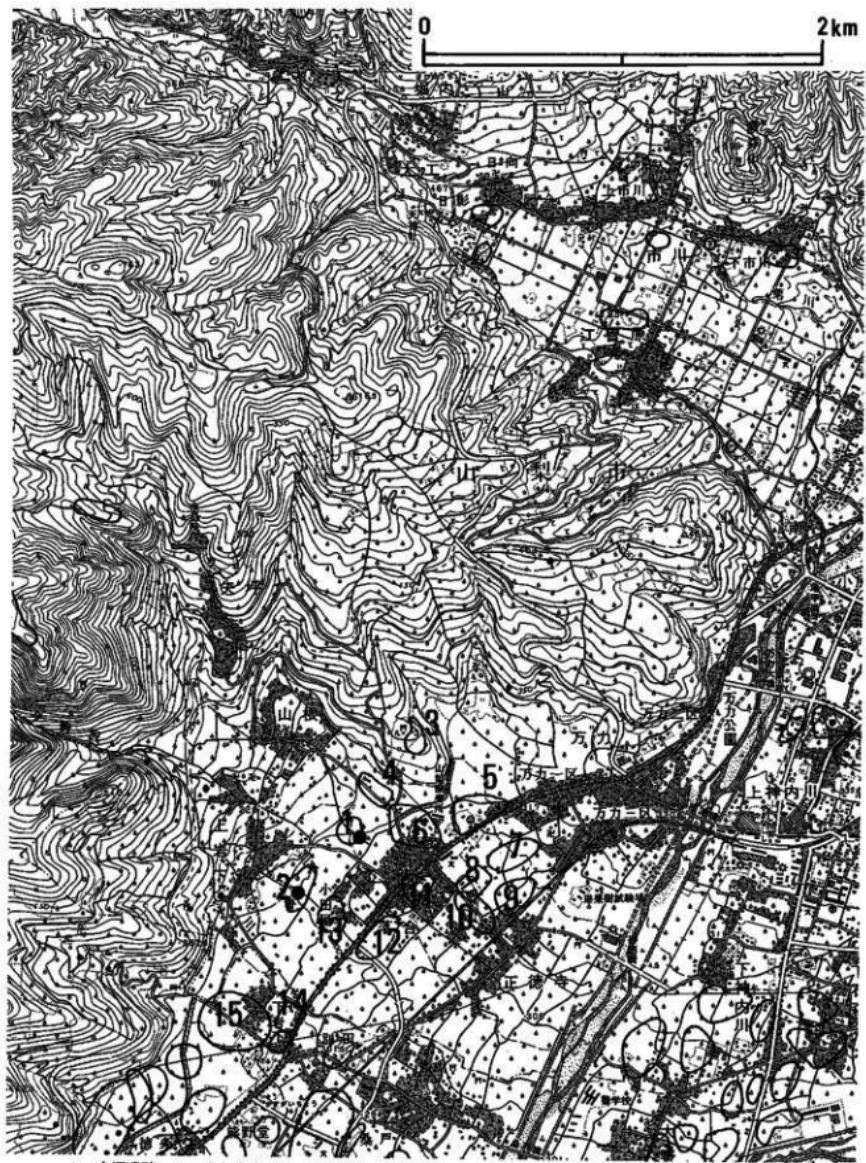
監査番号	番	種類	種類	口	底面(奥行)	底面	調査		色	種類	地	推存年	注記	その他	
							高さ	幅							
15	13	4往	土解器	便	-	-	外表面方向ハケ 内表面方向ハケ 幅広の輪郭線あり		煙	金色雲母-石英-砂鐵	-	中央4往18	12~16回-側体		
15	14	4往	土解器	便	-	-	外表面方向ハケ 内表面方向ハケ		煙	金色雲母-石英-砂鐵	-	中央4往13	12~16回-側体		
15	15	4往	土解器	便	-	-	外表面方向ハケ 内表面方向ハケ		煙	金色雲母-石英-砂鐵	-	中央4往41	12~16回-側体		
15	16	4往	土解器	便	-	-	内表面ナデ		煙	金色雲母-石英-砂鐵	-	中央4往19			
15	17	4往	土解器	便	-	-	内表面ナデ	にふくらむ	烟	金色雲母-白色粘土-石英	-	中央4往2			
15	18	4往	土解器	便	-	-	外表面方向ハケ 内表面ナデ 堆積		烟	金色雲母多量-砂鐵	-	中央4往25			
15	19	4往	土解器	便	-	-	外表面方向ハケ 内表面方向ハケ		烟	金色雲母-石英-砂鐵	-	中央4往10			
15	20	4往	土解器	便	1.8	3.8	内表面ナデ 内表面ナデ	にふくらむ	烟	石英-白雲母-砂鐵	-	中央4往7			
15	21	4往	土解器	小型鉢	10.8	7.3	外表面ナデ 距離似内表面方向ハケ 縫隙あり	お湯	金	金色雲母-石英	70	中央4往51~84			
15	22	4往	土解器	便	-	-	内表面ナデ 口縁部つまり上げ		煙	金色雲母-砂鐵	-	中央4往4			
15	23	4往	土解器	便	-	-	ロクロ成形	ヨリツイ	烟	金色雲母	-	中央4往37			
15	24	4往	土解器	新規草	(直徑) (底径) (厚)	9.0 3.2 1.0	「好」表文一様刺繡		明	金	金色雲母若干-砂鐵	95	中央4往33		
15	25	6往	石	石臼	(底径) 6.2	(厚) 1.9	使用着い		-	-	-	50	中央4往27		
16	1	5往	土解器	杯	13	9.5	内表面コナデ 外表面底部ハクズリ	にふくらむ	虫	金色雲母若干	30	中央4往6-111-112			
16	2	6往	土解器	杯	18.3	3.3	ロクロ成形 内外表面コナデ	にふくらむ	虫	金色雲母若干	被片	中央4往98			
16	3	5往	土解器	杯	-	4.7	ロクロ成形 内外表面コナデ	明るめ	虫	金色雲母	15	中央4往9-中央4往83			
16	4	6往	土解器	杯	-	11	内表面コナデ 底部ハクズリ	明るめ	虫	砂鐵子	被片	中央4往6			
16	5	6往	土解器	杯	-	1.2	9	ロクロ成形 内外表面コナデ 底部ハクズリ	明るめ	虫	砂鐵子	10	中央4往122		
16	6	6往	土解器	杯	-	2.4	8.5	ロクロ成形 内外表面コナデ	明るめ	虫	白色-赤鉄子	10	中央4往124		
16	7	6往	土解器	杯	-	1.8	10 ロクロ成形 外表面斜面付近-底部ハクズリ 内表面コナデ	にふくらむ	虫	砂鐵子	40	中央4往11-32			
16	8	6往	土解器	便	16	10	内表面は鉛錠工具によるコロハケ 外表面底部ハクズリ 小さな堆疊あり 内外表面のカナヘア剥離	明るめ	虫	金色雲母-紅英-砂鐵多量	25	中央4往59-96-102-112			
16	9	6往	土解器	便	25.8	4.3	内表面山口縫隙コナデ 外表面側面部ハケのちびコナデ	にふくらむ	虫	白砂鐵-黑色粘土子	被片	中央4往4-40			
16	10	6往	土解器	便	21	4.5	内表面山口縫隙コナデ	明るめ	虫	金色雲母-石英-砂鐵	被片	中央4往3			
16	11	6往	土解器	便	22	4.1	内表面山口縫隙コナデ	明るめ	虫	石英-砂鐵	被片	中央4往5			
16	12	6往	土解器	便	24	4	内表面山口縫隙コナデ	虫	虫	白雲母子	被片	中央4往42			
16	13	6往	土解器	便	22	4.5	内表面山口縫隙コナデ 類似輪郭線あり	虫	虫	白色雲母-砂鐵	被片	中央4往13			
16	14	6往	土解器	便	22	4	内表面山口縫隙コナデ	虫	虫	砂鐵子	被片	中央4往6			
16	15	6往	土解器	便	36	2.1	内表面山口縫隙コナデ	虫	虫	金色雲母-白色砂鐵子	被片	中央4往25			
16	16	6往	土解器	便	2.3	内表面山口縫隙コナデ	虫	虫	虫	中央4往23					
16	17	6往	土解器	便	25	1.5	内表面山口縫隙コナデ	明るめ	虫	石英-砂鐵	被片	中央4往6			
16	18	6往	土解器	便	16	2.8	内表面山口縫隙コナデ	明るめ	虫	石英-砂鐵	被片	中央4往15-100			
16	19	6往	土解器	便	26	2.5	内表面山口縫隙工具によるコロハケ	虫	虫	金色雲母-石英-砂鐵	被片	中央4往20-74-127			
16	20	6往	土解器	便	16	2.2	内表面山口縫隙コナデ	にふくらむ	虫	白色雲母-砂鐵子	被片	中央4往6			
16	21	6往	土解器	便	-	-	内表面山口縫隙コナデ	明るめ	虫	金色雲母-砂鐵子	被片	中央4往39			
16	22	6往	土解器	便	-	-	内表面山口縫隙コナデ	明るめ	虫	金色雲母-石英-砂鐵	被片	中央4往42			
16	23	6往	土解器	便	-	-	内表面山口縫隙コナデ	明るめ	虫	石英-砂鐵	被片	中央4往64			
16	24	6往	土解器	便	-	-	外表面ヘラマーク内面コロハケ 轮郭线あり	次	虫	白色粘土子	被片	中央4往12			
16	25	6往	土解器	便	-	-	外表面タクテー内面コロハケ 轮郭线あり	次	虫	石英-白雲母子	被片	中央4往6			
16	26	6往	土解器	便	-	-	外表面タクテーのナデ 内面コロハケ 轮郭线あり	にふくらむ	虫	石英-砂鐵	被片	中央4往119			
17	27	6往	土解器	便	-	-	内面底部コロハケ 轮郭线あり	にふくらむ	虫	石英-砂鐵	被片	中央4往2-4-6			
17	28	6往	土解器	便	-	-	内表面ナデ 内部工具柄孔の輪郭线あり	にふくらむ	虫	砂鐵	被片	中央4往76			
17	29	6往	土解器	便	-	-	内表面ナデ 内部工具柄孔の輪郭线あり	にふくらむ	虫	白砂鐵子-砂鐵	被片	中央4往6			
17	30	6往	土解器	便	-	-	内表面ナデ 内面コロハケ 轮郭线あり	虫	虫	白色粘土-砂鐵	被片	中央4往634			
17	31	6往	土解器	便	-	-	外表面ハケ 轮郭线あり 内面コロハケ	虫	虫	金色雲母-石英-砂鐵	被片	中央4往1			
17	32	6往	土解器	便	-	-	外表面底部 ハケ 轮郭线あり	虫	虫	金色雲母-砂鐵子	被片	中央4往61-26-91			
17	33	6往	土解器	便	-	-	内表面ナデ 内部工具柄孔の輪郭线あり	にふくらむ	虫	砂鐵	被片	中央4往50			
17	34	6往	土解器	便	-	-	外表面ハケ 内面コロハケ 轮郭线あり	虫	虫	白色粘土-砂鐵	被片	中央4往65			
17	35	6往	土解器	便	-	-	外表面ハラマーク 内面コロハケ	明るめ	虫	白色粘土-砂鐵	被片	中央4往67			
17	36	6往	土解器	便	-	-	外表面底部ハラマーク 内面コロハケ 轮郭线あり	明るめ	虫	砂鐵	被片	中央4往671			
17	37	6往	土解器	便	-	-	外表面ナデ 内面コロハケ 轮郭线あり	明るめ	虫	砂鐵	被片	中央4往68			
17	38	6往	土解器	便	-	-	外表面ナデ 内面コロハケ 轮郭线あり	虫	虫	砂鐵子	被片	中央4往123			
17	39	6往	土解器	便	-	-	外表面タクテー 内面コロハケ 轮郭线あり	虫	虫	砂鐵子	被片	中央4往6			
17	40	6往	土解器	便	-	-	内表面ハラマーク 内面コロハケ 轮郭线あり	虫	虫	金色雲母-石英-砂鐵	30	中央4往95-103			
17	41	6往	土解器	便	-	3.2	9.2	外表面ナデ 内面ナデ 底部本底裏	明るめ	虫	金色雲母-砂鐵	19	中央4往169		
17	42	6往	土解器	便	-	2.4	13.4	外表面本底裏 底部内面ナデ	虫	虫	砂鐵	被片	中央4往6		
17	43	6往	土解器	便	-	2.7	13.8	内面ナデ	虫	虫	金色雲母-砂鐵子	被片	中央4往66		
17	44	6往	土解器	便	-	3.2	16.4	外表面底部 内面横方向ハナダ	明るめ	虫	砂鐵	被片	中央4往125		
17	45	6往	土解器	小形鉢	-	2	9 ロクロハラマタナデ 内面ナデ	虫	虫	砂鐵子	被片	中央4往56			
17	46	6往	土解器	小形鉢	-	4.1	5.6 内外輪郭線工具によるコロハケ	明るめ	虫	砂鐵子	被片	中央4往37			
17	47	6往	土解器	小形鉢	-	4.5	2.7 2.4 内外輪郭線ハラマタナデ 内面ナデ	明るめ	虫	石英-砂鐵子	90	中央4往129			
17	48	6往	土解器	長脚瓶	-	-	ロクロ成形	虫	虫	白色粘土子	被片	中央4往61-中央4往610			
18	1	造鉢内	兩丈土解	瓶	-	-	模倣状の沈没による底面	にふくらむ	虫	金色雲母-砂鐵多量	被片	中央4往5			
18	2	造鉢内	兩丈土解	瓶	-	-	模倣状の沈没による底面	にふくらむ	虫	金色雲母-砂鐵多量	被片	中央4往2			
18	3	造鉢内	土解	瓶	-	-	外表面ハケのナデ 赤色空窓 内面ナデ	虫	虫	砂鐵子	被片	中央4往16			
18	4	造鉢内	土解	瓶	-	5.4	外表面ハケのナデ 内面ナデ 轮郭线あり	にふくらむ	虫	石英-砂鐵子	被片	中央4往29			
18	5	造鉢内	土解	瓶	-	13.4	1.5 内面ナデコロハケ 内面底部外側底部	明るめ	虫	砂鐵子	被片	中央4往6			
18	6	造鉢内	土解	瓶	-	-	外表面ナデコロハケ 内面ナデ 轮郭线あり	虫	虫	砂鐵多量	被片	中央4往31			
18	7	造鉢内	土解	甕	-	5	8 内面横方向ハナダ 内面コロハケ 轮郭线あり	虫	虫	砂鐵子	10	中央G3-G			
18	8	造鉢内	土解	甕	-	8 11.2	外表面横方向ハケのナデハナダ 内面横方向ハケ	にふくらむ	虫	砂鐵	被片	中央E-3G			
18	9	造鉢内	土解	甕	-	-	内面横方向ハケのナデハナダ 内面横方向ハケ	虫	虫	砂鐵	被片	中央F			
18	10	造鉢内	土解	甕	-	-	内面横方向ハケのナデハナダ 内面横方向ハケ	虫	虫	砂鐵多量	被片	中央C-2G			
18	11	造鉢内	土解	甕	-	3	外表面横方向ハケのナデハナダ 轮郭线あり	虫	虫	金色雲母-砂鐵	10	中央G1-G			

貴家遺跡出土土壤觀察表

固形 番号	香 造 模 別	器 種	口 径	底 高 (厚 み)	底 幅	構 造		色 調	质 感	胎 土	残 存 状 況	注記	その他
						外 面	内 面						
26 13	方	土師器 盆	-	-	-	外面木葉底 内面ナデ		にじ・青	良	白色青母・白色粒子・赤色砂	破片	武家2方5	
26 14	方	土師器 盆	-	3.4	6	外面ナデ 内面ミガキ		にじ・青	良	白色青母・白色粒子・砂粒	破片	武家2方9	
26 15	方	土師器 合付壺	22.6	4.9	-	内外面ヨコハケ		にじ・青	良	白色・赤色粒子	破片	武家2方40	
26 16	方	土師器 合付壺	16	4.2	-	外面ヨコハケのちナデ 端部タカ方向ハケ 内面ハケのちナデ		相	良	白色・赤色粒子・砂粒	破片	武家2方2	
26 17	方	土師器 合付壺	-	-	-	背面ヨコ横張工具による有刷 ハケ削痕 内面		相	良	白色墨紋・砂粒子	破片	武家2方50	
26 18	方	土師器 合付壺	16	1.6	-	外面墨方向ハケ 内面墨方向ハケ		にじ・青	良	白色・赤色粒子	破片	武家2方1024	
26 19	方	土師器 合付壺	20	2.7	-	内外面ナデ 赤色墨影		にじ・赤	良	石英・白色粒子	破片	武家2方69	
26 20	方	土師器 合付壺	20	3.2	-	内外面ハケのちナデ		相	良	砂粒子	破片	武家2方33	
26 21	方	土師器 合付壺	-	-	-	内外面ナデ		にじ・青	良	砂粒子	破片	武家2方44	
26 22	方	土師器 合付壺	-	-	-	内外面ナデ		にじ・青	良	砂粒子	破片	武家2方63	
26 23	方	土師器 合付壺	-	-	-	外部ハケ 内面ナデ 摘痕底あり		にじ・青	良	白色青母・白色粒子・砂粒子	破片	武家2方48	
26 24	方	土師器 合付壺	-	-	-	外墨墨方向ハケ 内面墨方向ナデ		灰黒	良	白色亞母・砂粒子	破片	武家2方60	
26 25	方	土師器 合付壺	-	-	-	内外面墨ハケ		灰黒	良	白色青母・砂粒子	破片	武家2方31	
26 26	方	土師器 鉢	12.8	4.6	-	外墨ヨコハケのナデ 内面ヨコ墨ヨコハケ 摘痕ナデ 輪底底あり		淡黄褐	良	白色青母・砂粒子	30	武家2方91	
27 1	第六	土師器 盆	-	-	-	外墨ナデ 内面ヨコハケ 口縁墨つまみ上げ		にじ・青	良	砂粒子	破片	武家2タ4	
27 2	第六	土師器 盆	-	-	-	外墨ナデ 内面ヨコハケ 微細底あり リ締痕墨取り		にじ・青	良	白色青母・石英・砂粒	破片	武家2タ36	
27 3	第六	土師器 盆	-	-	-	内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨・砂粒	破片	武家2タ31	
27 4	第六	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコハケのナデ 内面ナデ 摘痕底あり		にじ・青	良	白色墨・白色粒子	破片	武家2タ12	
27 5	第六	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコハケのナデ 内面ヨコ墨ヨコハケ		にじ・青	良	白色墨・白色粒子	破片	武家2タ18	
27 6	第六	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコハケのナデ 内面ヨコ墨ヨコハケ		にじ・青	良	白色墨・砂粒子	破片	武家2タ11	
27 7	第六	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコハケのナデ 内面ヨコ墨ヨコハケ		にじ・青	良	砂粒子	破片	武家2タ8	
27 8	第六	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコハケ 内面ヨコヨシナデ		にじ・青	良	白色青母・心真・砂粒子	破片	武家2タ13	
27 9	第六	土師器 盆	16	3.3	-	内外面ナデ 口縁墨記厚 内面輪底底あり 赤色 墨記		にじ・青	良	白色青母・砂	破片	武家2タ41	
27 10	第六	土師器 合付壺	-	-	-	外墨墨方向ハケ 内面墨方向ナデ		にじ・青	良	白色墨・砂粒子	破片	武家2タ7	
27 11	第六	土師器 合付壺	-	-	-	外墨墨方向ハケ ロ繩墨方向ナデ 内面ハケの ナデ 摘痕底あり		灰黒	良	白色墨・砂粒子	破片	武家2タ5	
27 12	第六	土師器 合付壺	-	-	-	外墨墨方向ハケ 内面墨方向ハケ		灰黒	良	白色墨・白色粒子	破片	武家2タ32	
27 13	第六	土師器 合付壺	-	-	-	外墨ヨコハケ 内面ナデ 帽輪底新		地	良	砂粒子	破片	武家2タ15	
27 14	第六	土師器 高杯	-	2.5	-	外墨墨方向ハギナデ 脊部鋸切ナデ 相粗底 四 脚所		赤	良	白色青母・砂粒子	10	武家189	
27 15	第六	土師器 高杯	石臼丁	-	-	-		-	-	-	-	武家2タ51	石村紹基岩
27 16	土	土師器 盆	-	-	-	外墨ナデ(一部ヘラナデ) 内墨模方向ハケ 輪底 墨記		相	良	白色墨母・石英・砂粒子多量	破片	武家2タ28	
27 17	土	土師器 盆	-	-	-	外墨ナデ(一部ヘラナデ) 内墨模方向ハケ 輪底 墨記		相	良	白色墨母・石英・砂粒子多量	破片	武家2タ31	加藤泰(イタレススタイル) 井原(アーヴィング)
27 18	土	土師器 盆	-	-	-	外墨墨方向比底、一部赤墨記 内面ナデ		昂	良	石英・砂粒	破片	武家2タ11	
27 19	土	土師器 盆	-	-	-	内面墨記ナデ		にじ・青	良	白色青母・砂粒子	破片	武家2タ8	
27 20	土	土師器 盆	-	-	-	内面墨記ナデ		昂	良	砂粒子	破片	武家2タ15	
27 21	土	土師器 盆	-	-	-	内面墨記ナデ 内面ヨコハナデ		明赤	良	白色墨・白色粒子	破片	武家2タ12	
27 22	土	土師器 盆	-	-	-	内面ヨコハナデ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨・白色粒子	破片	武家2タ20	
27 23	土	土師器 盆	-	-	-	内面ヨコハナデ		にじ・青	良	白色墨・白色粒子	破片	武家2タ2	
27 24	土	土師器 盆	-	-	-	内面ヨコハナデ		にじ・青	良	白色墨・砂粒子	破片	武家2タ10	
27 25	土	土師器 盆	-	-	-	内面ヨコハナデ		にじ・青	良	白色墨・砂粒子	破片	武家2タ9	
27 26	土	土師器 盆	-	-	-	内面ヨコハナデ		にじ・青	良	白色墨・砂粒子	破片	武家2タ28	
27 27	土	土師器 盆	-	-	-	内面ヨコハナデ		相	良	白色墨・石英・白色砂粒子	破片	武家2タ28	
27 28	土	土師器 盆	-	-	-	内面ヨコハナデ		相	良	石英・赤色粒子	破片	武家2タ16	
27 29	土	土師器 合付壺	-	6.6	-	内面ヨコハナデ 内面ヨコハナデ		相	良	白色墨多量・白色粒子	破片	武家2タ11	
27 30	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ヨコハナデ 内面ヨコハナデ		相	良	白色墨多量・白色粒子	破片	武家2タ30	
27 31	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ヨコハナデ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨・石英・白色粒子	破片	武家2タ24	
27 32	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ヨコハナデ 有刷墨跡 内面ナデ		相	良	白色墨・石英・白色粒子	破片	武家2タ22	
27 33	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ヨコハナデ 内面ヨコヨシ		相	良	白色墨・石英・白色粒子	破片	武家2タ2	
27 34	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ヨコハナデ 内面ヨコヨシ		相	良	白色墨・石英・白色粒子	破片	武家2タ10	
27 35	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ヨコハナデ 内面ヨコヨシ		相	良	白色墨・石英・白色粒子	破片	武家2タ5	
27 36	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ヨコハナデ 内面ヨコヨシ		相	良	白色墨・石英・白色粒子	破片	武家2タ27	
27 37	土	土師器 盆	-	4.6	8.2	外墨ナデ 内面ハケ		黄	良	砂粒子多量	破片	武家2タ27	
27 38	土	土師器 盆	-	-	-	内面ハケ		灰黒	良	白色砂粒子多量	破片	武家2タ1001	
27 39	土	土師器 盆	-	-	-	内面ハケ		灰黒	良	白色墨・白色・赤色粒子	破片	武家2タ1001	
27 40	土	土師器 合付壺	12.7	-	-	外面ヨコ墨比底・網刺 中部 南部高地型朱唇文		相	良	砂粒	破片	武家2度1	
28 1	土	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ 内面ナデ		にじ・青	良	白色墨母・白色墨	破片	武家2度1	
28 2	土	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ 内面ナデ		相	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度19	
28 3	土	土師器 合付壺	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ 内面ナデ		相	良	白色墨母・石英・砂粒	破片	武家2度10	
28 4	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ナデ		相	良	白色粒子	破片	武家2度9	
28 5	土	土師器 合付壺	-	-	-	外墨ヨコハナデ 内面ナデ		にじ・青	良	白色墨母・石英・白色砂粒	破片	武家2度7	
28 6	土	土師器 合付壺	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ 内面ナデ		相	良	砂粒	破片	武家2度5	
28 7	土	土師器 合付壺	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ 内面ナデ		にじ・青	良	白色墨母・石英・砂粒	破片	武家2度6	
28 8	土	土師器 合付壺	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ 内面ナデ		相	良	砂粒	破片	武家2度14	
28 9	土	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ 内面ナデ		にじ・青	良	白色砂粒	破片	武家1度1	
28 10	土	土師器 合付壺	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ 線痕底あり		相	良	白色砂粒	破片	武家2度28	
28 11	土	土師器 合付壺	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ		相	良	石英・赤色粒子	破片	武家2度16	
28 12	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ヨコハナデ 内面ヨコハナデ		相	良	白色墨多量・白色粒子	破片	武家2度11	
28 13	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ヨコハナデ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨多量・白色粒子	破片	武家2度30	
28 14	土	土師器 合付壺	-	-	-	外墨墨跡による墨痕底あり 内面ナデ		にじ・青	良	白色墨母・石英・白色粒子	破片	武家2度24	
28 15	土	土師器 合付壺	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ 内面ナデ		相	良	白色墨母・石英・砂粒	破片	武家2度22	
28 16	土	土師器 合付壺	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ 内面ナデ		相	良	白色墨母・石英・白色粒子	破片	武家2度5	
28 17	土	土師器 合付壺	-	-	-	外墨ヨコヨシ・ヨコハナデ 内面ナデ		相	良	白色墨母・石英・砂粒	破片	武家2度27	
28 18	土	土師器 盆	-	-	-	内面ナデ		相	良	砂粒	破片	武家2度17	
28 19	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ナデ		相	良	白色墨母・白色・赤色粒子	破片	武家2度16	
28 20	土	土師器 合付壺	-	-	-	内面ナデ		相	良	砂粒	破片	武家2度15	
28 21	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 22	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 23	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 24	E-2	土師器 盆	-	-	-	内面ナデ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 25	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 26	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 27	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 28	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 29	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 30	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 31	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 32	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 33	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 34	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 35	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 36	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 37	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 38	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 39	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 40	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 41	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 42	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 43	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 44	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 45	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		にじ・青	良	白色墨母・砂粒	破片	武家2度20	
28 46	E-2	土師器 盆	-	-	-	外墨ヨコヨシ 内面ヨコヨシ		相	良	砂粒	破片	武家2度20	
28 47	E-2	土師器 盆	-	-</									

固有 番号	巻	造形	種別	部類	法 番		調 整	色 調	食 品	地 土	監視場	注記No.	その他の 記述	
					固有 番号(同 上)	年 代								
28	8	E-2	土師器	壺	-	-	内外面ハケ 脇幅あり	にじや青白	鳥	恐龍	便片	武家E-2G		
29	9	E-2	土師器	壺	-	-	外腹ハケのちナメ 内面ナメ 脇幅狭あり 席脚部 なし	にじや青	鳥	石英-砂礫	便片	武家E-2G		
28	10	E-2	土師器	壺	-	-	内外面ナメ 脇幅狭い	にじや青白	鳥	恐龍	便片	武家E-2G		
11	E-2	土師器	壺	直	-	-	外腹側面ハケ	明青白	鳥	恐龍	便片	武家E-2G		
28	12	E-2	土師器	壺	-	2.5	7.8 内外面ナメ	にじや青白	鳥	石灰-沙砾	便片	武家E-2G		
28	13	E-2	土師器	台付壺	12	4.2	外腹側面ハケ 内腹側面ハケ 脇幅あり	にじや青白	鳥	色青白-石英-白色粒子	便片	武家E-2G		
14	E-2	土師器	台付壺	-	-	-	外腹側面ハケ 内腹側面ハケ 脇幅あり	灰黒	鳥	色青白-白色	便片	武家E-2G		
25	H-2	土師器	壺	直	-	-	外腹側面ハケ 内腹側面ハケ 脇幅あり	にじや青	鳥	色青白-石英-砂礫	便片	武家H-2G		
28	H-2	土師器	壺	直	-	-	外腹ハケ 内腹口縁部ハケ 脇幅ナメ 席脚部なし	灰	鳥	白色颗粒多粒	便片	武家H-2G		
28	3	H-2	土師器	壺	-	-	内外面ハケ 脇幅あり	にじや青	鳥	色青白-砂-砂粒子多粒	便片	武家H-2G		
4	H-2	土師器	壺	直	-	-	内外面ハケ 内腹ハケのちナメ	にじや青	鳥	石灰-砂砾	便片	武家H-2G		
28	5	H-2	土師器	壺	-	-	外腹ハケ 内腹ナメ	にじや青	鳥	石灰-白色颗粒-砂粒子	便片	武家H-2G		
28	6	H-2	土師器	壺	-	-	外腹ハケのちナメ 内腹ナメ	にじや青	鳥	恐龍	便片	武家H-2G		
28	7	H-2	土師器	壺	5寸足	-	外腹ハケ 内腹ナメ	瓶	鳥	色青白-石灰-砂砾	便片	武家H-2G 7-8-9-10同一個体		
28	8	H-2	土師器	壺	5寸足	-	外腹ハケ 内腹口縁部ハケ 席脚部ナメ 席脚部なし	瓶	鳥	色青白-石灰-砂砾	便片	武家H-2G 7-8-9-10同一個体		
28	9	H-2	土師器	壺	5寸足	-	外腹ハケ 内腹ナメ	瓶	鳥	色青白-石灰-砂砾	便片	武家H-2G 7-8-9-10同一個体		
1	1	造綱外	土師器	壺	古	29	4.9	内外面ナメ	良	恐龍	便片	武家80		
28	2	造綱外	土師器	壺	古	15.6	4	外腹側面折り返し 内腹ナメ 一部ヘナ	浅青白	鳥	色青白-砂-砂砾	便片	武家176	
28	3	造綱外	土師器	壺	古	19	2.7	内外面ハケのちナメ	明青白	鳥	砂-砂粒子	便片	武家24	
28	4	造綱外	土師器	壺	古	11.8	5.1	内腹側面折り返しハケ 席脚部ナメ 内腹口縁部ハケ	瓶	鳥	色青白-白色	便片	武家83	
28	5	造綱外	土師器	壺	古	-	外腹ハケのちナメ 内腹ヘナメ	瓶	鳥	白色	便片	武家1099		
28	6	造綱外	土師器	壺	古	-	内外面ナメ 内腹側面折り返し	瓶	鳥	白色	便片	武家1099	二底口縁部	
28	7	造綱外	土師器	壺	古	-	外腹ハケのちナメ 内腹ナメ 席脚部ナメ 席脚部なし	にじや青	鳥	白色	便片	武家1081		
28	8	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹側面折り付け 内腹ナメ 席脚部ナメ 席脚部あり	瓶	鳥	石灰-白色颗粒-砂粒子	便片	武家1066		
28	9	造綱外	土師器	壺	古	-	内外面ナメ 脇幅あり	にじや青	鳥	色青白-石灰-砂粒子	便片	武家1048		
28	10	造綱外	土師器	壺	古	-	外腹ナメ 席脚部狭い 内腹ハケのちナメ	浅青白	鳥	白色	便片	武家1045		
28	11	造綱外	土師器	壺	古	-	外腹ハケ 内腹ハケのちナメ	にじや青	鳥	白色砂-砂粒子	便片	武家1119		
28	12	造綱外	土師器	壺	古	-	外腹ナメ 席脚部狭い 内腹ハケ 席脚部あり	瓶	鳥	白色砂-多量	便片	武家1036-1102		
28	13	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹口縁部ハケ 内腹ヘナメ	にじや青	鳥	色青白-砂-砂砾	便片	武家47		
28	14	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ 席脚部狭い	明青白	鳥	白色	便片	武家1016		
28	15	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ(?) 席脚部狭い 内腹 ハケ 席脚部あり	にじや青	鳥	色青白-砂-砂砾	便片	武家225		
28	16	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ 席脚部折付け 内腹ナメ 席脚部狭い	瓶	鳥	石灰-白色颗粒-砂-砂粒子	便片	武家1066		
28	17	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ(?) 席脚部狭い 席脚部なし	にじや青	鳥	色青白-石灰-砂粒子	便片	武家1048		
28	18	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹口縁部ナメ 内腹ハケのちナメ	浅青白	鳥	白色	便片	武家1045		
28	19	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ 席脚部狭い 内腹ハケのちナメ	にじや青	鳥	白色砂-砂粒子	便片	武家1025	28-29-30同一	
28	20	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ(?) 席脚部狭い 内腹ハケのちナメ	にじや青	鳥	石灰-砂-砂粒子	便片	武家2098		
28	21	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ	瓶	鳥	砂-砂粒子	便片	武家47		
28	22	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ	瓶	鳥	砂-砂粒子	便片	武家61		
28	23	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹口縁部	瓶	鳥	砂-砂粒子	便片	武家210		
28	24	造綱外	土師器	壺	古	-	内外面ナメ	にじや青	鳥	砂-砂粒子	便片	武家1103		
28	25	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ 席脚部狭い	にじや青	鳥	砂-砂粒子	便片	武家22		
28	26	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ハケ 内腹ハケのちナメ	にじや青	鳥	砂-砂粒子	便片	武家22		
28	27	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ(?) 席脚部狭い 内腹ハケのちナメ	にじや青	鳥	砂-砂粒子	便片	武家2098		
28	28	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ(?) 席脚部狭い 内腹ハケのちナメ	にじや青	鳥	砂-砂粒子	便片	武家47		
28	29	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ハケ	瓶	鳥	砂-砂粒子	便片	武家1036	28-29-30同一	
28	30	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹口縁部	にじや青	鳥	砂-砂粒子	便片	武家1036	28-29-30同一	
28	31	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ 内腹側面折り	瓶	鳥	色青白-砂-砂砾	便片	武家104		
28	32	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹側面折り返し ハケ 内腹ナメ 席脚部	明青白	鳥	色青白-白色颗粒-砂砾	便片	武家1055		
33	33	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ 植物側面折り	瓶	鳥	色青白-白色	便片	武家1091		
34	34	造綱外	土師器	壺	古	-	内外面ナメ 内腹側面折り	灰黒	鳥	色青白-白色	便片	武家912		
35	35	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹側面ナメ(?) 内腹ハケ 席脚部ナメ	にじや青	鳥	色青白-砂-砂砾	便片	武家47		
36	36	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹側面ナメ(?) 席脚部ナメ 席脚部ナメ	にじや青	鳥	色青白-白色颗粒-砂粒子	便片	武家1032		
37	37	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ナメ(?) 植物側面折り返し 内腹口縁部ハケ 席脚部	瓶	鳥	色青白-白色	便片	武家1032-1026-1030	18-29-30同一	
38	38	造綱外	土師器	壺	古	-	内腹ハケ 内腹ナメ 席脚部あり	にじや青	鳥	色青白-白色	便片	武家61		
39	39	造綱外	土師器	壺	古	3.4	9.8 内腹ハケ 内腹ナメ 席脚部あり	にじや青	鳥	色青白-砂-砂砾	便片	武家122		
40	40	造綱外	土師器	壺	古	2.2	6.8 内腹ハケ 内腹ナメ 席脚部ナメ	にじや青	鳥	色青白-石灰-白色	便片	武家220-220		
41	41	造綱外	土師器	壺	古	2.7	7.4 内腹ハケ 内腹ナメ 席脚部ナメ	にじや青	鳥	色青白-石灰-白色	便片	武家226		
42	42	造綱外	土師器	壺	古	2.8	7.6 内腹ハケ 内腹ナメ 席脚部ナメ	灰黒	鳥	色青白-砂-砂砾	便片	武家215		
43	43	造綱外	土師器	壺	古	1.5	4.2 内腹ハケ 内腹ナメ 一部ヘナメ 一部ナメ	灰黒	鳥	色青白-砂-砂粒子	便片	武家1096		
44	44	造綱外	土師器	壺	古	2.7	6.8 内腹ハケ 内腹ナメ	にじや青	鳥	色青白-白色	便片	武家1087		
45	45	造綱外	土師器	壺	古	2	6.8 内腹ナメ 内腹側面	瓶	鳥	色青白-砂-砂砾	便片	武家68		
46	46	造綱外	土師器	壺	古	1.2	7.2 内腹側面狭い 内腹ナメ	にじや青	鳥	石灰-白色	便片	武家103		
47	47	造綱外	土師器	壺	古	1.4	5.2 内腹ナメ(?) 席脚部あり	灰黒	鳥	色青白-砂-砂粒子	便片	武家139		
48	48	造綱外	土師器	壺	古	2.2	6 外腹側面折り返し ハケ 内腹ナメ	明青白	鳥	色青白-砂-砂粒子	便片	武家1121		
49	49	造綱外	土師器	台付壺	古	4.2	外腹側面ハケ 口縁部側面折り返しあり 内腹側面折 り返し	にじや青	鳥	石灰-砂-砂粒子	便片	武家		
50	50	造綱外	土師器	台付壺	古	2.3	外腹ナメ 口縁部側面工具による彫みあり 内腹口 縁部ナメ 削除側面折り	灰黒	鳥	色青白-砂-砂砾	便片	武家6		
51	51	造綱外	土師器	台付壺	古	2.5	外腹ナメ 口縁部側面工具による彫みあり 内腹口 縁部ナメ 削除側面折り	明青白	鳥	色青白-白色	便片	武家130		
52	52	造綱外	土師器	台付壺	古	-	外腹ナメ 口縁部側面工具による彫みあり 内腹口 縁部ナメ 削除側面折り	明青白	鳥	色青白-白色	便片	武家		
53	53	造綱外	土師器	台付壺	古	-	外腹ナメ 口縁部側面工具による彫みあり 内腹ナメ	にじや青	鳥	色青白-石灰	便片	武家1065		
54	54	造綱外	土師器	台付壺	古	2.3	外腹側面折り返し	にじや青	鳥	色青白-石灰	便片	武家1070		

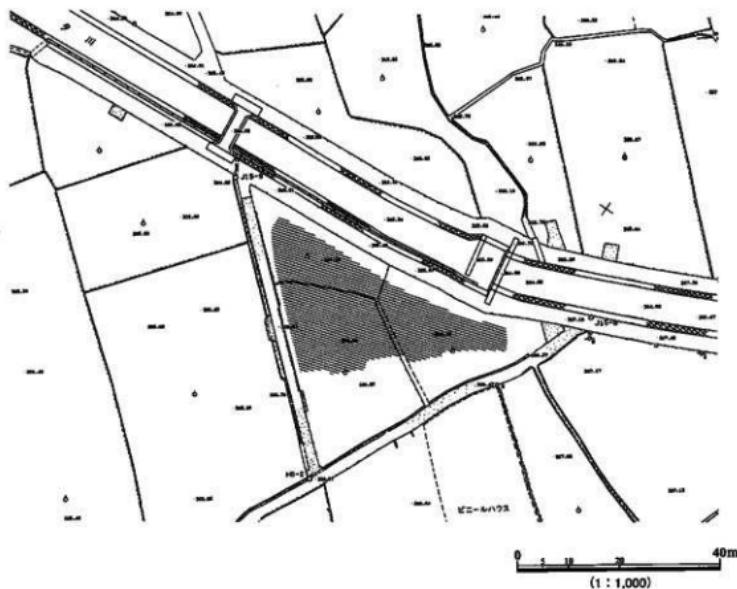
留置番号	番号	種別	種類	品目	規格(単位)	底面	調査		色調	被覆	地土	踏み草	注記	その他
							内面	外面						
30 55 道耕外 土師器 台付壺 19 - 3.4 - 内面横方向ハケ 内面横方向ハケ 接触 良 金色雲母・砂礫 破片 武家56														
30 56 道耕外 土師器 台付壺 14 3.3 - 内面横方向ハケ 内面横方向ハケ 破片 良 金色雲母・砂礫 破片 武家76														
30 57 道耕外 土師器 台付壺 - - - - - - - - - - - - -														
30 58 道耕外 土師器 台付壺 19.4 4.6 - 内面横方向ハケ 内面横方向ハケ 破片 良 金色雲母・砂礫 破片 武家126														
30 59 道耕外 土師器 台付壺 22 4.4 - 内面横方向ハケ 内面横方向ハケ 破片 良 金色雲母・砂礫 破片 武家94														
30 60 道耕外 土師器 3丁壺 16 1.6 - 内面横方向ナメ 内面横方向ナメ 植物あり 植物 良 金色雲母・砂礫 破片 武家136														
30 61 道耕外 土師器 台付壺 - - - - - - - - - - - - -														
30 62 道耕外 土師器 台付壺 - - - - - - - - - - - - -														
30 63 道耕外 土師器 台付壺 - - - - - - - - - - - - -														
30 64 道耕外 土師器 台付壺 - - - - - - - - - - - - -														
30 65 道耕外 土師器 台付壺 - - - - - - - - - - - - -														
30 66 道耕外 土師器 台付壺 - - - - - - - - - - - - -														
30 67 道耕外 土師器 台付壺 - - - - - - - - - - - - -														
30 68 道耕外 土師器 台付壺 - - - - - - - - - - - - -														
30 69 道耕外 土師器 台付壺 - 3.3 - 内面横方向ナメ 内面横方向ナメ 植物あり 植物 良 金色雲母・鐵粒 破片 武家227														
30 70 道耕外 土師器 台付壺 - 2.2 - - - - - - - - - - - - -														
30 71 道耕外 土師器 台付壺 - 3.7 - - - - - - - - - - - - -														
30 72 道耕外 土師器 台付壺 - 2.1 6 - 内面横方向ナメ 内面横方向ナメ 明黄色 植物 良 金色雲母・白雲母粒 破片 武家89														
30 73 道耕外 土師器 台付壺 - 5.2 6.8 - 内面横方向ナメ 内面横方向ナメ 植物・鉛鉱風化 植物 良 金色雲母・石英・白色雲母 破片 武家169														
30 74 道耕外 土師器 高杯 - - - - - - - - - - - - -														
30 75 道耕外 土師器 高杯 - 3.3 - - - - - - - - - - - - -														
30 76 道耕外 土師器 高杯 - 2.5 - - - - - - - - - - - - -														
30 77 道耕外 土師器 茶 - 10 4.2 - 外面ヘケ 横模様 内面ナメ ハナカネ 植物 有 金色雲母・砂礫 破片 武家187														
31 78 道耕外 陶土器 国鉢 22.3 4.5 - 外面横方向に鉛鉱風化が見込 有 金色雲母・砂礫 破片 武家41														
31 79 道耕外 陶土器 陶器 15.5 3.9 - 外面横方向に鉛鉱風化が見込 有 金色雲母・砂礫 破片 武家121														
31 80 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 81 道耕外 陶土器 陶器 14.4 2.7 - 外面横模様ナメ 有 金色雲母・砂礫 破片 武家17														
31 82 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 83 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 84 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 85 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 86 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 87 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 88 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 89 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 90 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 91 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 92 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 93 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 94 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 95 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 96 道耕外 陶土器 陶器 - - - - - - - - - - - - -														
31 97 道耕外 陶土器 深鉢 - - - - - - - - - - - - -														
31 98 道耕外 陶土器 深鉢 - - - - - - - - - - - - -														
31 99 道耕外 陶土器 深鉢 - - - - - - - - - - - - -														
31 100 道耕外 陶土器 深鉢 - - - - - - - - - - - - -														
31 101 道耕外 陶土器 深鉢 - - - - - - - - - - - - -														
31 102 道耕外 陶土器 深鉢 - - - - - - - - - - - - -														
31 103 道耕外 陶土器 深鉢 - - - - - - - - - - - - -														
31 104 道耕外 陶土器 深鉢 - - - - - - - - - - - - -														
31 105 道耕外 陶土器 深鉢 - - - - - - - - - - - - -														
31 106 道耕外 陶土器 深鉢 - - - - - - - - - - - - -														
31 107 道耕外 陶土器 甕 - - - - - - - - - - - - -														
31 108 道耕外 陶土器 甕 - - - - - - - - - - - - -														
31 109 道耕外 陶土器 甕 - - - - - - - - - - - - -														
31 110 道耕外 陶土器 甕 - - - - - - - - - - - - -														



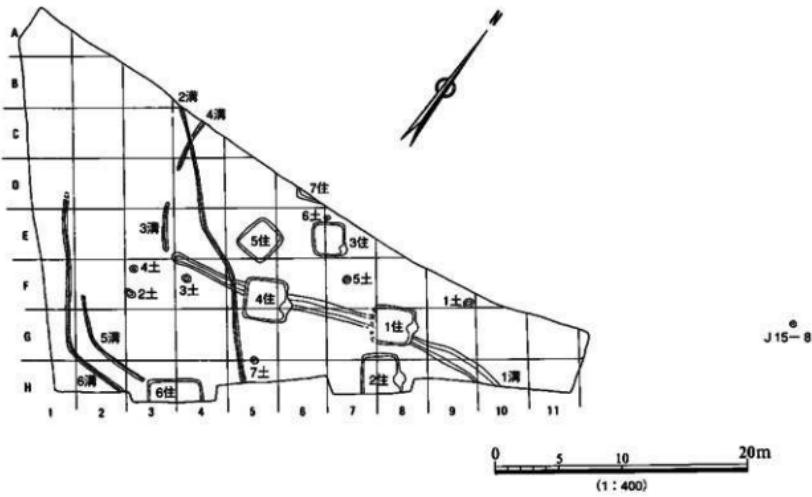
1. 中沢遺跡 2. 武家遺跡 3. 金桜遺跡（平安） 4. 池保遺跡（平安） 5. 原前遺跡（奈良）
 6. 延命寺遺跡（弥生一古墳） 7. 岩間遺跡（平安） 8. 武田氏落合館（中世） 9. 宮田遺跡（平安）
 10. 天神前遺跡（平安） 11. 星敷遺跡（平安） 12. 前田遺跡（弥生・奈良）
 13. 半座遺跡（平安） 14. 松畠遺跡（奈良） 15. 久保田遺跡（绳文）

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

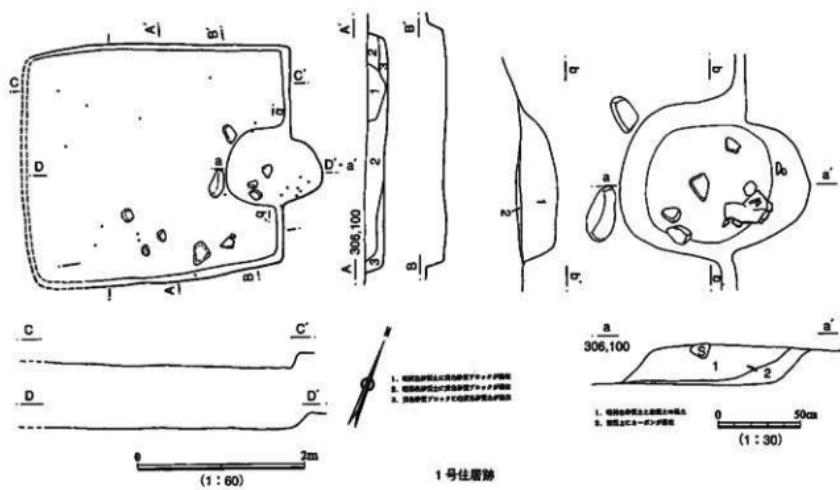
J 15-9



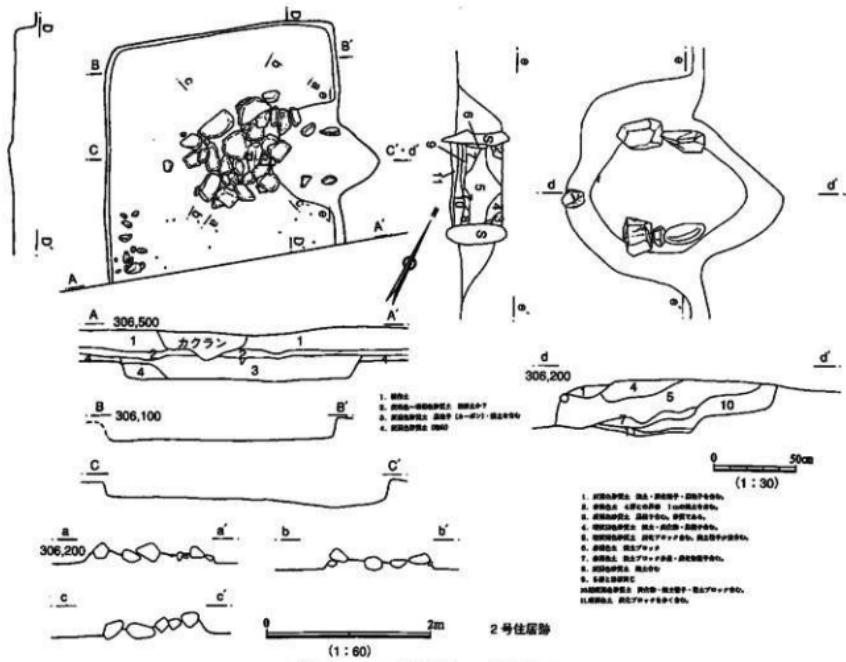
J 15-8



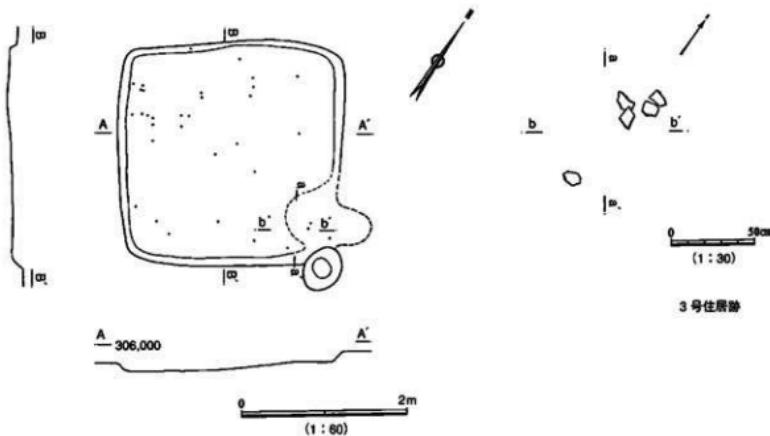
第2図 中沢遺跡調査位置図・全体図



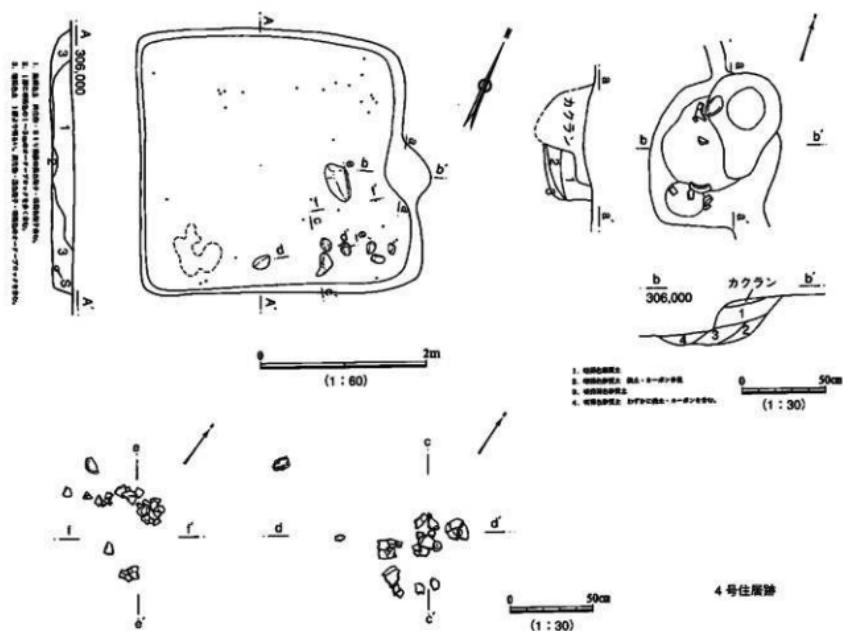
1号住居跡



第3図 1号住居跡・2号住居跡

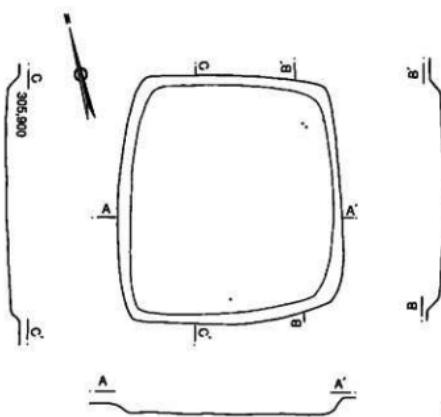


3号住居跡

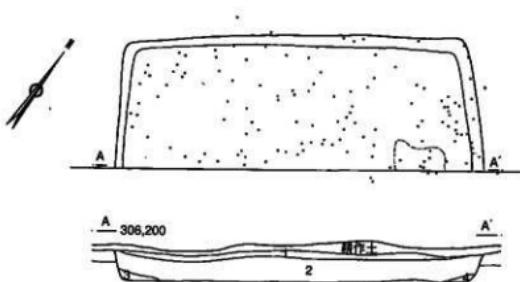


4号住居跡

第4図 3号住居跡・4号住居跡

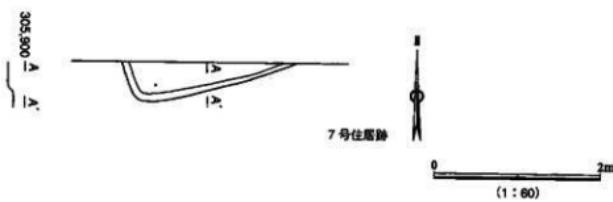


5号住居跡



6号住居跡

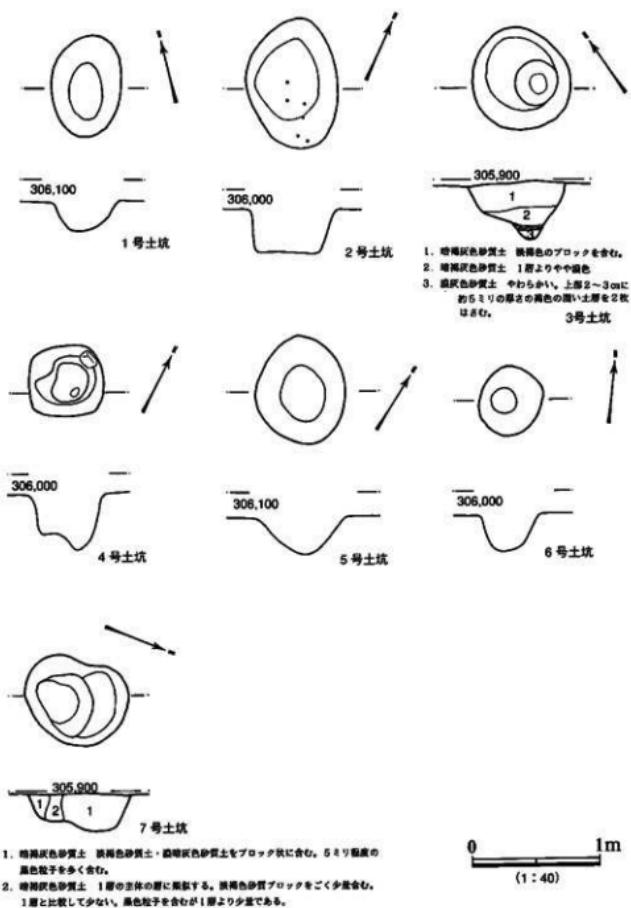
1. 破壊柱跡
2. 破壊柱跡
3. 破壊柱跡
4. 破壊柱跡



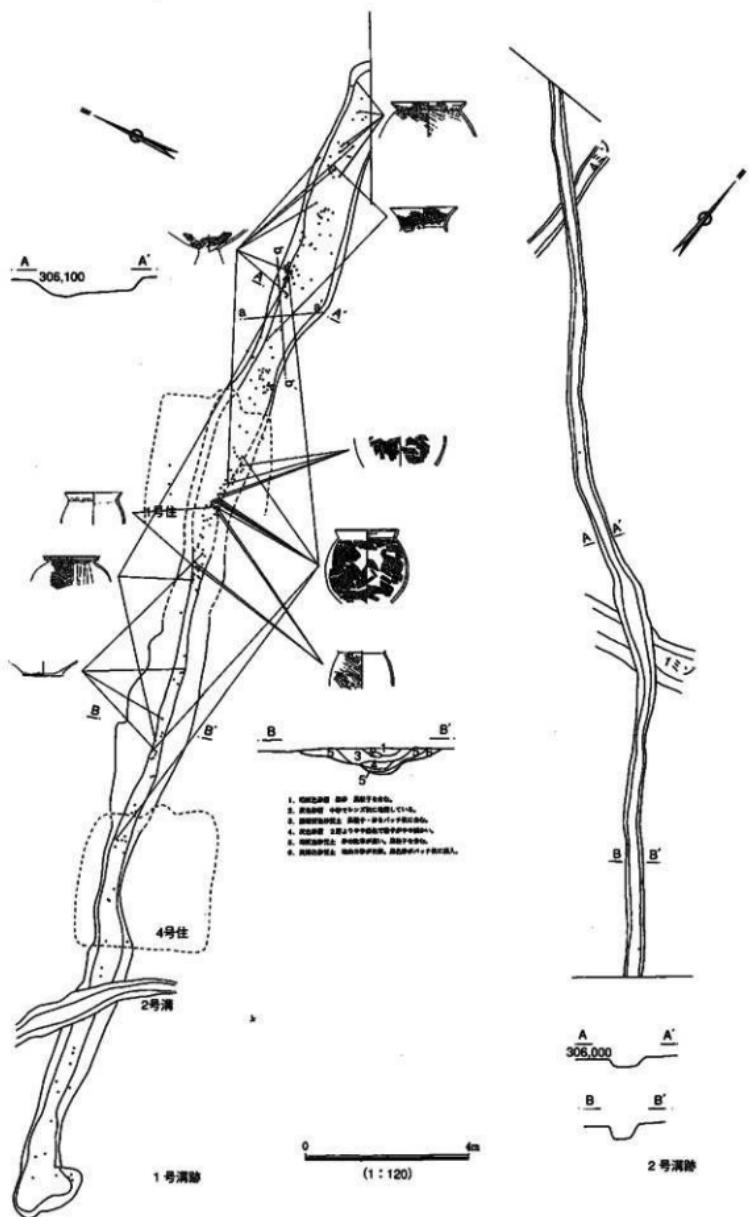
7号住居跡

(1 : 60)

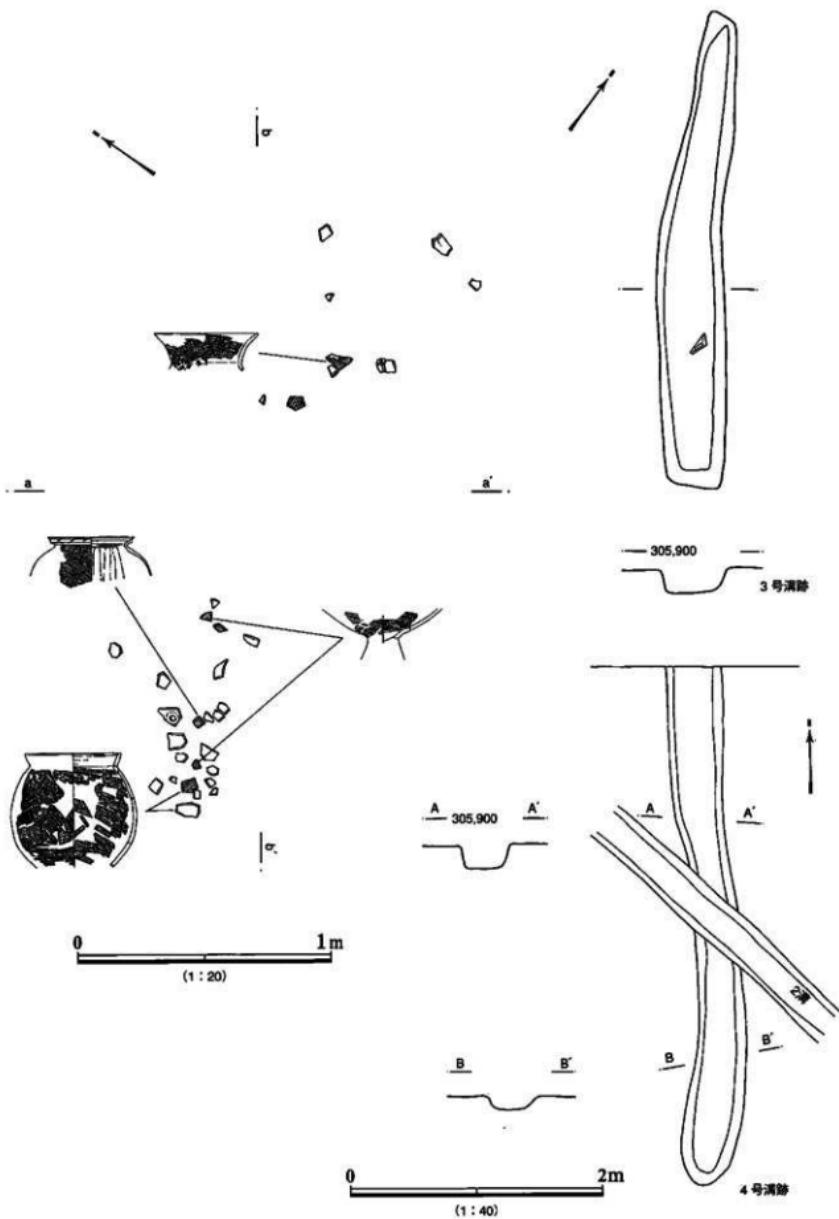
第5図 5号住居跡～7号住居跡



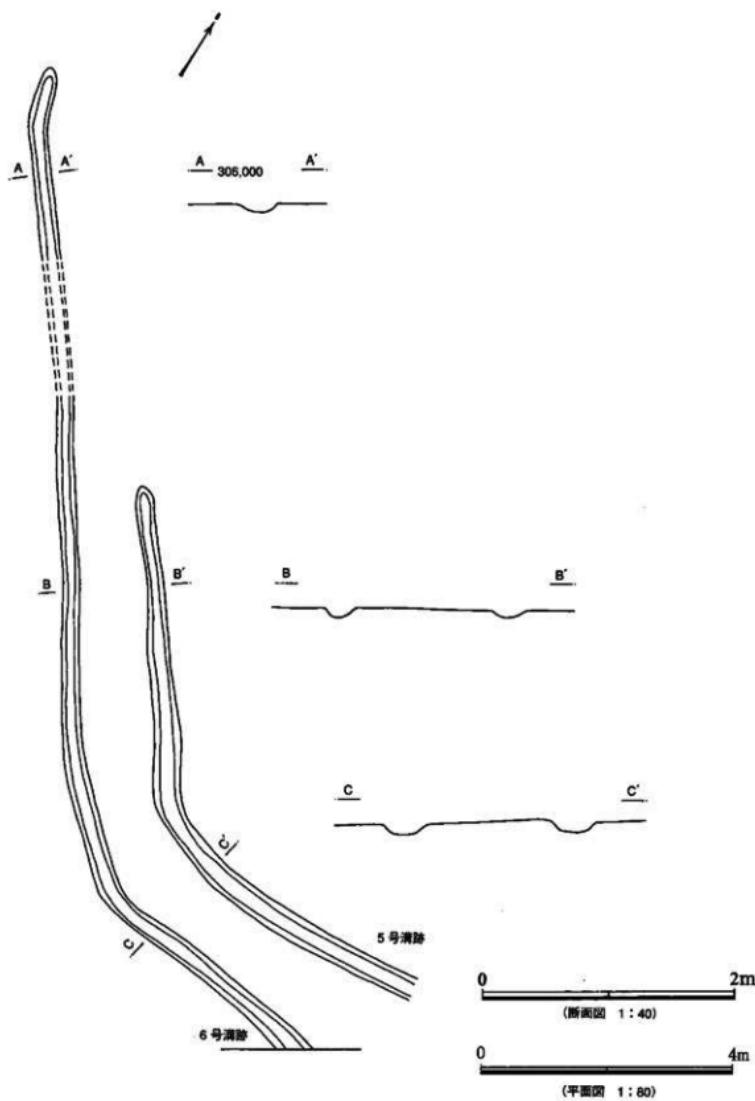
第6図 1号土坑～7号土坑



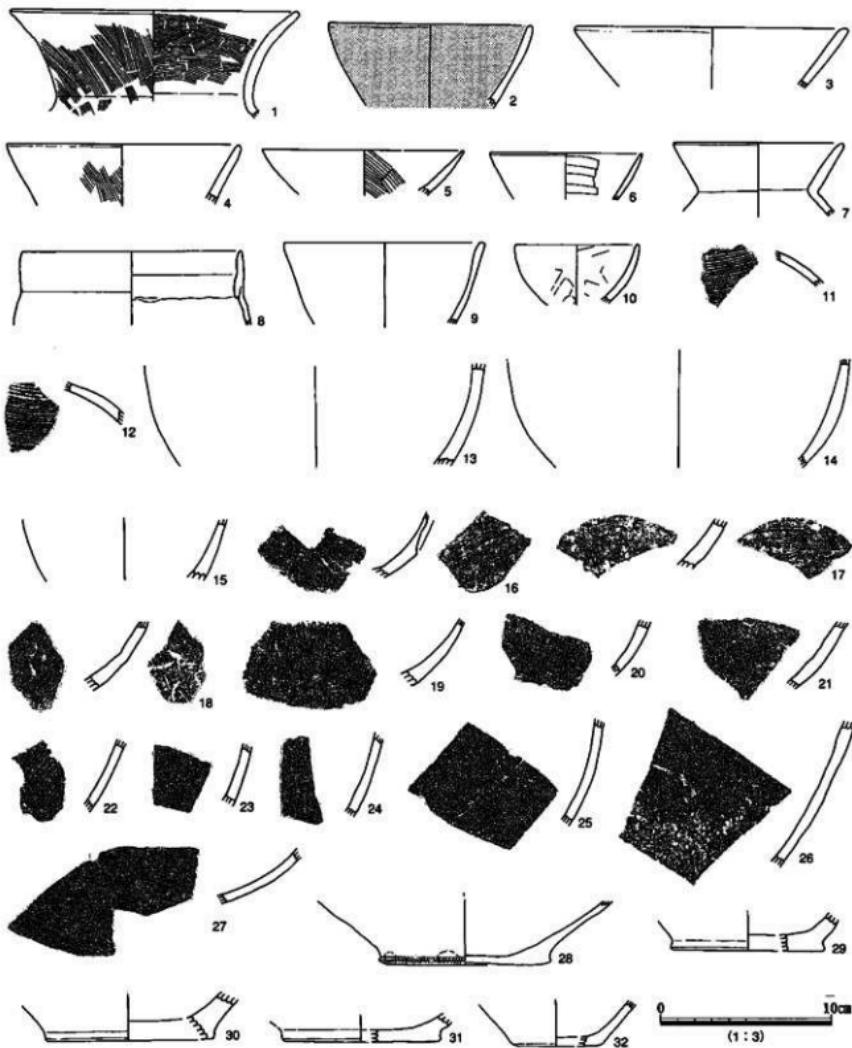
第7図 1号溝跡・2号溝跡



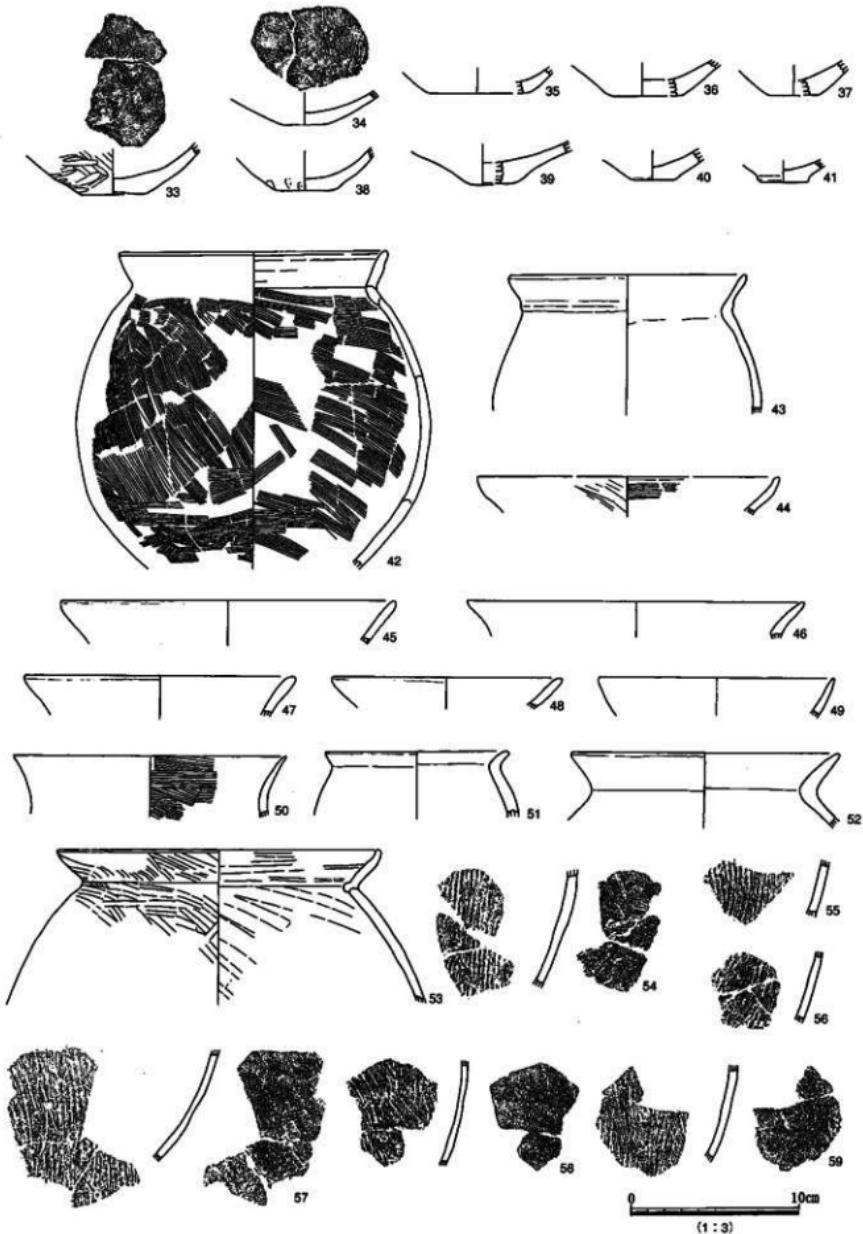
第8図 1号溝跡出土土器平面図・3号溝跡・4号溝跡



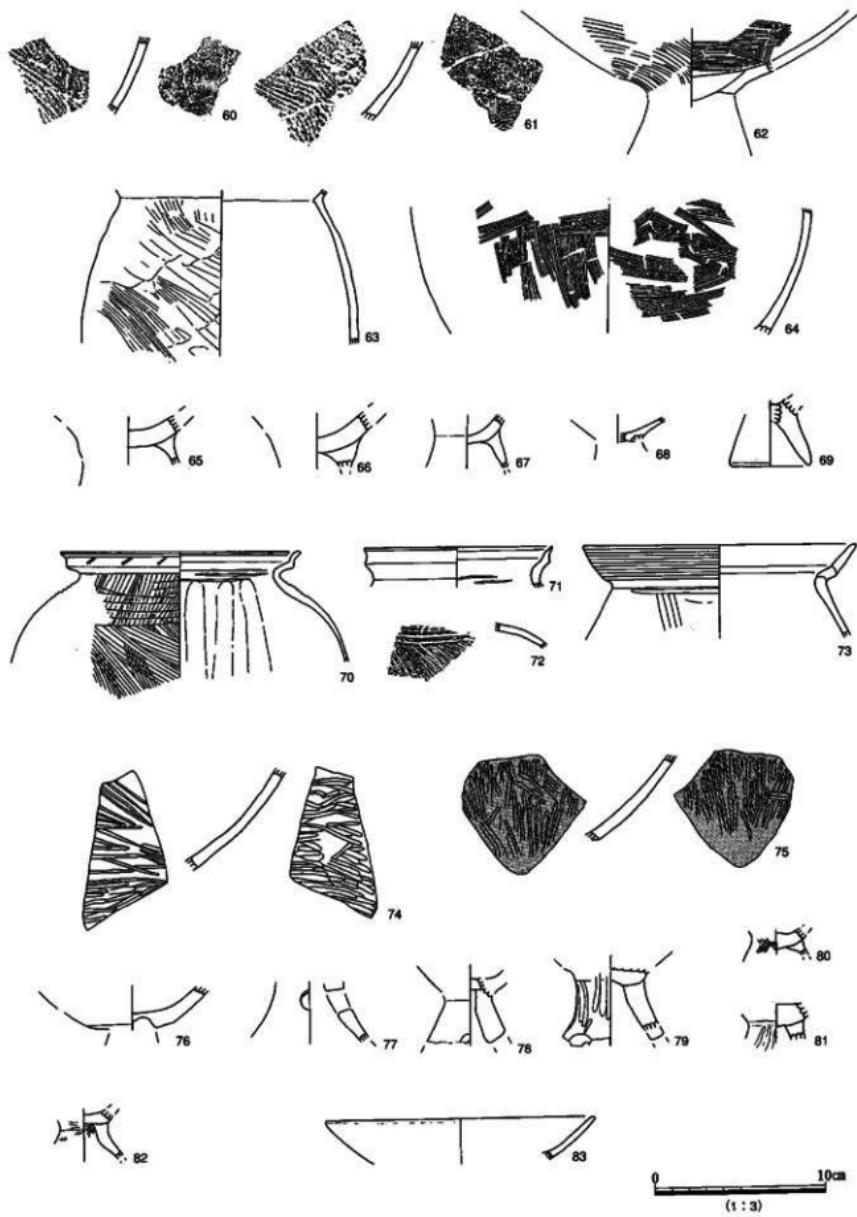
第9図 5号溝跡・6号溝跡



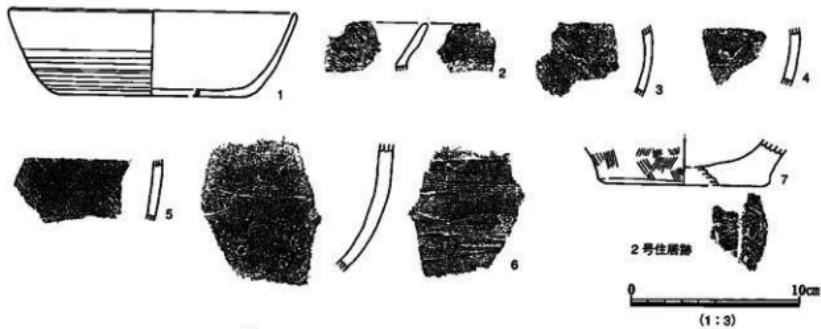
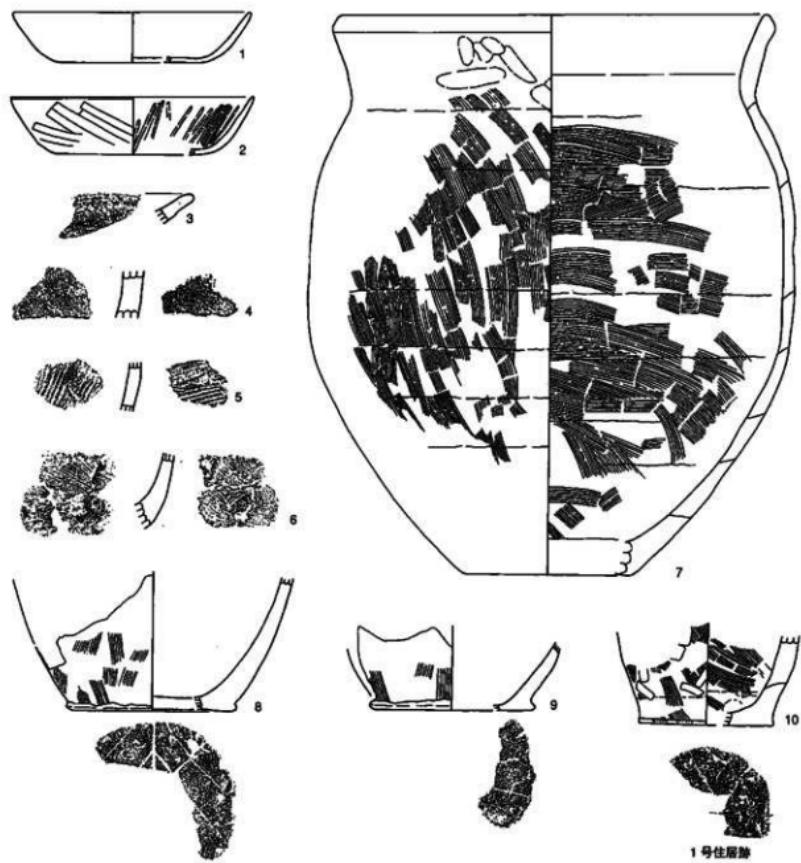
第10図 5号住居跡・7号住居跡・1号溝跡出土遺物(1)



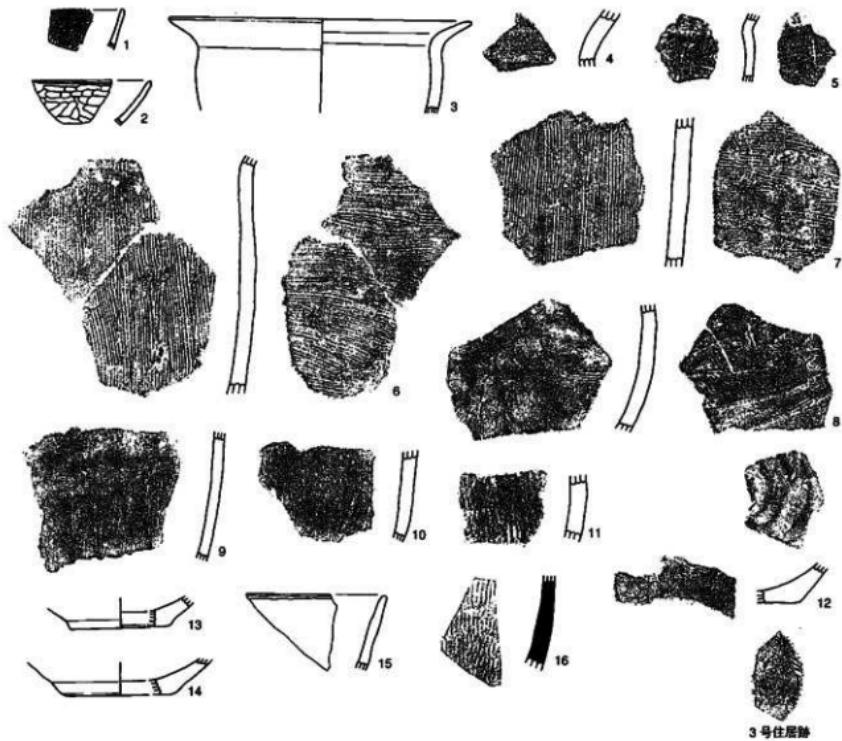
第11図 1号溝跡出土遺物（2）



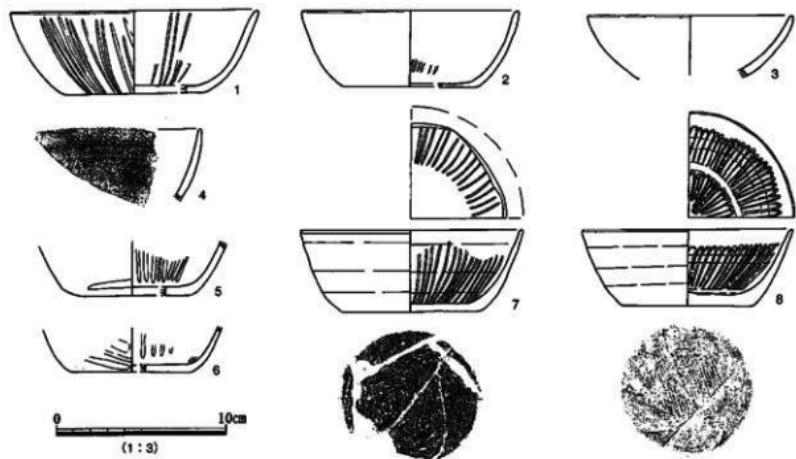
第12図 1号溝跡出土遺物（3）



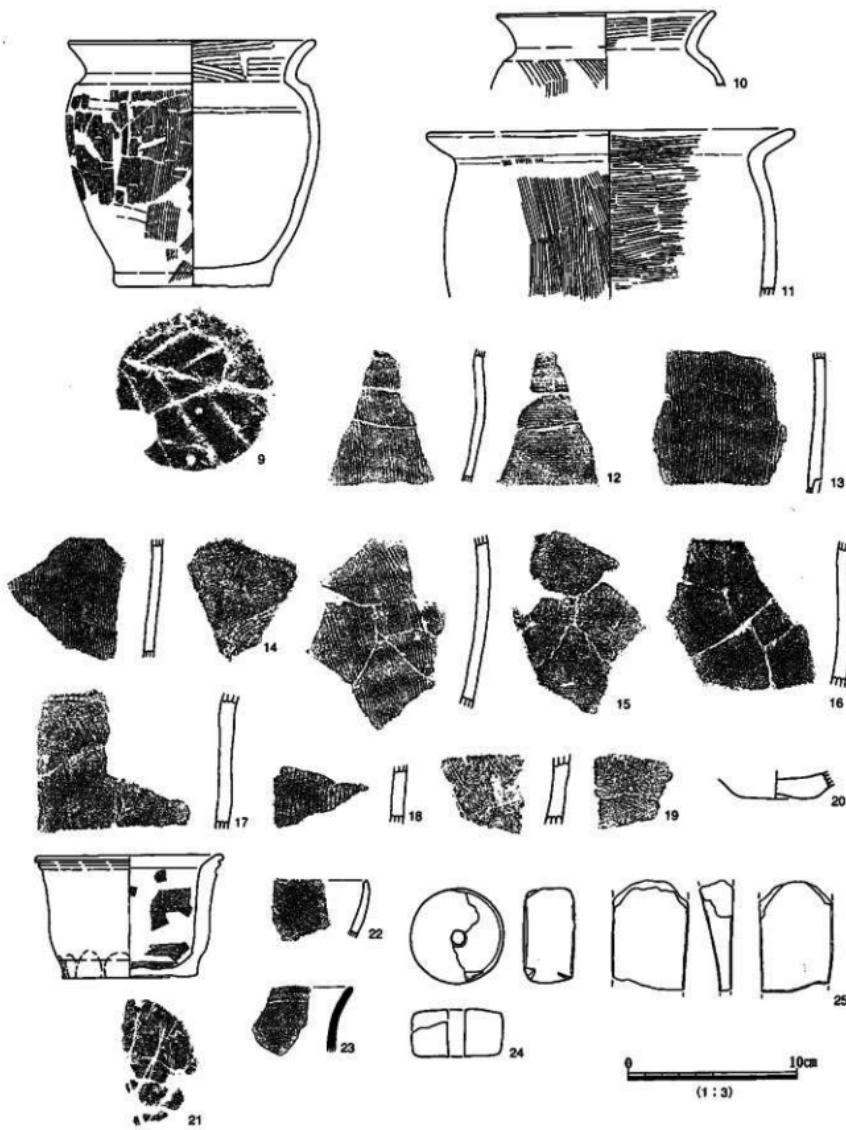
第13図 1号住居跡・2号住居跡出土遺物



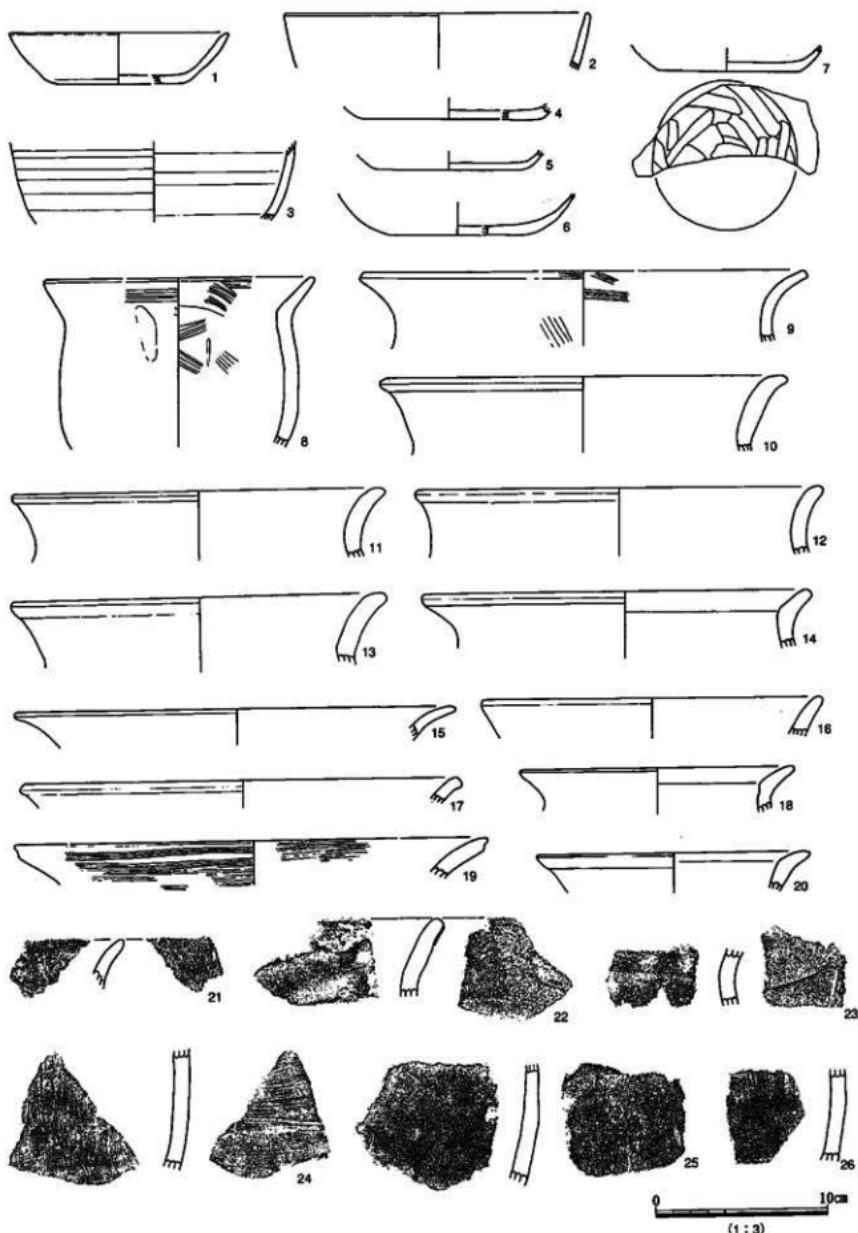
3号住居跡



第14図 3号住居跡・4号住居跡出土遺物(1)

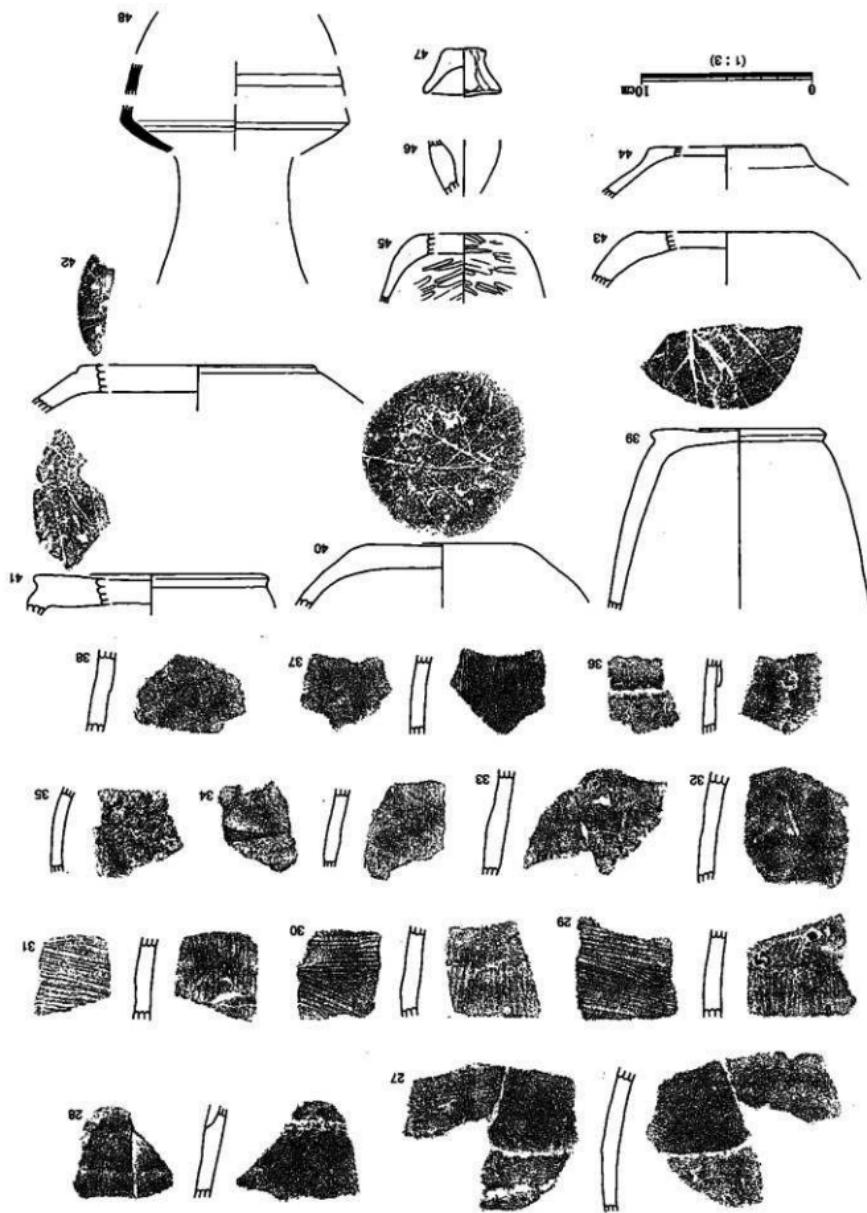


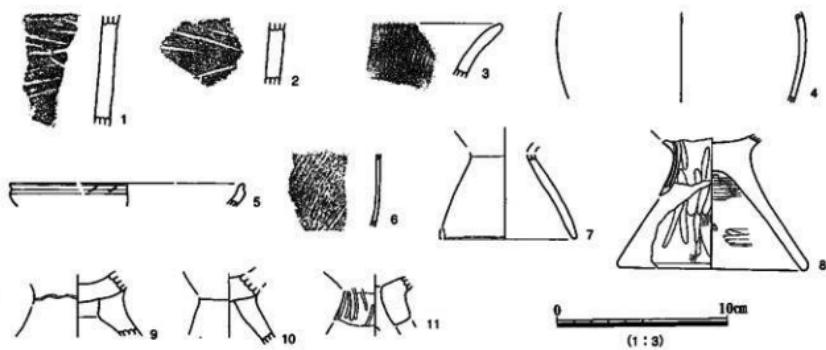
第15図 4号住居跡出土遺物(2)



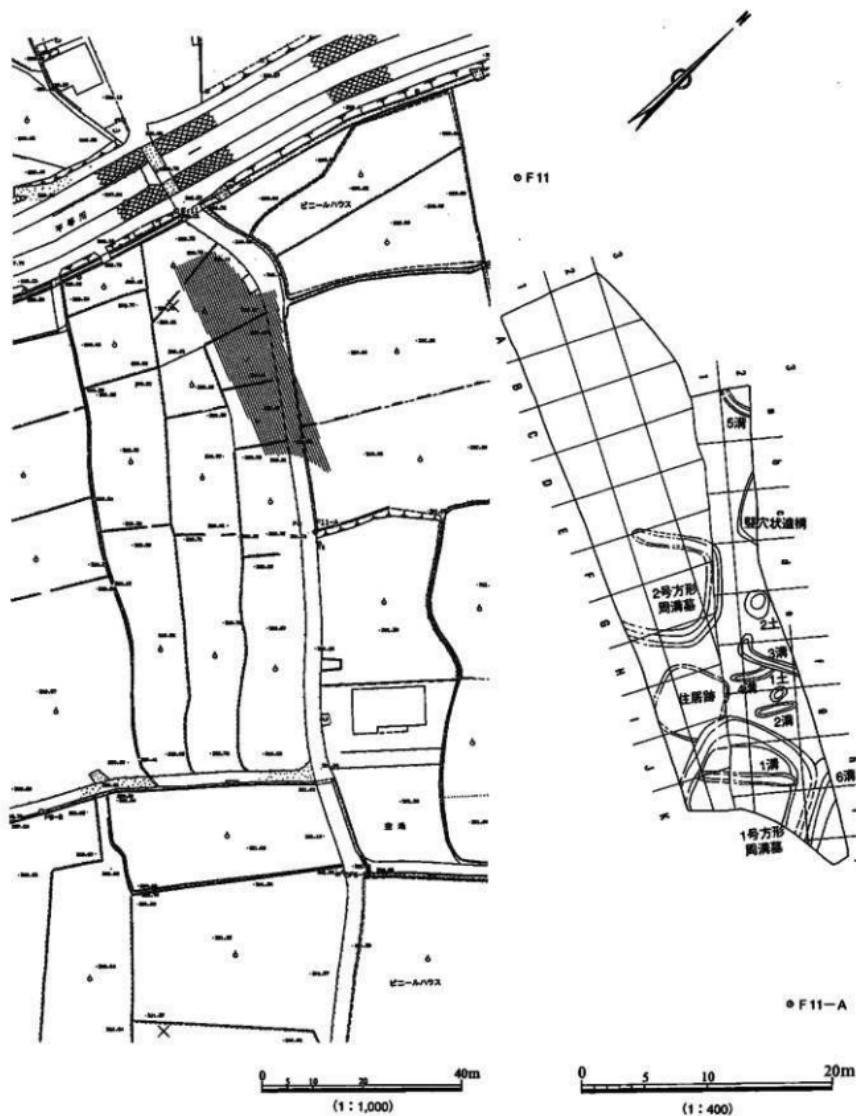
第16図 6号住居跡出土遺物（1）

第17图 6号住居跡出土遺物(2)

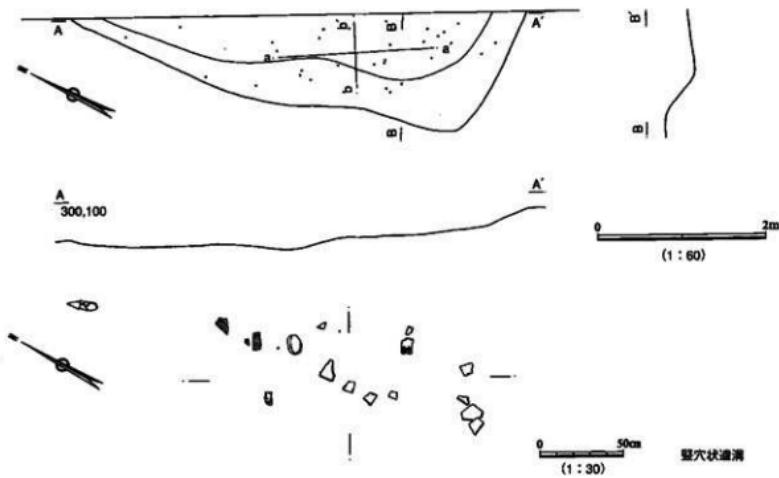
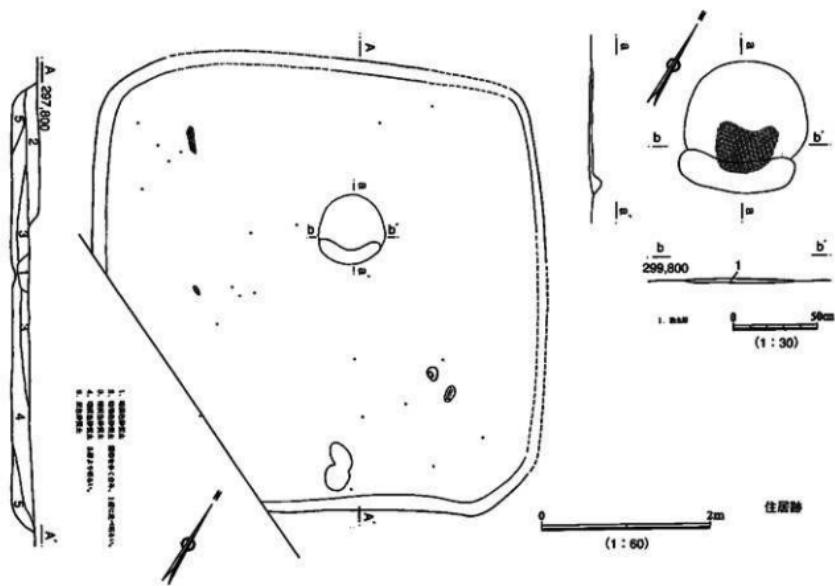




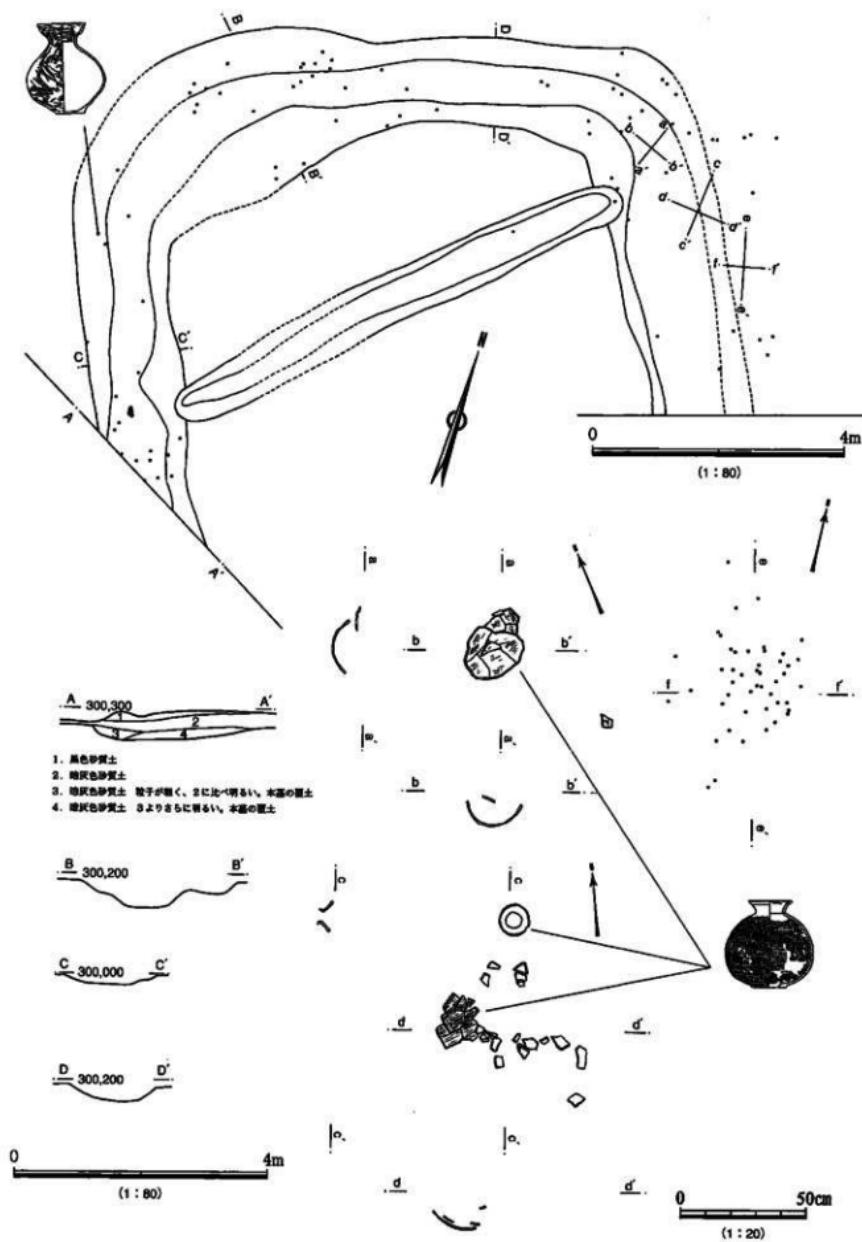
第18図 造構外出土遺物



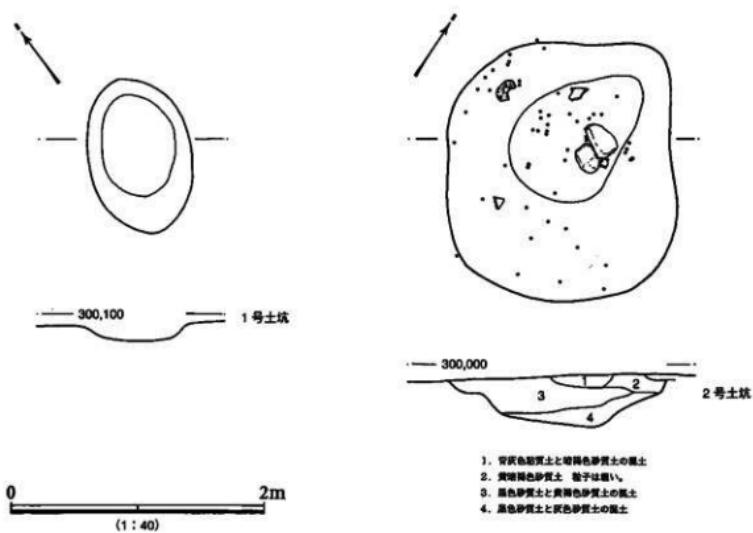
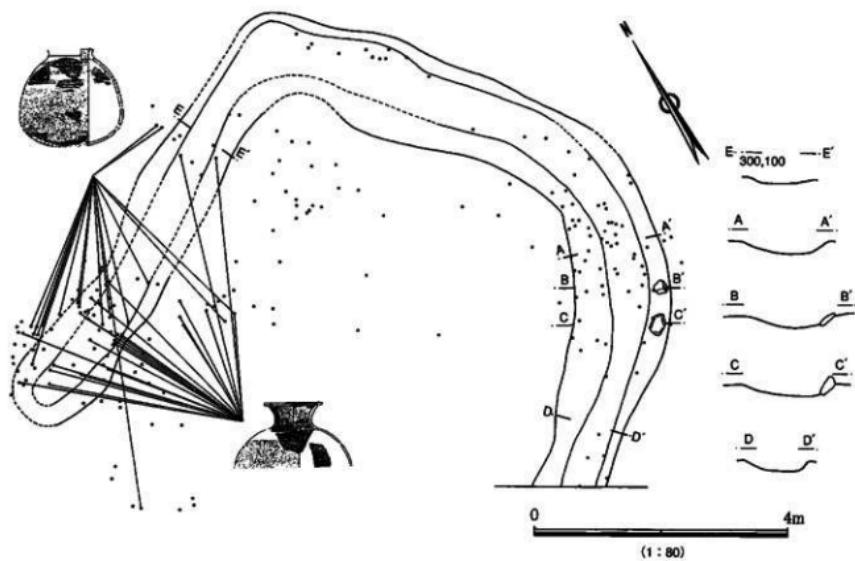
第19図 武家造跡位置図・全体図



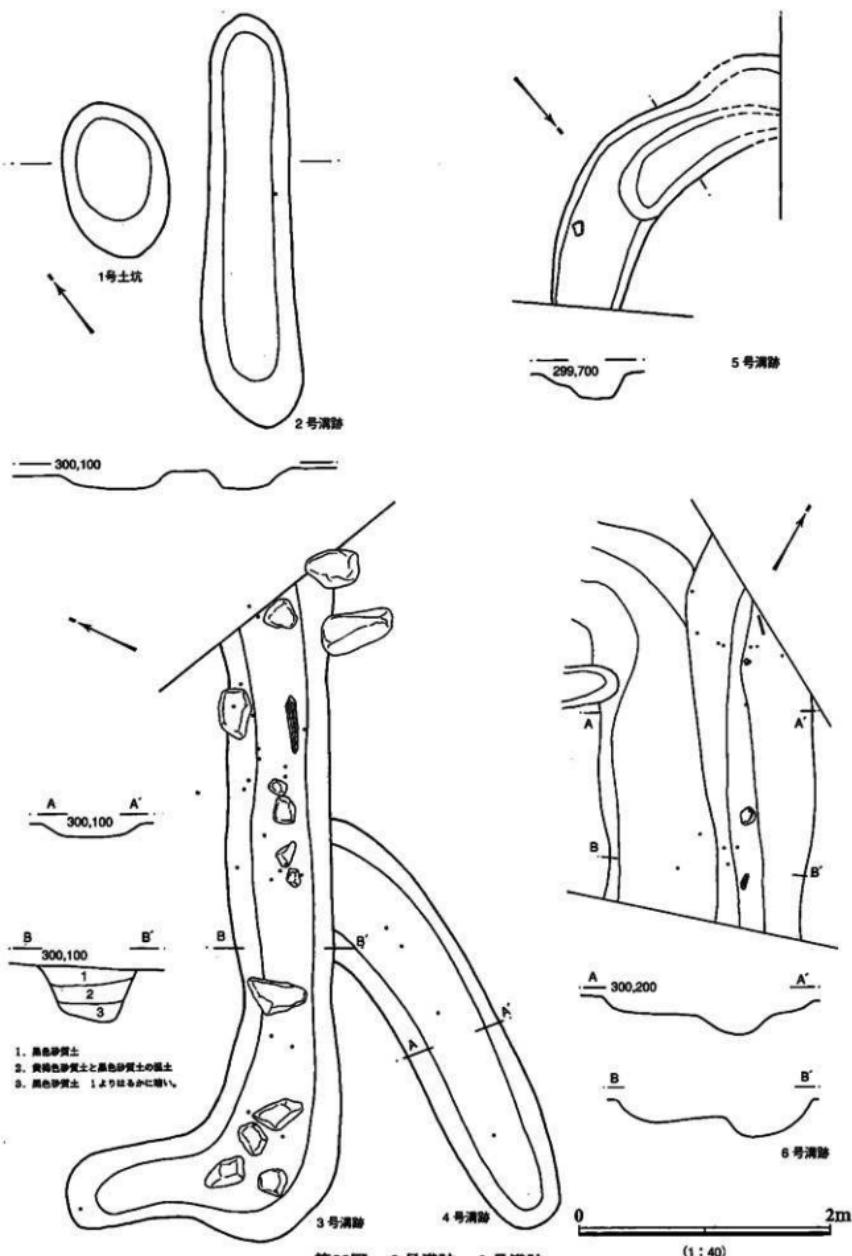
第20図 住居跡・竪穴状遺構



第21図 1号方形周溝墓・1号溝跡

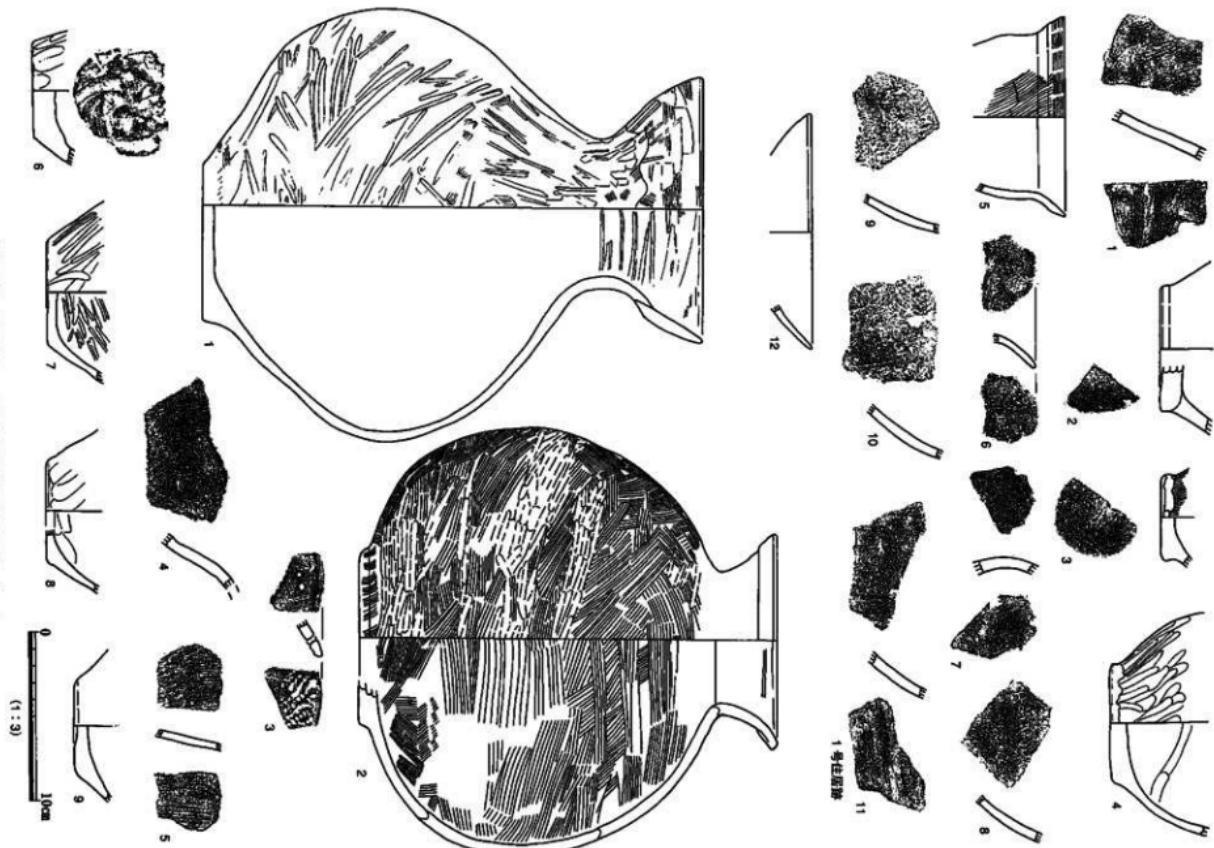


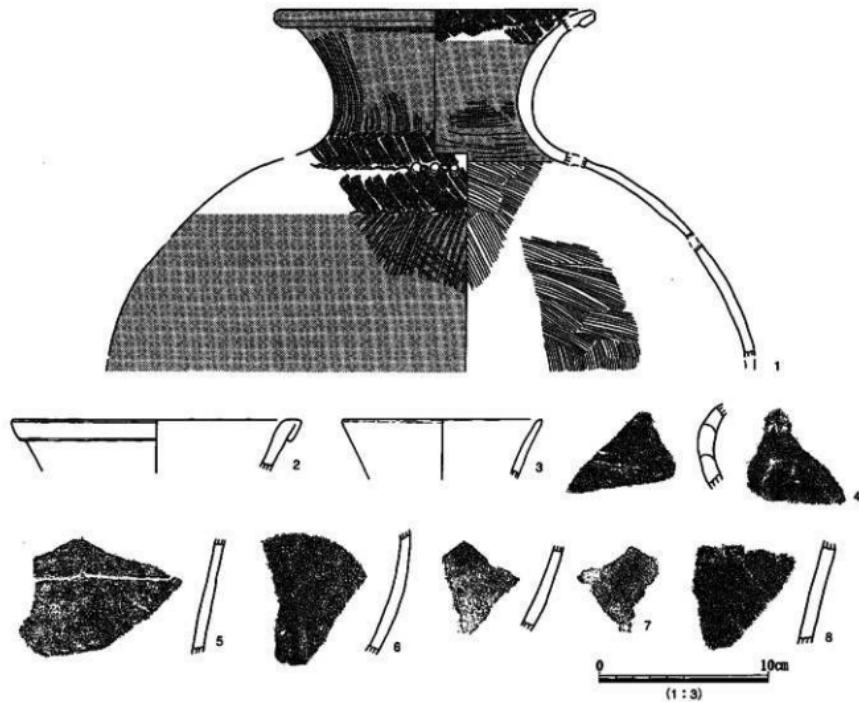
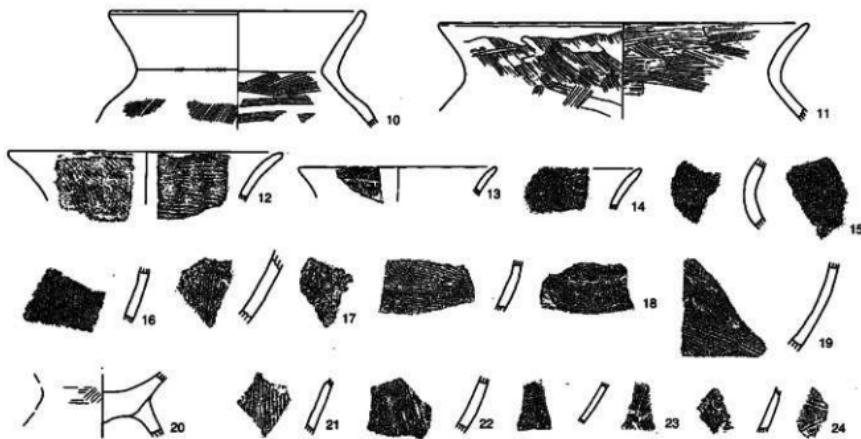
第22図 2号方形周溝墓・1号土坑・2号土坑



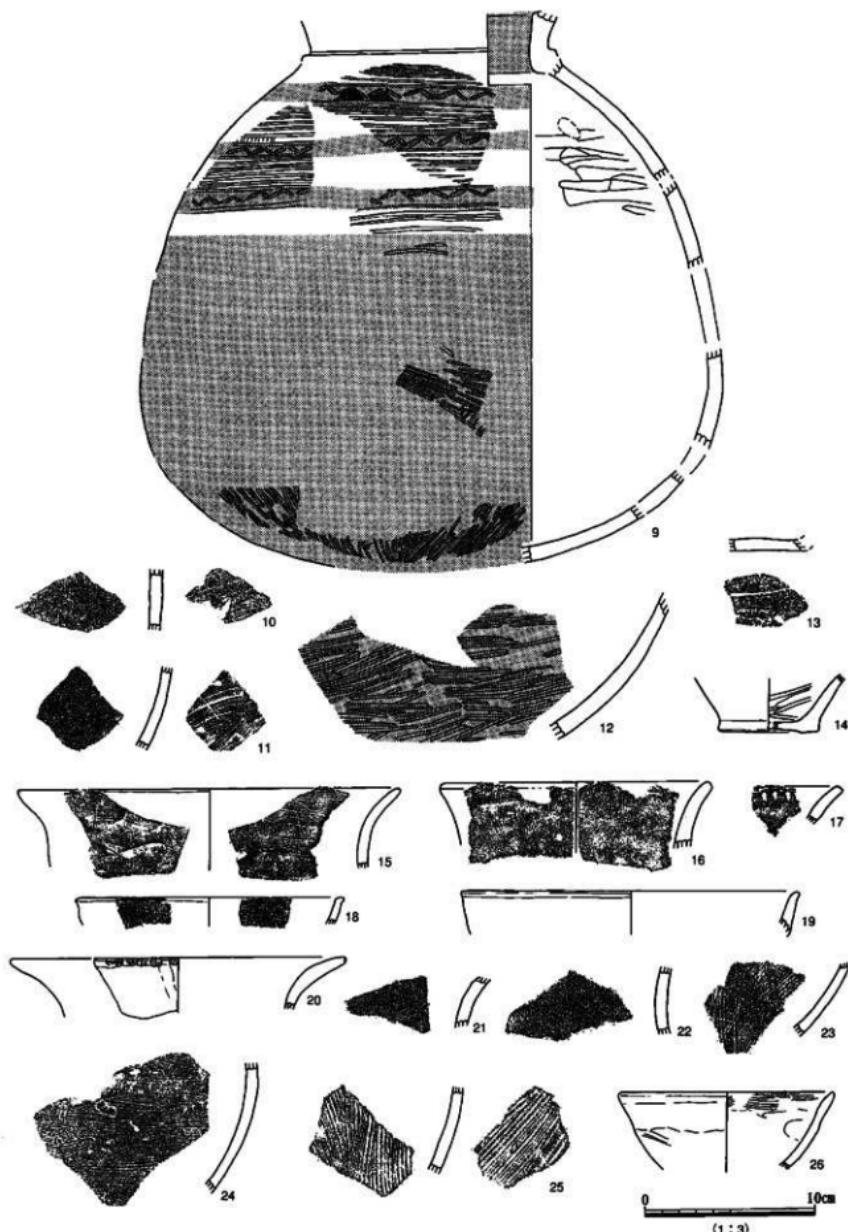
第23図 2号溝跡～6号溝跡

第244図 住居跡・1号方形周溝墓出土遺物 (1)

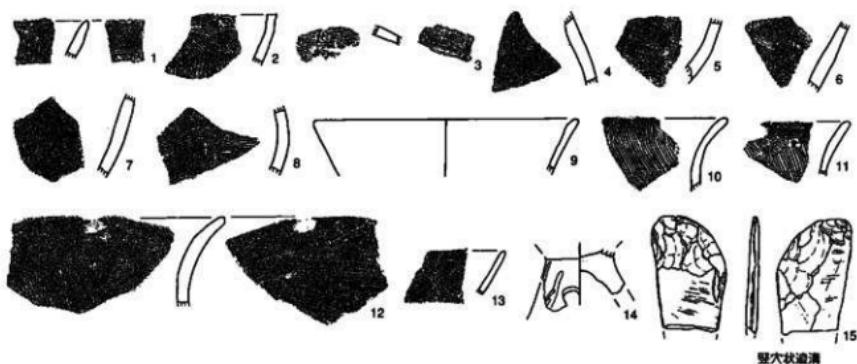




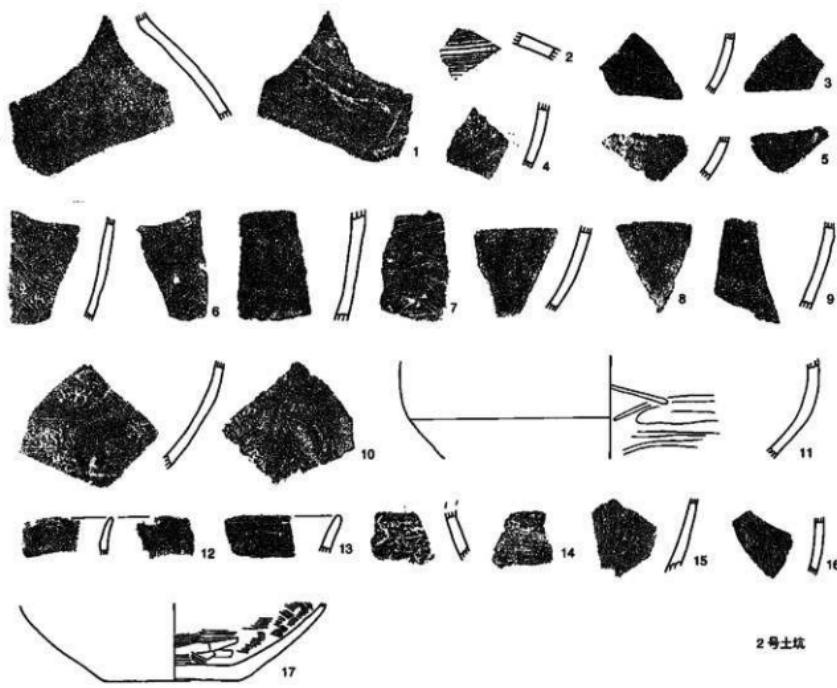
第25図 1号方形周溝墓(2)・2号方形周溝墓出土遺物(1)



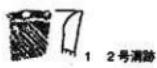
第26図 2号方形周溝墓出土遺物(2)



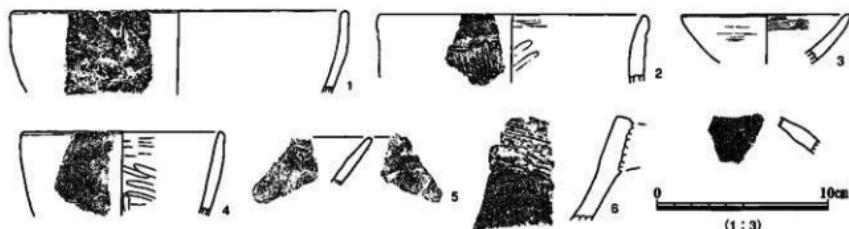
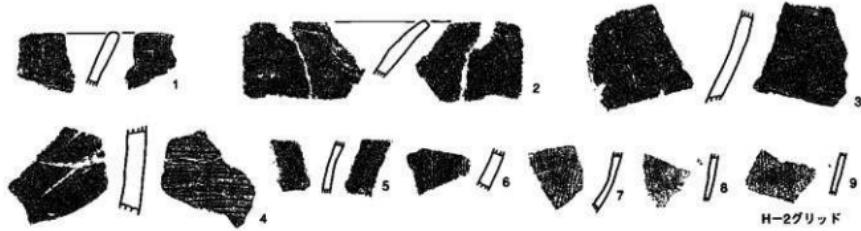
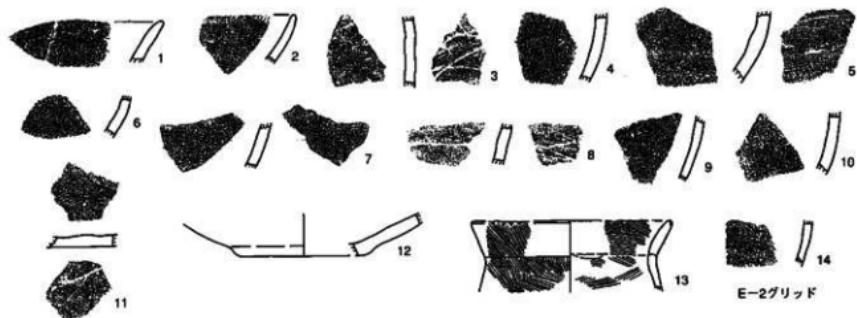
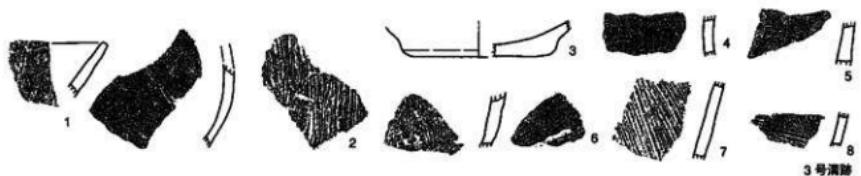
竖穴状追清



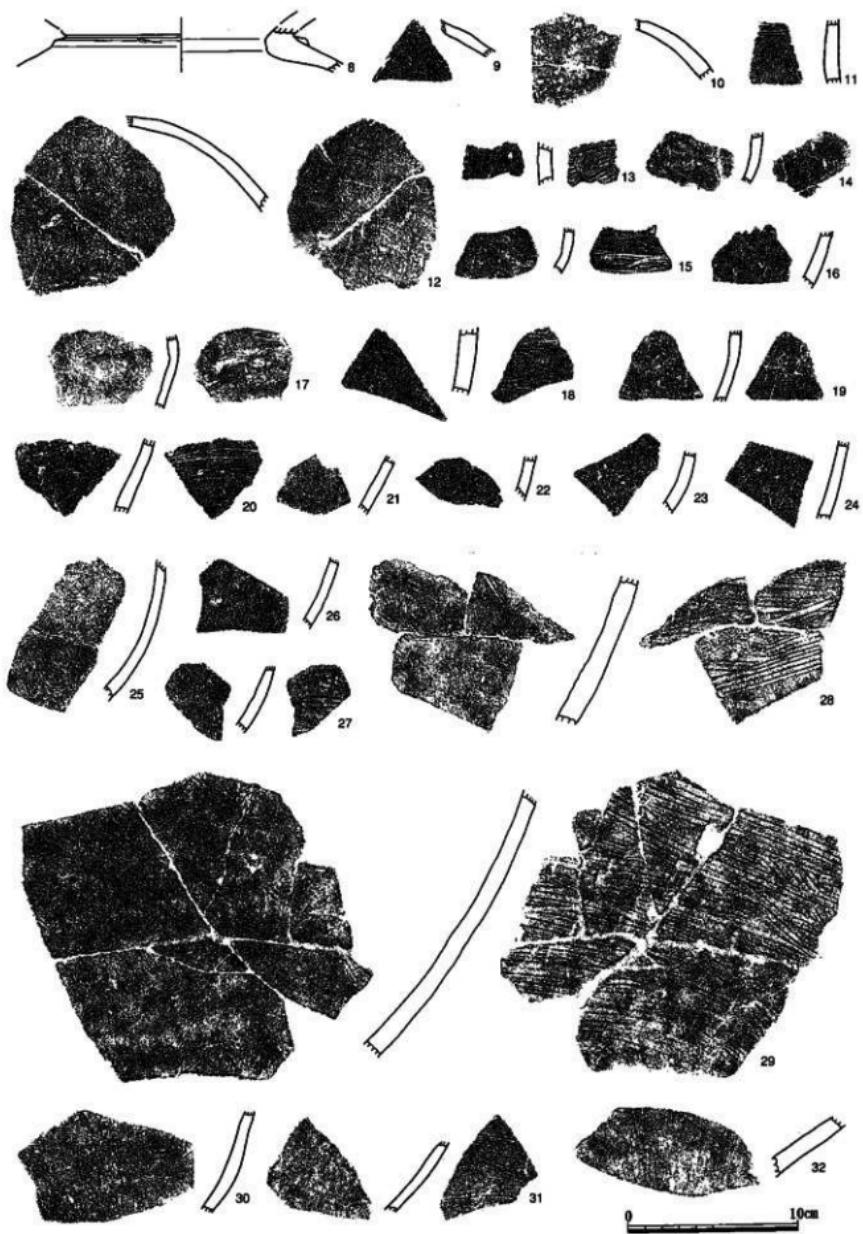
2号土坑



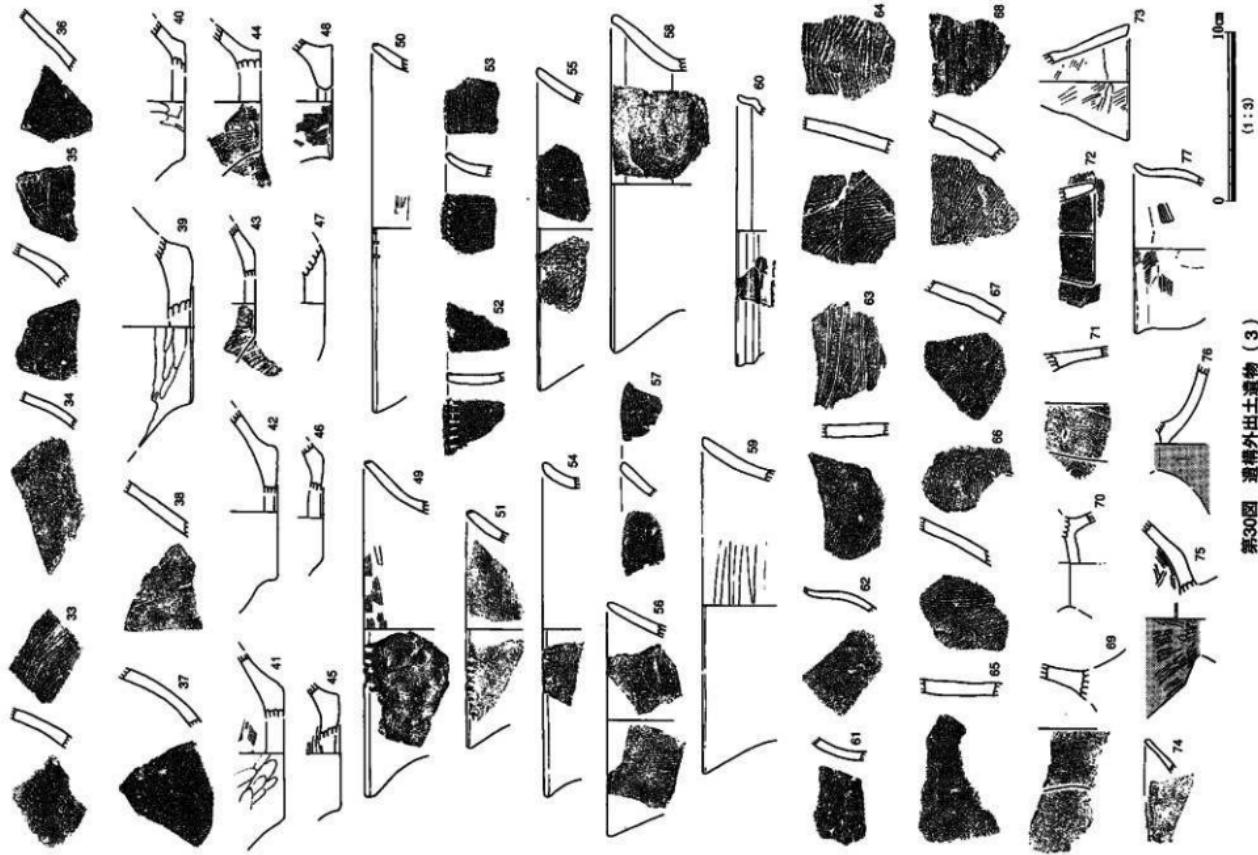
第27图 竖穴状造構・2号土坑・1号清跡・2号清跡出土遺物



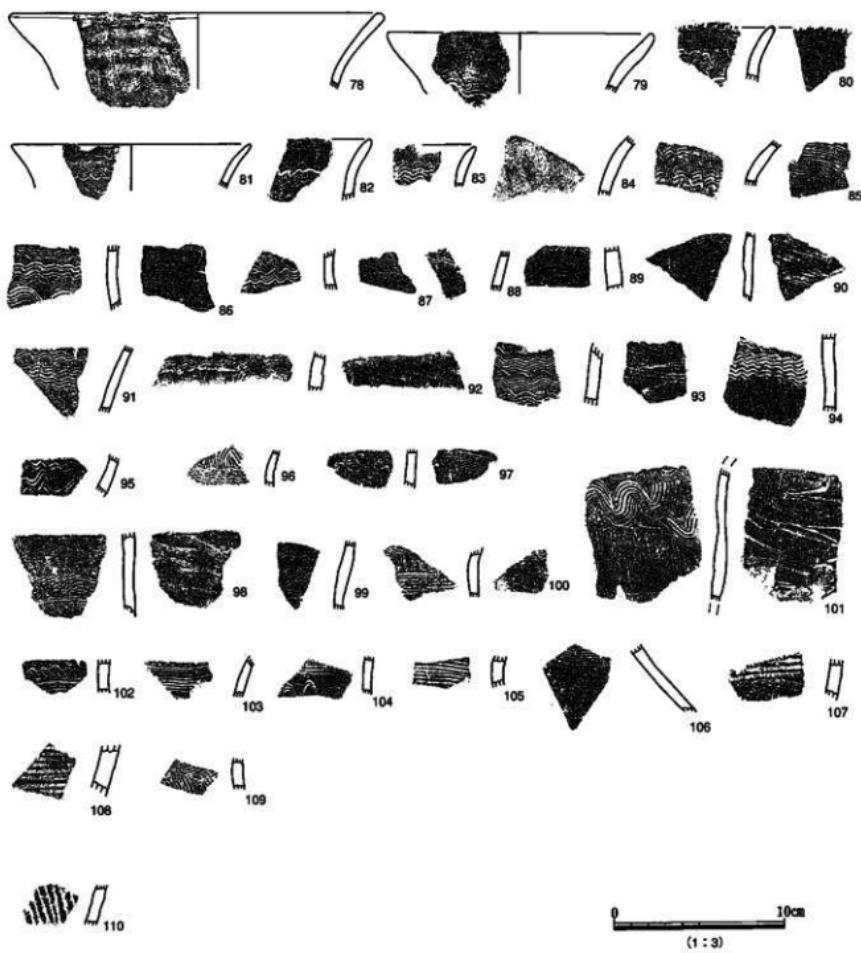
第28図 3号溝跡・4号溝跡・遺構外出土遺物 (1)



第29圖 遺構外出土遺物（2）



第30図 遺構外出土遺物（3）

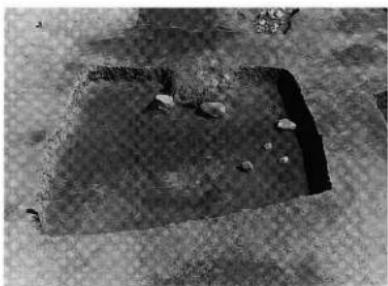


第31図 遺構外出土遺物（4）

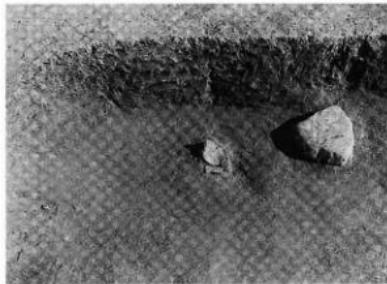
写真図版



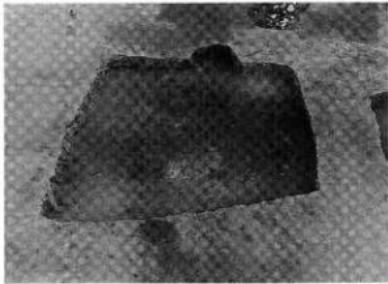
作業風景



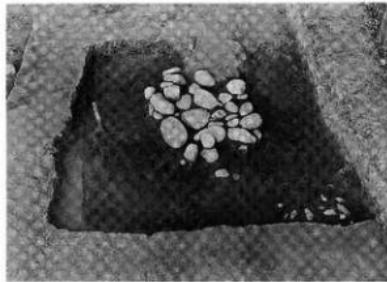
1号住居跡



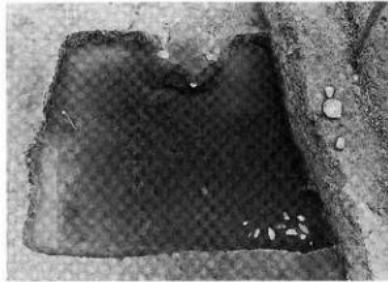
1号住居跡



1号住居跡

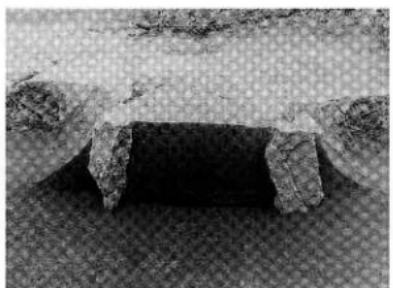


2号住居跡

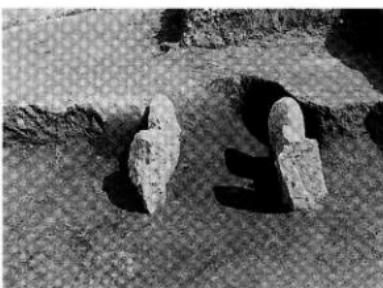


2号住居跡

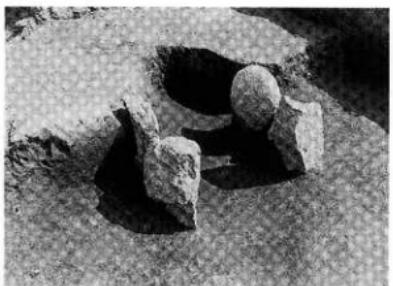
図版2 中沢遺跡



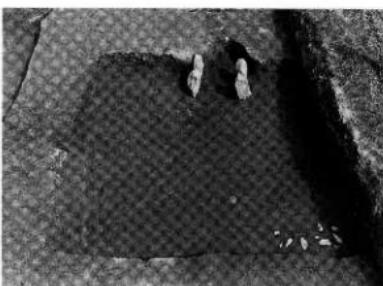
2号住居跡



2号住居跡



2号住居跡



2号住居跡

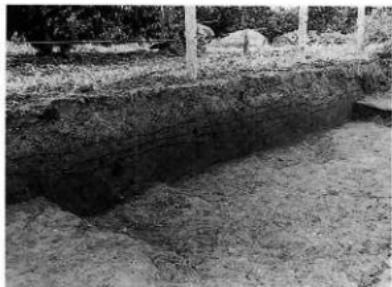


4号住居跡

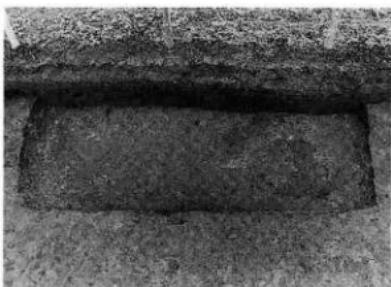


4号住居跡

図版 3 中沢遺跡



6号住居跡



6号住居跡



1号溝跡



1号溝跡



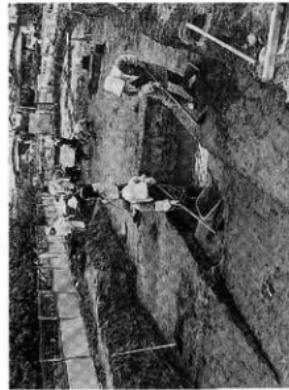
1号溝跡



1号溝跡



作業風景



作業風景



住居跡

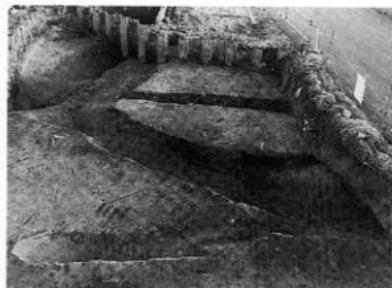


竪穴状遺構



竪穴状遺構

図版4 武家遺跡



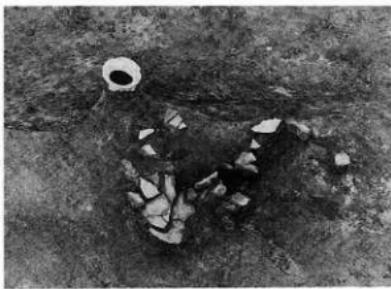
1号方形周溝基



1号方形周溝基



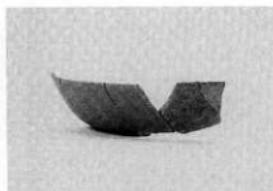
1号方形周溝基



1号方形周



2号方形周溝基



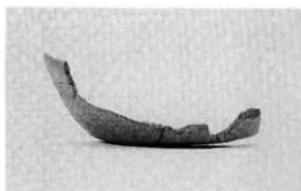
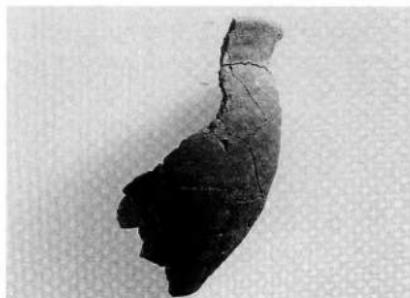
1号住居跡 (13-2)



1号住居跡 (13-8)



1号住居跡 (13-7)



2号住居跡 (13-1)



3号住居跡 (14-3)



4号住居跡 (14-1)



4号住居跡 (14-7)



4号住居跡 (14-8)



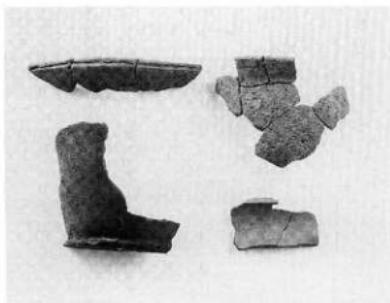
4号住居跡 (15-9)



4号住居跡 (15-11)



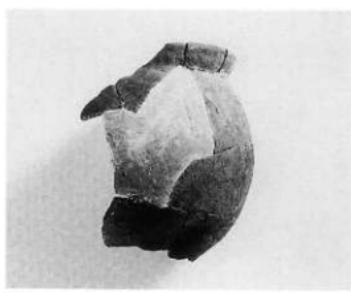
4号住居跡 (15-21)



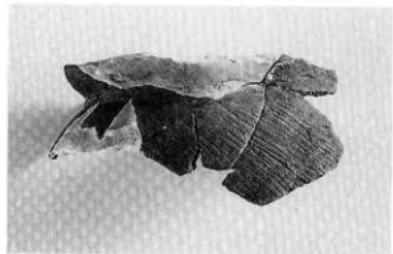
6号住居跡 (16-19・8)
(17-39・16-9)



6号住居跡 (17-47)



1号溝跡 (11-42)



1号溝跡 (11-53)



住居跡 (24-4)



1号方形周溝墓 (25-10)



1号方形周溝墓 (24-1)

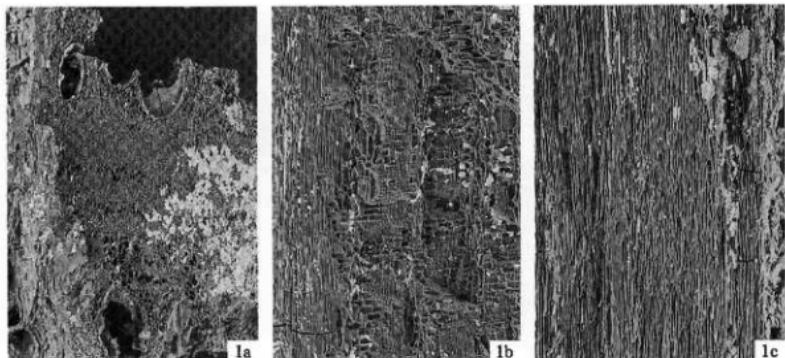


1号方形周溝墓 (24-2)



2号方形周溝墓 (25-1)





1. コナラ属コナラ亜属コナラ節（1号住居跡カマド；C-1）

a : 木口, b : 樋目, c : 板目

— 200 μ m:a
— 200 μ m:b,c

a : 水口, b : 植目, c : 报目

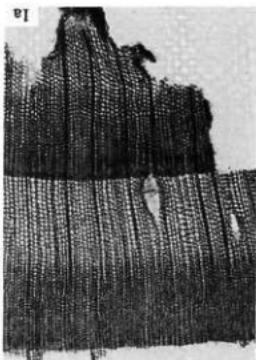
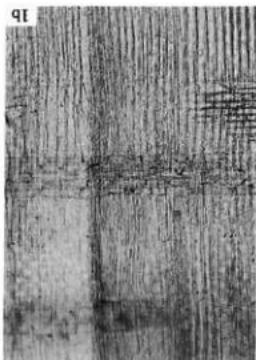
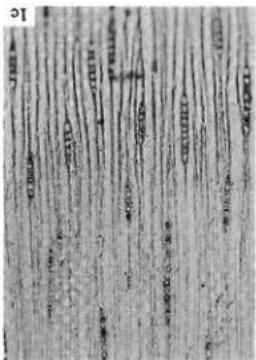
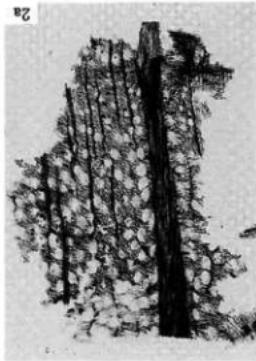
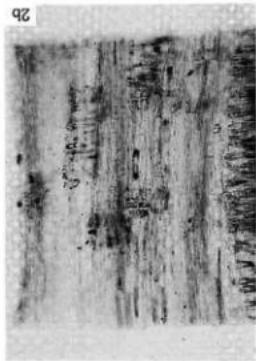
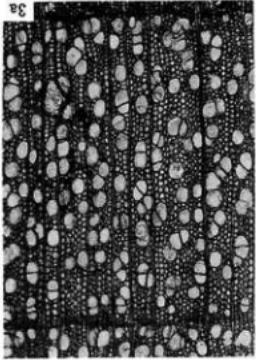
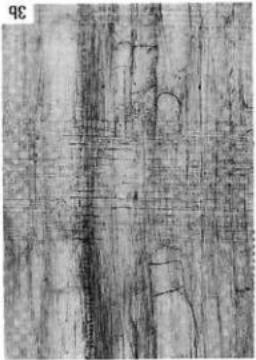
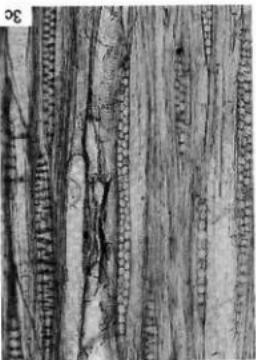
3. エラバノ (5号薄片: No. 1)

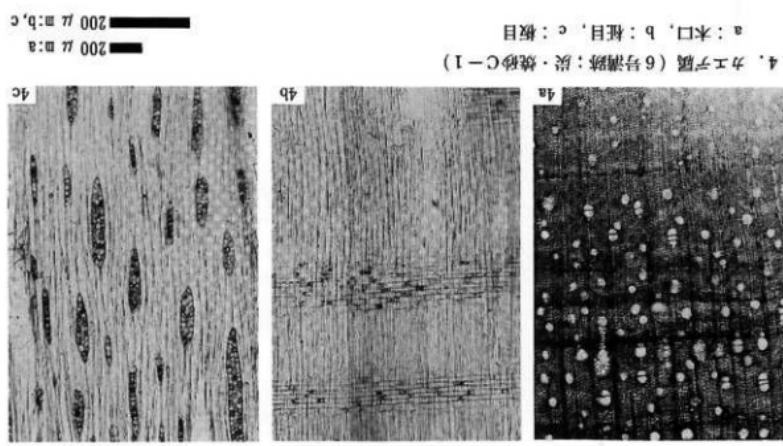
2. タガノ (3号薄片: No. 1)

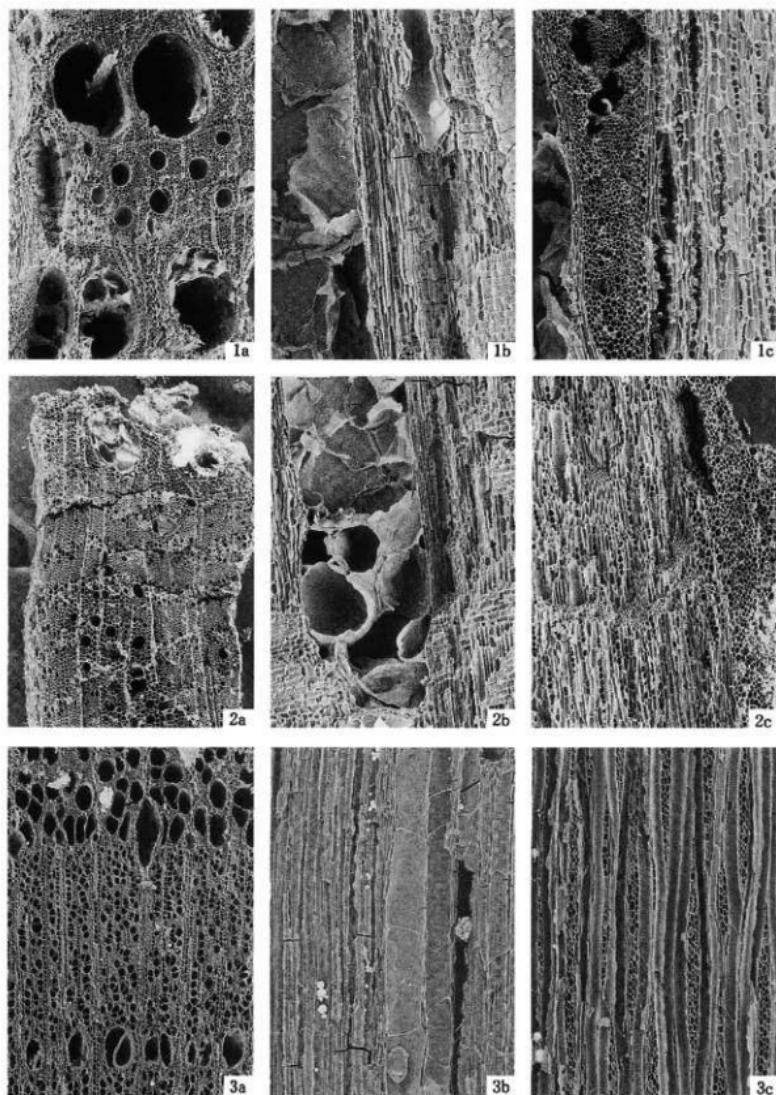
1. エリス (3号薄片: No. 1)

200 μ m b,c

200 μ m a







1. コナラ属コナラ亜属クスギ節（竪穴状遺構；土壤）

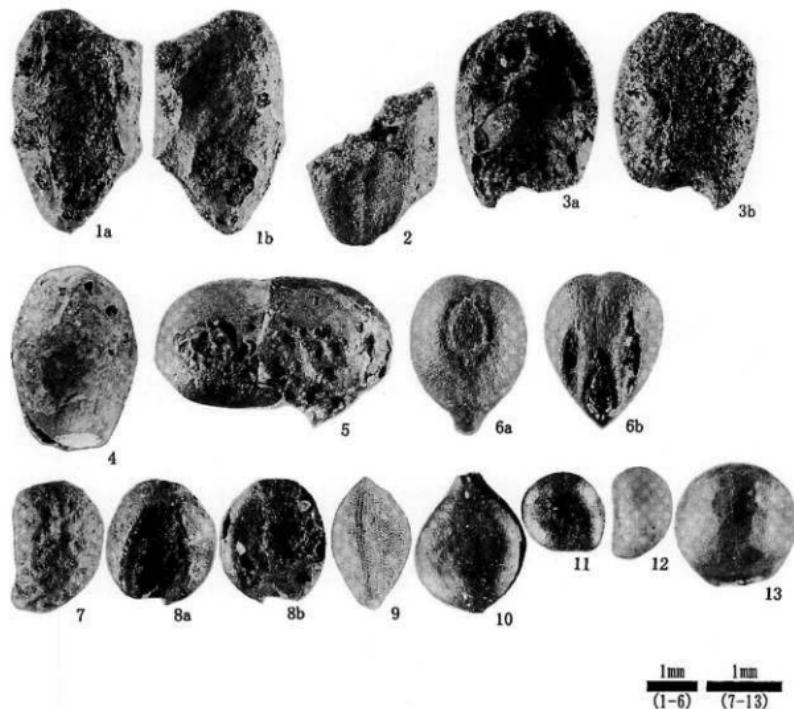
2. コナラ属コナラ亜属コナラ節（竪穴状遺構；土壤）

3. モモ（竪穴状遺構；炭 1）

a : 木口, b : 横目, c : 板目

200 μ m:a

200 μ m:b,c



1. イネ 胚乳（竪穴状遺構）
 2. イネ 胚乳（竪穴状遺構）
 3. コムギ 胚乳（竪穴状遺構）
 4. アサ 種子（竪穴状遺構）
 5. マメ類 種子（竪穴状遺構）
 6. ブドウ属 種子（竪穴状遺構）
 7. キイチゴ属 核（竪穴状遺構）
 8. アワーヒエ 胚乳（竪穴状遺構）
 9. カヤツリグサ科 果実（竪穴状遺構）
 10. タデ属 果実（竪穴状遺構）
 11. アカザ科 種子（竪穴状遺構）
 12. キジムシロ属—ヘビイチゴ属—オランダイチゴ属 核（竪穴状遺構）
 13. シソ属 果実（竪穴状遺構）

報告書抄録

ふりがな	なかざわいせき ぶけいせき
書名	中沢遺跡 武家遺跡
副書名	新環状・西関東道路建設工事に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第214集
著者名	長沢宏昌・浅川一郎・小林(石神)孝子
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地	〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923 TEL. 055-266-3016
発行者	山梨県教育委員会・山梨県土木部
発行日	2004年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
なかざわいせき 中沢遺跡	やまなしけんやまなしひ 山梨県山梨市 楚原224番地外	19205		35°	138°	2002 (H14)年	約 1200m ²	新環状 ・西関 東道路 建設工 事
ぶけいせき 武家遺跡	やまなしけんやまなしひ 山梨県山梨市 上岩下316番地外			41'	39'			
				00"	50"			
				35°	138°	9月2日～		
				40'	39'	12月2日		
				50"	40"			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中沢遺跡	集落跡	奈良時代	竪穴住居跡 5	土師器・石器など	奈良時代の集落跡
武家遺跡	集落跡	古墳時代 弥生時代	竪穴住居跡 1 方形周溝墓 2 溝 1	土師器 土師器	

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第214集

中沢遺跡・武家遺跡

—新環状・西関東道路建設工事に伴う発掘調査報告書—

印刷日 2004(平成16)年3月25日

発行日 2004(平成16)年3月30日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

発行 山梨県教育委員会

山梨県土木部

印刷 株式会社 ヨネヤ
